Studies on Asymmetric Syntheses of Benzophenanthridine Alkaloids and the Related Spiro Compounds: Studies on Chelidonine Synthesis and Total Synthesis of Arnottins I and II

2007 年

千葉大学大学院医学薬学府 創薬生命科学専攻 創薬資源科学講座 薬品製造学研究室

昆野 富士子

<第一部 Chelidonine の合成研究>

第一章 序論

·····1

•5
·14
·18
·19
·24

31
36
40
43
44
40
40
51
55

結語	56
追補	57
謝辞	59
実験の部	60
第一部実験項	
第五章	
第一節	
第二項 (Table 3)	61
第三項 (Table 4)	62
第二節	
第二項(Table 5)	65
第三項(Table 6)	66
第三節	
第二項 (Scheme 29, Table 7)	69
第四項 (Scheme 32)	72
第四節	
第二項 (Table 8)	73
第三項 (Table 9)	75
第五節 (Scheme 36, Scheme 37)	76
第二部実験項	
第二章	
第三節(Table 11)	79
第四節 (Scheme 43)	81
第三章	
第三節 (Table 12)	81
第四節 (Scheme 46)	84
第五節 (Scheme 47)	85
引用文献及び附註	87

Abbreviations

AIBN	2,2'-azo-bis-isobutyronitrile
Boc	<i>tert</i> -butoxycarbonyl
Cbz	benzyloxycarbonyl
CD	circular dichroism
CDI	1,1'-carbonyldiimidazole
<i>m</i> CPBA	meta-chloroperoxybenzoic acid
DBU	1,8-diazabicyclo(5.4.0)undec-7-ene
DDQ	2,3-dichloro-5,6-dicyano-1,4-benzoquinone
(DHQ) ₂ PHAL	1,4-bis(9-O-dihydroquinine)phthalazine
(DHQD) ₂ PHAL	1,4-bis(9-O-dihydroquinidine) phthalazine
EDTANa ₂	ethylenediaminetetraacetic acid disodium salt
Et ₃ SiH	triethylsilane
MsCl	methanesulfonyl chloride
NBS	Nbromosuccimide
NiBr ₂ (dppe)	1,2-bis(diphenylphosphino)ethane nickel (II) bromide
NHC	N heterocyclic carbene
NMO	4-methylmorpholine N oxide
TBDMS	tert-butyldimethylsilyl
TFA	trifluoroacetic acid
TFAA	trifluoroacetic anhydride
TMSCl	trimethylsilyl chloride
pTsOH·H ₂ O	para-toluenesulfonic acid monohydrate
$Pd(acac)_2$	palladium (II) acetyl acetonate
Pd(OAc) ₂	palladium (II) acetate
$Pd_2(dba)_3$	tris(dibenzylideneacetone)dipalladium (0)
Xantphos	9,9-dimethyl-4,5-bis(diphenylphosphino)xanthene

第一部 Chelidonine の合成研究

第一章 序論

Benzo[d]phenanthridine alkaloid は主としてミカン科 (Rutaceae) 並びにケシ科 (Papaveraceae) 植物に含有される alkaloid であるということが 1839 年 Probest により 初めて報告された。¹⁾ その後 130 年余りはこの alkaloid の構造についての研究が中心であ ったが、1971 年 Wall らにより既知の nitidine ²⁾ が、翌 1972 年 Farnsworth らにより fagaronine ³⁾ が、実験腫瘍に対し顕著な抗腫瘍活性を示すことが報告された後、研究対象は 合成へと変化し本型 alkaloid の化学は急速な進歩を遂げた。近年では抗結核菌活性を示すことも報告されている。⁴⁾

Benzo[*d*]phenanthridine alkaloid はその構造上、完全に芳香化した fully aromatized alkaloid (A) と母核の一部 (B、C 環) に脂環部分を持つ partially hydrogenated alkaloid (B) とに大別することができる。

前者については分子内に存在する酸素官能基の数によって O_4 、 O_5 、並びに O_6 -alkaloid に 分類可能である。更に O_4 -alkaloid に関しては C_2 , C_3 , C_8 , C_9 位に酸素官能基を持つ nitidine type と C_2 , C_3 , C_7 , C_8 位に酸素官能基を持つ chelerythrine type とに細分類され る (Table 1)。一方、後者については C_{10b} 位が水素である chelidonine type と C_{10b} 位にメ チル基を持つ corynoline type とに細分類される (Table 2)。⁵⁾

これまで芳香型 alkaloid (**A**) に関しては天然型、非天然型のものについて抗腫瘍活性、⁶⁾ DNA topoisomerase I 阻害作用、⁷⁾ HIV-1, HIV-2 reverse transcriptase 阻害作用、⁸⁾ protein kinase C 阻害作用、⁹⁾ angiotensin II AT₁ 阻害作用 ¹⁰⁾ など様々な薬理活性が検討されて いる。一方、脂環式 alkaloid (**B**) に関しては有糸分裂阻害作用、¹¹⁾ 抗腫瘍活性、¹²⁾ 抗真菌 活性、¹³⁾ 細胞接着阻害作用、¹⁴⁾ nitric oxide (NO) 産生抑制作用、¹⁵⁾ 抗セロトニン活性 ¹⁶⁾ な どが報告されているがその数は芳香型 alkaloid (**A**) に比べて少ないのが現状である。これは 脂環式 alkaloid (**B**) の合成例が少なく、更に光学活性体合成の報告は未だ無いなどの理由か ら種々の置換パターンを持つアナローグが供給されておらず、薬理活性は天然物及びその単純 な誘導体に対してしか検討されてこなかったことによる。

著者の研究室では従来、benzo[*d*]phenanthridine alkaloid が示す抗腫瘍活性の構造活性相 関を見出すべく合成研究に取り組んでおり、芳香型 alkaloid については 2-aryl-1-tetralone を鍵中間体とする一般合成法を確立している。脂環式 alkaloid については吉田ら ¹⁷⁾ により (±)-homochelidonine の合成を達成している 。 今回著者は、脂環式 alkaloid の光学活性体 合成法を開発すべく、(+)-chelidonine をターゲットとして合成研究に着手した。そのなかで 共通の中間体から芳香型及び脂環式 alkaloid の効率的な合成法も合わせて検討することに した。

1

Table 1-1: Fully Aromatized Alkaloids (A); O₄-Bases

Quaternary Bases

8,9-Oxygenated Bases



Nitidine; $R^{1}+R^{2}=CH_{2}$, $R^{3}=R^{4}=Me$ Avicine; $R^{1}+R^{2}=R^{3}+R^{4}=CH_{2}$ Fagaronine; $R^{1}=H$, $R^{2}=R^{3}=R^{4}=Me$ Terihanine; $R^{1}+R^{2}=CH_{2}$, $R^{3}=H$, $R^{4}=Me$

Dihydrobases

8,9-Oxygenated Bases



Dihydronitidine; R=Me Dihydroavicine; 2R=CH₂

Oxybases

8,9-Oxygenated Bases



Oxynitidine; R¹=R²=Me Oxyavicine; R¹+R²=CH₂ Oxyterihanine; R¹=H, R²=Me

Norbases

8,9-Oxygenated Bases



Nornitidine; R=Me Noravicine; 2R=CH₂ Decarine; R¹=Me, R²=H Isodecarine; R¹=H, R²=Me

7,8-Oxgenated Bases



Chelerythrine; $R^1+R^2=CH_2$, $R^3=R^4=Me$ Sanguinarine; $R^1+R^2=R^3+R^4=CH_2$ Fagaridine; $R^1+R^2=CH_2$, $R^3=H$, $R^4=Me$ 7,8-Demethylenesanguinarine; $R^1+R^2=CH_2$, $R^3=R^4=H$ Punctatine; R^1 , R^2 , R^3 , $R^4=Me$ x3, H x1

7,8-Oxgenated Bases



Dihydrochelerythrine; R=Me Dihydrosanguinarine; 2R=CH₂

7,8-Oxgenated Bases



Oxychelerythrine; R=Me Oxysanguinarine; 2R=CH₂

7,8-Oxgenated Bases



Norchelerythrine; $R^1=R^2=Me$ Norsanguinarine; $R^1+R^2=CH_2$ O-Acetyldecarine; $R^1=Me$, $R^2=Ac$

Table 1-2: Fully Aromatized Alkaloids (A); O₅- and O₆-Bases

O₅-Bases

Quaternary Bases





Table 2: Partially Hydrogenated Alkaloids (B)

第二章 これまでの Chelidonine 及び関連化合物の合成研究の概要

Chelidonine は 1839 年、Probst¹⁾により クサノオウ *Chelidonium majus* L. (Papaveraceae) の 根より単離されたアルカロイドで、その絶対構造は 1979 年 Takao ら¹⁸⁾により決定され、B/C 環が *cis* に縮環し、11 位に *R* 配置の水酸基を持つことが解った。その後、Kamigauchi ら¹⁹⁾ の X 線結晶解析により B 環は half-chair 型、C 環は twist half-chair 型をとり、11 位の水酸 基と窒素との間に水素結合があることが明らかとなった。

この様に構造解析に関する研究は精力的になされているものの、chelidonineの合成例は少な く、更に不斉合成の例は未だにないのが現状である。本章では chelidonine の合成例とこの他 の脂環式 alkaloid の合成例について概略を述べる。

第一節 Oppolzer らによる benzocyclobutene 誘導体を経由した (±)-Chelidonine の合成

1971 年、Oppolzer ら²⁰⁾ は amide 1 を bromobenzene 中で加熱すると *trans* に縮環した 2 が得られ、対照的に urethane 3 からは *cis* 体 4 が得られることを見出した (Scheme 1)。

Scheme 1. Stereoselective Construction of Partial Hydrogenated benzo[c]phenanthridine



この反応を chelidonine 合成に応用することとし、基質となる ethynyl benzocyclobutene 10 を benzaldehyde 5 と benzocyclobutene 6 から全9工程で合成した (Scheme 2)。

Scheme 2. Synthesis of Ethynyl Benzocyclobutene 10



Benzocyclobutene **10** を *o*-xylene 中で加熱し分子内 Diels-Alder 反応により 4 環性化合物 **11** としハイドロボレーション酸化により alcohol **12** とした。 Alcohol **12** は 4b-H, 11b-H の立体 化学が *cis*: *trans* = 1:1 の混合物として得られ、カラムクロマトグラフィーにより精製するこ とで *cis* 体を分離した後、酸化して *cis*-ketone **13** とした。Ketone **13** を還元して目的の立体配 置を持つ alcohol **14** とし窒素保護基を除去して (±)-norchelidonine を得、これを *N*-メチル化し て (±)-chelidonine を得ている (Scheme **3**)。





この研究が脂環式 alkaloid の最初の合成例であるが、本反応は benzocyclobutene 10 までの 通算収率が低く、また、ハイドロボレーション酸化による酸素官能基の導入にジアステレオ選 択性が見られないなどの欠点を有している。 第二節 Cushman らによる Isoquinolone を中間体とする (±)-Chelidonine の合成

1980 年、Cushman ら²¹⁾は2例目となる (±)-chelidonine の合成を報告した (Scheme 4)。

Scheme 4. Total Synthesis of (±)-Chelidonine *via* Diazoketone 18 by Cushman *et al.*



Schiff base **15** と homophthalic anhydride **16** を縮合して isoquinolone **17** とした。このものは diazoketone **18** にした後 TFA で閉環し *cis* に縮環した ketone **19** を得ている。次いで amide 及び ketone を還元し (±)-chelidonine としている。工程数は短いものの縮合反応におけるジア ステレオ選択性が低いこと、diazoketone の閉環反応における収率が悪いという問題点がある。

第三節 Ninomiya らによる Enamide の光閉環反応を利用した (±)-Homochelidonine の合成

1969 年、Ninomiya ら²²⁾ は enamide の光閉環反応を利用して (±)-homochelidonine の最初 の全合成に成功した。Enamide **20** の光閉環は予想された空位の *ortho* 位の方向には起こらず、 既にメトキシ基が存在する *ipso* 位に起こり、メトキシ基を失った **21** を与えることを明らか にした (Scheme 5)。

Scheme 5. Photocyclisation of Enamide 20





Scheme 6. Total Synthesis of (±)-Homochelidonine from 23 by Ninomiya *et al.*

これを (±)-homochelidonine の合成に利用した。Trimethoxyenamide 23 の光閉環反応により生成した 2 種類の環化体 24a, 24b を分離し、そのうち 24a を Pb(OAc)₄、次いで CrO₃ にて酸化し *ortho*-quinone 25 とした。 25 は LiAlH₄ 及び PtO₂ / H₂ で処理して glycol 26 に変換後 C₁₁ 位の水酸基を反転させ、更に C₁₂ 位の加水素分解により (±)-homochelidonine を合成した (Scheme 6)。

この方法は閉環部位にメトキシ基を導入することで閉環を位置選択的に行える点で興味深い合成法である。しかし、(1) 閉環部位に余分のメトキシ基を導入した原料を必要とし、原料合成の工程数が増えること、(2) 両 ortho 位にメトキシ基がある場合の位置選択性が無いこと、(3) 光閉環反応や還元反応の収率が低いこと等が難点であると言える。

第四節 Hanaoka らによる Berberine を用いた (±)-Homochelidonine の合成

Benzo[*c*]phenenthridine alkaloid の生合成ルートは Battersby ら²³⁾によって提出されている (Scheme 7)。L-Tyrosine より生成した (*S*)-reticurine が berberine 閉環を経て四環性化合物 29 を与え、29 の C₆-N 結合が開裂しアルデヒド基を持つ enamine 30 が生成する。次いでこの 30 の C₁₃ 位と aldehyde 基が反応して中間体 31 となり還元を受ければ、chelidonine に、そ して酸化を受ければ sanguinarine を与えるとするものである。

Scheme 7. Biosynthetic Pathway for Chelidonine and of Other Alkaloids derived from the Tetrahydroprotoberberine Skeleton Proposed by Battersby *et al.*



1985 年、Hanaoka ら²⁴⁾ はこの生合成ルートに沿った bernerine より (±)-homochelidonine への変換反応を報告した (Scheme 8)。この方法は berberine より2工程で導かれる四級塩 32 の Hofmann 分解を行い dihydroisoquinoline 33 とし、更に *m*CPBA によるエポキシ化とそれ に続く NaBH₄ による還元、次いで酸性条件下での閉環反応によって B/C *cis*-tetrahydrobenzo[*c*]phenanthridine 36 を得た。この 36 は過ギ酸によるエポキシ化と塩基性加 水分解により glycol 37 とした後に Et₃SiH で ベンジル位水酸基を還元的に除去し (±)-homochelidonine を合成するというものである。

この方法は berberine が比較的安価に大量入手可能である為、homochelidonine そのものの 大量合成には適している。しかし、その他の alkaloid を合成する場合は出発原料として対応 する berberine 型塩基の合成を行う必要があり、脂環式 alkaloid の実用的合成法とは言い難い。

9



Scheme 8. Total Synthesis of (±)-Homochelidonine from Berberine by Hanaoka et al.

第五節 Ninomiya らによる (±)-Corynoline の合成

Ninomiya ら²⁵⁾は、第三節で述べた enamide の光環化反応を利用して (±)-corynoline の合成 を行った (Scheme 9)。 これは enamide 38 を光環化反応と続く NaBH₄ 還元により *cis*-lactam 40 とし、DDQ による酸化と LiAlH₄ 還元を行い tetrahydrobenzo[*c*]phenanthridine 41 を合成した。この 41 をエポキシ化、加水分解、加水素分解し (±)-corynoline を得る方法 である。

Scheme 9. Total Synthesis of (±)-Corynoline from Enamide 38 by Ninomiya *et al.*



この方法も彼らの (±)-homochelidonine の合成²²⁾ と同様に、光環化反応や還元反応の収率 の低さが欠点であると言える。

第六節 B/C cis-Hexahydrobenzo[c]phenanthridine の合成例

脂環式 alkaloid の基本骨格となる、B/C *cis*-hexahydrobenzo[*c*]phenanthridine の合成例も多数 報告されている。本節ではそれらの例を紹介する。

第一項 Chiral Phase-Transfer Catalyst (CPTC) を 用 い た Chiral B/C *cis*-Hexahydrobenzo[*c*]phenanthridine の合成

Onda ら²⁶⁾ は naphthoquinone **43** を chiral phase-transfer catalyst である 1-benzylquininium chloride (BQC) の存在下、エポキシ化することにより naphthoquinone oxide (+)-**44** を合成した。 この (+)-**44** を還元して epoxyhydroxy lactone (-)-**45** へと変換後、MeNH₂ にて処理することにより trihydroxy lactam (+)-**46** を得た。(+)-**46** は還元後、MsCl 次いで LiAlH₄-AlCl₃ と反応させ (4b*S*,10b*R*,11*R*)-hexahydro-11-hydroxybenzo[*c*]phenanthridine [(+)-**48**] の合成に成功した (Scheme **10**)。

Scheme 10. Synthesis of Chiral Benzo[c]phenanthridine (+)-48 Using Chiral Phase-Transfer Catalyst



第二項 (+)-Pseudoephedrine を Chiral Auxiliary として用いる Chiral B/C *cis*-Hexahydrobenzo[*c*]phenanthridine の合成

Vicario ら²⁷⁾ は (+)-pseudoephedrine と phenylacetic acid **49** から調製した amide **50** を、塩 基性条件下 phenyliodoethane **51** と反応させることで高いジアステレオ選択性で amide **52** が 得られることを報告した(**Scheme 11**)。

Scheme 11. Alkylation of Amides 50 with (+)-Pseudoephedrine as Chiral Auxiliary



彼らはこの amide **52** を加水分解後、carboxylic acid **53** とし、分子内 Friedel-Crafts 反応により光学活性な tetralone **54** を得た。**54** は還元的アミノ化によりアミノベンジル基を導入後、 Pictet-Spengler 反応にて閉環し (4b*R*,10b*S*)-hexahydrobenzo[*c*]phenanthridine **56** を合成した (**Scheme 12**)。

Scheme 12. A New General Method for the Asymmetric Synthesis of Benzo[*c*]phenanthridines from Amide 52



第三項 Tetralone-oxime からの B/C cis-Hexahydrobenzo[c]phenanthridine の合成

Zhang ら²⁸⁾ は tetralone-oxime **57** を Ac₂O 存在下、Fe-TMSCI で処理すると還元的アミノ 化が進行し acetyl enamide **60** が得られることを報告した (Scheme 13)。

Scheme 13. Reduction of Oxime by Fe-TMSCl System



当研究室の吉田ら²⁹⁾は、この反応を利用しtetralone-oxime **61** を Ac₂O-HCOOH より調製 した酸無水物及び Fe-TMSCI で処理し、高収率で formyl-enamide **62** を得た。この formyl-enamide **62** を N-メチル化後、Bischler-Napieralsky 反応で閉環し、NaBH₄ 還元により enamine **65** とした。このものは酸性条件下 NaBH₃CN で還元し、 hexahydrobenzo[*c*]phenanthridine **66** を得た (Scheme 14)。

Scheme 14. Alternative Synthesis of B/C-*cis* Hexahydrobenzo[*c*]phenanthridine from 2-Phenyl-1-tetralone



第三章 当研究室における Benzo[*c*]phenanthridine Alkaloid の合成研究 の経緯

第一節 Chelerythrine (芳香型 Alkaloid) の合成

当研究室の武田は 1992 年に chelerythrine の合成に成功している。³⁰⁾ 合成ルートを Scheme 15 に示す。Isovaniline から誘導される 67 を Claisen 転位により benzofuran 68 とし、これと acetophenone 69 との Claisen-Schmidt 反応で chalcone 70 とした後、 増炭、加水分解、還元、閉環を経て 2-benzofuranyl-1-tetralone 71 を得た。これに窒素官能 基を導入して 72 とした後、chloral で *N*-methylformamide 73 に誘導し、芳香化して 2-aryl-1-aminonaphthalene 74 とした。74 のフラン環を OsO4 及び HIO4 で開裂し得られ た salicylaldehyde 75 を メチル化した後、酸加水分解を行い、脱ホルミル化と同時に開環し て目的とする chelerythrine を得ている。



Scheme 15. Total Synthesis of Chelerythrine from Isovaniline by Takeda

Claisen 転位による4置換ベンゼンの合成、フラン環の酸化的開裂による salicylaldehyde の合成等、有用な反応を含む方法であるが、linear な合成経路であるためその工程数に問題 が残っている。

当研究室の吉田は 2002 年に (±)-homochelidonine の合成に成功している。¹⁷⁾ この合成 法は arnottin II を鍵中間体とし、立体選択的に homochelidonine へと導くユニークな方法 である。合成ルートを Scheme 16 に示す。





2-Aryl-1-tetralone 71 を塩基性条件下、空気酸化により 2-aryl-2-hydroxytetralone 78 とし、 次いでフラン環をオゾン分解、 続く Jones 酸化により spiro 体 79 を得た。 79 を官能基 変換して dihydroarnottin II (80) とし、ベンジル位を臭素化、脱臭化水素化して (±)-arnottin II を得た。このものを OsO4 で酸化して C_2 , C_3 , C_4 位の酸素官能基が全て *cis* に配置した diol 81 とした。この 81 を acetal で保護して 82 とした後、窒素官能基を導入し oxime 83 とし、TiCl₃-NaBH₃CN で還元し C₁, C₂, C₃, C₄ 全てのヘテロ原子が *cis* である amine 84 を得た。ここで (\pm)-homochelidonine 合成に必要な立体は構築された。84 の spirolactone 部 を LiAlH₄ で還元的に開環した後、アミノ基を TFAA で保護して 85 、これを Mitsunobu 条件で閉環後、脱保護して 86 とする。次に C_{10b} 位水酸基を除去するためアミノ基を Boc で保護したところ水酸基と反応した carbamate 87 が得られた。 87 を HCHO aq. 存在下 接触還元すると、加水素分解と還元的メチル化が one-pot で進行し *N*-methylamine 88 が 得られた。 88 を BF₃ OEt₂ 存在下、Et₃SiH で還元し (\pm)-homochelidonine を arnottin II から 13 工程、15% で得た。

このように (±)-arnottin II の酸化を鍵反応として立体選択的に (±)-homochelidonine の合成に成功しているが、arnottin II の合成に isovaniline から 15 工程を要している。また、天然物は光学活性体であるためエナンチオ選択的な合成が望まれる。そのためには、71 から 78 へのヒドロキシル化の立体選択的反応への展開が必要であった。

今回、chelidonine を合成するにあたり、当研究室におけるこれまでの各種 alkaloid の合成例を基に、利点を生かし問題点を解決するべく合成計画を考えた。利点としては共通の中間体を経由して芳香型、脂環式を合成していることが挙げられる。また、問題点としては、工程数が長いこと、光学活性体合成が未だ達成されていないことが挙げられる。

従って、如何に短工程で共通の中間体を経由し光学活性な化合物を合成するかが合成計画の 鍵となる。

第三章、第二節で述べたように、2-aryl-1-tetralone 91 に対するヒドロキシル化が立体選択 的に進行して spiro 体 89 が得られれば光学活性な chelidonine に誘導可能である。また、 2-aryl-1-tetralone 91 をこれまでの linear な経路ではなく convergent な経路で合成でき れば工程数は短縮できると考えた。これを基に Scheme 17 のルートを考案した。

Scheme 17. Synthetic Plan for (+)-Chelidonine.



即ち、bromo ester **93** と tetralone **92** との coupling 反応により 2-aryl-1-tetralone **91** とし、これに対し不斉酸化を行って 2-hydroxyl 体 **90** を得、これから光学活性な spiro 体 **89** を経由して chelidonine へと導くルートである。 なお、**89** が合成できれば第二部で述べ る (·)-arnottin II の合成へも応用できる。また、2-aryl-1-tetralone **91** は芳香型 alkaloid で ある sanguinarine の合成中間体と見なせる。このように、**Scheme 17** の合成経路は応用範 囲が広く効率的である。

第五章 (+)-Chelidonine の合成へのアプローチ

第一節 Coupling 反応による 2-Aryl-1-tetralone 合成の試み

第一項 Ketone の a 位への アリール化反応の背景

Ketone の α 位へのアリール化についてはこれまでに数多くの報告がなされている。例えば、 安定化された enolate と aryl halide との反応による芳香族求核置換反応 (S_NAR) 反応、³¹⁾ 光照射で生じる aryl radical と aryl halide による S_{RN}1 反応、³²⁾ そして benzyne の acyl-alkylation³³⁾ などがあるが、何れも基質に制限があり一般的であるとは言い難い。一方、 近年、Pd 触媒を用いた coupling 反応を ketone の α 位への直接的アリール化に用いた報告 例が出てきている。汎用性という点ではこちらの方が優れている。

Nolan ら³⁴⁾ は、Pd-*N*-heterocyclic carbene (NHC) complex を用いて ketone $o \alpha d c \circ o$ アリール化に成功している (Scheme 18)。NHC は σ -donor 性が高く、中心金属の電子密度を増大させることから、coupling 反応における酸化的付加及び還元的脱離に対して有用なligand として知られている。そのため Pd や Ni との組み合わせで数多くの coupling 反応に利用されている。³⁵⁾ Nolan らは新たに NHC と Pd から (NHC)Pd(allyl)Cl complex をデザインし、 ketone $o \alpha d c \circ o$ アリール化を行った。1-tetralone (94) と 2-chlorotoluene (95) との反応では触媒 97 を用い高収率で 2-aryl 体 96 を得ている。





また、Buchwald ら³⁶ は、種々の Pd 触媒、ligand の組み合わせにより、環状及び鎖状 ketone のα位へのアリール化に成功している。Scheme 19 にはその一部を示したが、 Buchwald らの実験結果は ketone と aryl halide 各々の反応に対応した最適な Pd 触媒、 ligand、塩基の組み合わせが重要であることを示している。





第二項 モデル基質による Coupling 反応

Buchwald らの条件 ³⁶⁾ を参考に、まずモデル反応として単純な bromobenzene (109) と 1-tetralone (94) との coupling 反応を検討した (Table 3)。触媒として Pd(OAc)₂、ligand と して 2-(dicyclohexylphosphino)-2'-(*N*,*N*-dimethylamino)biphenyl (101)、塩基として ⁴BuONa を用い、toluene 中、2-bromotoluene (109a) と 1-tetralone (94) を加熱すると 2-ary 体 101a が 76% で得られた (entry 1)。しかしながら、(3,4-methylenedioxy) bromobenzene (109b) を用いた場合、複雑な混合物を与えた (entry 2)。Ligand と塩基をそれぞれ 2dicyclohexylphosphino-2'-methylbiphenyl (100)、K₃PO₄ に代えて反応すると、目的とする 110b は得られるものの低収率であった (entry 3)。次に目的化合物に類似した methyl 2-bromobenzoate (109c) を entry 1 と同じ条件で加熱すると、⁴BuONa では塩基性が強すぎ るためか複雑な混合物を与えた (entry 4)。そこで、K₃PO₄ に変えて反応させたが、反応は全 く進行しなかった (entry 5)。一方、**109c** を aryl unit とし、Pd₂(dba)₃ - Xantphos (**102**) -K₃PO₄ の組み合わせで反応すると、4 環性 benzodihydronaphthopyrone 骨格を有する **111** が coupling 成績体として得られてきた (entry 6, 7, 8)。 反応生成物を精査したところ 1-tetralone (**94**) の酸化体である 1-naphthol の存在が示唆されたため、抗酸化剤として Na₂S₂O₅ を添加することにした。その結果、収率が大幅に向上した (entry 9)。

Table 3. Pd-Catalyzed Coupling Reaction of Aryl halides and 1-Tetralone **94** *via* α-Arylations of Ketone

		Br	Pd Lig	catalyst (1 mol% and (2 mol%)	%)	$\widehat{\prod}$	
	`	+ \	V	Base, PhMe 80 °C	R	Î,	
	109	9	4			110	111
					Base	Time	
Entry	109	R in 109	Pd	Ligand	(Meq)	(h)	Results
1	109a	2-Me	Pd(OAc) ₂	101	^t BuONa (1.3)	20	110a (R = 2-Me): 76%
2	109b	3,4-OCH ₂ O	Pd(OAc) ₂	101	^t BuONa (1.3)	15	a complex mixture
3	109b	3,4-OCH ₂ O	Pd(OAc) ₂	100	K ₃ PO ₄ (2.3)	15	110b (R = 3,4-OCH ₂ O): 15%
4	109c	2-CO ₂ Me	Pd(OAc) ₂	101	^t BuONa (1.3)	20	a complex mixture
5	109c	2-CO ₂ Me	Pd(OAc) ₂	100	K ₃ PO ₄ (2.3)	20	no reaction
6	109c	2-CO ₂ Me	Pd(OAc) ₂	102	K ₃ PO ₄ (2.3)	20	111 : 10%
7	109c	2-CO ₂ Me	Pd ₂ (dba) ₃	102	K ₃ PO ₄ (2.3)	20	111 : 44%
8 ^a	109c	2-CO ₂ Me	Pd ₂ (dba) ₃	102	K ₃ PO ₄ (2.3)	15	111 : 46%
9 ^b	109d	2-CO ₂ ^t Bu	Pd ₂ (dba) ₃	102	K ₃ PO ₄ (2.3)	15	111 : 81%

^a Reaction was carried out at 100 °C using 1.6 mo% of Pd catalyst and 3.6 mol% of ligand.

^b Na₂S₂O₅ (10 mol%) was added as an antioxidant.

このように、methyl 若しくは *tert* butyl 2-bromobenzoate を用いると当初予定してい た 2-aryl 体 110 ではなく閉環まで進行した lactone 111 が一気に得られてくることが判明 した。 111 は chelidonine に必要な A, B, C, D 環を全て含むことから、これを生かして chelidonine 合成を行うこととし、合成計画を以下のように変更した (Scheme 20)。





即ち、 chelidonine の基質である **93** と **92** の coupling 反応により benzodihydronaphthopyone **112** を合成し、これに対し不斉酸化を行って **113** とし、ここか ら chelidonine へと導くルートである。

第三項 Bromobenzoate 93 と Tetralone 92 の Coupling 反応

93 と **92** の coupling 反応の条件検討を行った (Table 4)。 Table 3 の結果から触媒として Pd₂(dba)₃、ligand として Xantphos (102) を用いることとし、Na₂S₂O₅ を抗酸化剤として添 加して反応を行った。K₃PO₄ 存在下、0.25 mmol の methyl ester **93a** を用い、*o*xylene 中、 20 時間加熱すると lactone **112** が 74% で得られた (entry 1)。 そこでスケールを上げ 1.0 mmol の **93a** を用いて同様の条件で検討したが、収率は大幅に低下し再現性が得られなかっ た (entry 2)。しかし *tert* butyl ester **93b** を用いた場合は再現性良く **112** が得られた (entry 3)。

一方、塩基を Cs₂CO₃ に変えると反応は 100 °Cで進行し 112 を 62% の収率で得た (entry 4)。このとき副生成物として carboxylic acid 112' が 4% 得られたが、これは pTsOH H₂O 触媒下、benzene 中で還流することにより定量的に 112 へと変換できた。本 反応では *tert* butyl ester 93b を 3 mmol 用いても同様の結果が得られた (entry 5)。更に *tert* butyl ester **93b** を 5 mmol 用いた場合、20 h で反応は終了し、112' を合わせると 81% で 112 を得ることができた (entry 6)。



Table 4.	Coupling Reaction	of Bromobenz	zoates 93 and Tetra	lone 92
	1 0			

第四項 Coupling 反応のメカニズム

Ketone の a 位へのアリール化のメカニズムについて、Buchwald らは Scheme 21 に示す 触媒サイクルを提唱している。³⁶⁾ Pd(0) が aryl halide に酸化的付加した後、塩基の存在下、 ketone 体と反応して palladium enolate となり、ここから Pd が還元的脱離し coupling 成績体である 2-aryl ketone が生成するというものである。著者の実験における lactone 112 の生成は、一旦生成した 91 が塩基によりエノール化した後閉環し、lactone 環を形成したも のと考えれば説明できる。 Scheme 21. Proposed Mechanism for Generation of Lactone 112 according to the Catalytic Cycle of α -Arylation of Ketones Supposed by Buchwald *et al.*



第二節 Lactone 112 の不斉酸化

第一項 Methyl(trifluoromethyl)dioxirane を用いた Olefin のエポキシ化の背景

Yang ら³⁷⁾は trifluoroacetone と OXONE[®] (2KHSO₅·K₂SO₄·KHSO₄) から系中で生成 させた methyl(trifluoromethyl)dioxirane (120) を用いた olefin のエポキシ化を報告してい る (Sheme 22)。 **Scheme 22.** Epoxidation of Olefins Using Methyl(trifluoromethyl)dioxirane (**120**) by Yang *et al.*



Dioxirane は電子豊富、電子不足何れの olefin にも中性条件下で高い反応性を示すエポキ シ化試薬である。Methyl(trifluoromethyl)dioxirane (120)、dimethyldioxirane (121) は対応 する ketone と OXONE[®] から発生させることができるが、単離するのが困難である。そこ で Yang らは系中で発生させた 120 を用いた有用なエポキシ化条件を開発した。反応条件は olefin、trifluoroacetone、EDTANa₂ 水溶液、 MeCN 溶液中に 0 °C下、OXONE[®] と NaHCO₃ を磨り潰して加えるというものである。

また、Shi ら ³⁸⁾ は系中で D-fructose と OXONE[®] から誘導される chiral dioxirane を用 いた不斉エポキシ化を報告している (Scheme 23)。これは D-fructose から誘導される不斉源 を有する ketone 122 が OXONE[®] により酸化されて 123 となり、これが olefin 124 を酸 化し epoxy 体 125 を生成するというもので、3 置換 olefin を含む種々の olefin を高いエ ナンチオ選択性で対応する epoxy 体に導いている。

Scheme 23. Asymmetric Epoxidation of Olefins Using Chiral Dioxirane (123) by Shi *et al.*



これと関連して Curci ら³⁹⁾ は (+)-3-(trifluoroacetyl)camphor (130) と *R*(+)- または *S*-(-)-3-methoxy-3-pheny-4,4,4-trifluoro butan-2-one を chiral dioxirane 前駆体とする不斉 エポキシ化を報告している (Scheme 24)。これらの反応ではエポキシ化は進行するものの、 不斉収率は 20% 以下と低収率である。

Scheme 24. Asymmetric Epoxidation of Olefins Using Chiral Dioxiranes derived from Ketones (**130** and **131**) by Curci *et al.*



第二項 モデル基質を用いた dioxirane による酸化

まずモデル反応として無置換の lactone 111 の dioxirane による酸化を検討した (Table 5)。



Table 5. Oxidation of Lactone 111 Using Dioxiranes

^a Prepared from OXONE and corresponding ketones. ^b Estimated by chiral HPLC.

Yang ら ³⁷⁾ の条件に従って、methyl(trifluoromethyl)dioxirane (120) を用いてエポキシ 化を行った。基質 111 が MeCN のみには難溶性であるため、溶媒を MeCN/1,4-dioxane と し、室温下、1 h 反応させたところ、epoxy 体 136 は得られず、spiro 体 135 が 87% で 得られた (entry 1)。また、Shi ら ³⁸⁾ の不斉エポキシ化の条件に従って dioxirane 137 を用 いて反応を行ったが、反応は全く進行しなかった (entry 2)。次に Curci ら ³⁹⁾ の条件に従っ て dioxirane 138 を用いて反応を行った。しかし収率は 14% と低く、また不斉誘導も殆ど 観測されなかった (entry 3)。

第三項 Lactone 112 の酸化

第二項での結果を受け、lactone 112 の酸化を検討した (Table 6)。





^a Prepared from OXONE and 1,1,1-trifluoroacetone. ^b 11 mol% of K₂OsO₂(OH)₄, 55 mol% of (DHQ)₂-PHAL and 1.5 Meq. of MeSONH₂ were used. ^c 11 mol% of K₂OsO₂(OH)₄, 55 mol% of (DHQD)₂-PHAL and 1.5 Meq. of MeSONH₂ were used. ^d Estimated by chiral HPLC.

Methyl(trifluoromethyl)dioxirane (120) を用いた酸化ではやはり epoxy 体 139 ではな く spiro 体 89 が 80% の収率で生成した (entry 1)。次に Sharpless の不斉ジヒドロキシ ル化を行った。種々条件検討の後、基質 112 が報告されている溶媒には難溶であったため、 50% BuOH aq.-CH₂Cl₂ (1:1)を溶媒として用いた。そして、AD-mix に K₂Os(OH)₄、 ligand を追加し、それぞれ 11 mol%、55 mol%となるように調整し、室温下、 88 h 反応さ せたところ、この場合も spiro 体 89 が得られてきた。そして AD-mix- α からは (-)-体を、 AD-mix- β からは (+)-体がそれぞれ 83% (82% ee)、71% (88% ee) で生成した (entry 2, 3)。 反応温度を 0 °C に下げると反応は全く進行しなかった。また、この反応では diol 体 113 の 生成は観測されなかった。 第四項 Dioxirane 酸化による Spiro 体生成のメカニズム

著者の lactone 体の場合、直接 spiro 体が生成するメカニズムについては次のように考えている。

Dioxirane 120 により、まず 112 が epoxy 体 139 となり、epoxy C-O 結合が開裂する。 その際、C4b に生成する cation に lactone のエステル酸素が安定化に関与する中間体 140a を経由する path a 、若しくは C10b の benzyl cation を経由する path b の何れかで開環 し spiro 体 89 を生成したと考えられる (Scheme 25)。

Scheme 25. Proposed Mechanism for Generation of Spiro Compound **89** by Oxidation of Lactone (**112**) with Dioxirane (**120**)



なお、このような enol lactone の酸化による環縮小 spiro 体形成反応については、Mandal ら ⁴⁰ による Br₂ を用いた報告がある (Scheme 26)。 Mandal らは bicyclic enol lactone 141 を NaHCO₃ 水溶液中でブロム化することで、 lactone 141 の 143 への開環と環縮小を 伴う再環化により cyclic α-spiro(γ-lactonyl)ketone 144 を得ており、そのメカニズムとして cation 142 を想定している。続く反応様式は異なるものの、著者の場合も彼らの cation 142 と類似した開裂中間体 140a を経由する path a にて spiro 体 89 が生成したものと考え ている。

Scheme 26. Generation of Spiroketone 144 from Enol Lactone 141 by Mandal et al.



Sharpless ら⁴¹⁾ は 4 置換 olefin の不斉ジヒドロキシル化について **Figure 1** に示す模式 図で説明している。 即ち、ligand の hindered space を避けるように olefin を配置した場 合、AD-mix- β を用いた場合は β 面から、AD-mix- α を用いた場合は α 面からジヒドロキシ ル化が進行するというものである。 **Table 6** の反応も同様の面選択性で反応が進行している と考えられ、AD-mix- β を用いた場合は β 面からジヒドロキシル化が進行し hemiacetal **113** となり、**145** を経て lactone を形成し光学活性な spiro 体 (+)-**89** が得られたと考えている (**Scheme 27**)。 (+)-**89** の絶対立体配置については、後述の第二部第二章 (-)-arnottin II の合 成の過程で得られた結果から *R* 配置であると推定しており、(+)-spiro 体 (+)-**89** からは (±)-homochelidone と同様の合成経路を辿れば、(+)-chelidonine が得られるものと考えてい る (**Scheme 27**)。

Figure 1. Proposed Mechanism for Chiral Induction on the AD of TBS Enol Ether of 2-Phenyl-1-Tetralone by Sharpless *et al.*



Scheme 27. Proposed Mechanism for Chiral Induction on the AD of Lactone **112** and Followed by Ring-Contraction



第三節 Lactam 146 の不斉酸化

第一項 合成経路の再考

上述のように (+)-spiro 体 (+)-89 が得られたことから 先の吉田ら ¹⁷⁾ の合成経路を踏襲 すれば (+)-chelidonine が合成できることになるが、より直接的な合成を目指し、Scheme 28 に示す合成経路を立案した。

Scheme 28. Approaches to More Straightforward Synthesis of (+)-Chelidonine


即ち、coupling 反応で得られる4環性化合物である lactone **112** に対し、先に窒素官能基 を導入して benzo[*d*phenanthridine 骨格を持つ lactam **146** とし、このものに対し不斉ジヒ ドロキシル化を行って diol 体 **147** とする。ここで得られた不斉を利用し allyl alcohol **148** を経て (+)-chelidonine へと導くものである。

第二項 Lactam 146 の不斉ジヒドロキシル化

Lactone **112** を MeNH₂-H₂O と反応させた後、*p*-TsOH·H₂O 触媒下、benzene 中で還流 すると lactam **146** が収率良く得られる (Scheme 29)。

Scheme 29. Conversion of Lactone 112 to Lactam 146



この lactam 146 に対して不斉ジヒドロキシル化を検討した (Table 7)。

Table 7. Asymmetric Dihydroxylation of Lactam 146



Entry	Oxidant	K ₂ OsO ₂ (OH) ₄ (mol%)	Ligand (mol%)	Solvent	Temp. (°C)	Time (h)	147 : Yield (%)	% ee ^d
1 ^a	0-0 H₃C CF₃ 120	3 –	-	CHCI ₃ /MeCN (4:1)	0 - rt	0.5	(±)- 147 (55)	-
2 ^c	AD-mix-þ	3 10	30	50% ^t BuOMe aq.	0	92	N. R.	
3 ^c	AD-mix-	3 10	30	50% MeCN aq.	0	92	N. R.	
4 ^b	AD-mix-c	ι 8	40	50% ^t BuOMe aq./DMF (2 :1)	0	92	N. R.	
5 ^c	AD-mix-⊧	3 24	100	50% ^t BuOH aq./CH ₂ Cl ₂ (2 :1)	0	96	(-)- 147 (57)	84
6 ^b	AD-mix-o	u 22	110	50% ^t BuOH aq./CH ₂ Cl ₂ (1:1)	0	89	(+)- 147 (59)	
7 ^b	AD-mix-c	ι 11	55	50% ^t BuOH aq./CH ₂ Cl ₂ (1:1)	0	75	(+)- 147 (83)	94
8 ^c	AD-mix-⊧	3 11	55	50% ^t BuOH aq./CH ₂ Cl ₂ (1:1)	0	96	(-)- 147 (81)	86
9 ^c	AD-mix-⊧	3 11	55	50% ^t BuOH aq./CH ₂ Cl ₂ (1:1)	15	12	(-)- 147 (78)	79

^a Prepared from OXONE and 1,1,1-trifluoroacetone. ^b (DHQ)₂-PHAL and 1.5 Meq. of MeSONH₂ were used. ^c (DHQD)₂-PHAL and 1.5 Meq. of MeSONH₂ were used. ^d Estimated by chiral HPLC.

まず、dioxirane 120 による酸化を行ったところ、lactone 112 の場合とは異なり diol 体 147 が 55% で得られた (entry 1)。次に AD-mix による不斉酸化を行った。50% BuOH aq. 溶媒には 146 が不溶なため 50% BuOMe aq.を溶媒として反応させたが、溶解性は上がらず 反応は進行しなかった (entry 2)。 50% MeCN aq. でも同様の結果であった (entry 3)。そこ で DMF を加え溶液の状態で反応させたが、原料回収に終わった (entry 4)。溶媒を 50% BuOH aq. /CH₂Cl₂(2:1) にすると懸濁状態ではあるが、K₂OsO₂(OH)₄ (11 mol%) と ligand (55 mol%) の量を増やすことで反応の進行が見られた (entry 5, 6)。更に CH₂Cl₂ 比率を上げ、 50% BuOH aq. /CH₂Cl₂(1:1) にすると反応はスムーズに進行し、0 °C 下、75 - 98 h 反応 させることで、AD-mix- α からは (+)-147 を、AD-mix- β からは (-)-147 をそれぞれ 83% (94% ee)、 81% (86% ee) で得ることができた (entry 7, 8)。一方、反応温度を 15 °Cに上げ ると反応時間は短縮されたが、不斉収率は低下する傾向にあった (entry 9)。

ここで誘発された不斉誘導は、**Figure 1** と同様の面選択性で進行し AD-mix- α を用いた場合は α 面から、AD-mix- β を用いた場合は β 面からジヒドロキシル化が起こったものと考えている。

第三項 4 置換 Enamine の酸化について

ところで第二項で述べたような 4 置換 enamine の不斉ジヒドロキシル化による不斉誘導の例は調べた限りでは現在まで報告が無い。

アキラルな条件下での反応として、Zhang ら ⁴²⁾ による indole 誘導体の dioxirane **121** による酸化は報告されている (Scheme 30)。2,3-Dimethylindole **149** を **121** で酸化すると 2,3-epoxy 体 **150** が得られるが、**150** は室温下では不安定で 2 位メチル基の転位を伴って indolinone **151** が生成する。また、carbazole **152** を **121** で酸化すると定量的に spiroindolinone **153** が得られる。





また Corey ら ⁴³⁾ は、**120** を用いた indole **154** のエポキシ化を報告している (Scheme 31)。

Scheme 31. Epoxidation of Indole **154** Using Methyl(trifluoromethyl)dioxirane (**120**) by Corey *et al.*



Tetracyclic indole 154 を dioxirane 120 と反応させると 2,3-epoxy 体 155 が得られた。 155 に 6-hydroxyindoline 156 を加えると、C-C coupling product として 157 が 25%、 C-O coupling product として 159 が diol 158 と併せて 5% 得られた。酸化による成績体と して diol 158 が得られているが、 minor product にすぎない。

第四項 Diol 体 147 の保護の検討

次に、得られた diol 体 147 の保護について検討した (Scheme 32)。CDI との反応では反応は全く進行せず、目的の 160 は得られなかった。一方、2,2-dimethoxypropane との反応では転位体 161 が得られた。これは pinacol 転位が起こった結果、162 を経由して 161 が 生成したものと考えている。このように diol 体 147 は不安定であることが解ったので、 aminal 部分の還元を行うこととした。





第四節 Aminal の還元

第一項 Aminal の還元の報告例

Et₃SiH と TFA による C=C, C=O, C=N 二重結合や C-OH, C-Hal などの単結合の還元 は ionic hydrogenation として古くから知られている。⁴⁰

Maier ら⁴⁵⁾は oxazolidinone を含む 3 環性化合物 **163** の ether bridge を含む aminal 部位を Et₃SiH-BF₃·Et₂O で還元的に開環し piperidinone **164** を得ている (Scheme 33)。 **Scheme 33.** Reduction of Aminal Using Et₃SiH-BF₃·Et₂O System by Maier *et al.*



また、Yamazaki ら⁴⁶ は *N*-acety-L-isoleucine 由来の aminal **165** を Et₃SiH-BF₃·Et₂O で還元的に切断し光学的に純粋な amine **166** を得ている (Scheme 34)。

Scheme 34. Reduction of Aminal Using Et₃SiH-BF₃ Et₂O System by Yamazaki *et al.*



第二項 Et₃SiH-BF₃·Et₂O 系での還元

前項に従い、Et₃SiH-BF₃·Et₂O 系での (-)-aminal (-)-147 の還元を検討した (Table 8)。4 当量 の Et₃SiH と 0.5 当量 の BF₃·Et₂O 用い -40 ℃下、1 h 反応させると還元成績体とし て (-)-silyl ether (-)-167 を 49% で得るとともに、原料を 51% 回収した (entry 1)。 BF₃·Et₂O を 1 当量まで増量すると (-)-167 は減少し、(-)-転位体 (-)-169 が主生成物として 得られた (entry 2)。そこで、BF₃·Et₂O を 1 当量に保ち、Et₃SiH を大過剰の 30 当量に増 やしたところ (-)-167 は 70% に増加した。しかし、転位体の生成を防ぐことはできなかった (entry 3)。一方、Lewis acid を BCl₃ に変えると、還元成績体として (-)-alcohol (-)-168 の みを 76% で得た (entry 4)。TiCl₄ を用いた場合には、複雑な混合物を与えた (entry 5)。

なお (-)-silyl ether (-)-167 の立体化学については、第五節での結果から C_{4b} 及び C_{10b} の 置換基は 4b-*S*,10b-*R* 配置であると推定している。

HO N M (-)-147	рн е	Et ₃ SiH Lewis Acid CH ₂ Cl ₂		H Me 67	+ + + + + + + + + + + + + + + + + + +	н Ме 0-168	+ ***	-)-169	>
Entry Et ₃ SiH		Lewis Acid	Temp.	Time	Yield (%)				_
	(Meq.)	(Meq.)	(°C)	(h)	(-)-167	(-)-168	(-)-169	(-)- 147	
1	4.0	BF ₃ ·Et ₂ O ¹⁾ (0.5)	-40	1	49	-	-	51	
2	4.0	BF ₃ ·Et ₂ O ¹⁾ (1.0)	-40	2	30	-	70	-	
3	30	BF ₃ ·Et ₂ O (1.0)	-35	2	70	6	10	7	
4	30	BCI ₃ (1.0)	-35	1	-	76	-	-	
5	10	TiCl ₄ (1.0)	-35	2	а	complex m	nixture		

Table 8. Reduction of Aminal (-)-147 Using Et₃SiH-Lewis Acid System

第三項 Et₃SiH – TFA 系での還元

次に、EtaSiH – TFA の系で還元を行った (Table 9)。

前項の Lewis 酸を用いた場合と異なり-35 ℃で TFA を用いると(-)-転位体 (-)-169 は生成せず、主生成物として(-)-silyl ether (-)-167 を与えた (entry 1, 2)。また、反応温度を室温まで上げると副生成物として少量の (-)-転位体 (-)-169 とともに (-)-spirolactone (-)-89 を与えた (entry 3)。

HO	N Me	Et ₃ Sil- TFA CH ₂ Cl ₂		4b 10b H N Me	+		+ 5	
(-)-	.147		(-)-' (-)-'	167 (R = S 168 (R = H	SiEt ₃) 1)	(-)-169		(+)-89
Entry	Et ₃ SiH	TFA (Meg.)	Temp.	Time	Yield (%)			
	(Meq.)	(meq.)	(0)	(1)	(-)- 167	(-)- 168	(-)- 169	(+)- 89
1	10	1.0	-35	2	76	9	-	-
2	20	1.5	-35	2	75	-	-	-

Table 9. Reduction of Aminal (-)-147 Using Et₃SiH-TFA System

(·)・転位体 (·)・169 と(·)・spiro 体 (·)・89 の生成について想定される機構を Scheme 35 に 示す。Aminal の OH が protonation により脱離すると共に pinacol 転位が起き (実線矢 印)、生じた spiroketone 170 の ketone 部が還元され (·)・169 になる。一方、脱離の際 lactone を形成し (点線矢印)、生じた imine が加水分解され (·)・89 になると考えた。

Scheme 35. Proposed Mechanism for Generation of (-)-169 and (+)-89 from Aminal (-)-147



得られた (-)-silyl ether (-)-167 及び (-)-alcohol (-)-168 について C₁₁ への水酸基の導入を 試みることとした。直接的酸化は困難であることより、脱水素を経て酸素官能基を導入すると いう段階的反応を試みた。脱水素反応の結果を Scheme 36 に示す。





まず、(·)-alcohol (·)-168 を 1.5 当量の DDQ を用い、ベンゼン中、90 ℃、4 h 還流した ところ、目的とする allyl alcohol 148 は得られず、さらに酸化が進行した 170 (oxysanguinarine) が 33% 得られるのみであった。これは、生成した 148 が DDQ から副 生する hydroquinone により脱水を起こしたのではないかと考え、反応系をアルカリ性にし てみることとした。さらに理論的には DDQ は等モルあれば良いはずである。 そこで DDQ を 1.1 当量、K₂CO₃ を 0.1 当量用い 85 ℃で 8 h 反応させたところ、目的とする 148 が得 られたが、21% と低収率であった。一方、(·)-silyl ether (·)-167 を DDQ で酸化すると目的 とする (+)-allyl silyl ether (+)-171 が 60% で得られ、副生成物として (+)-転位体 (+)-172 を 32% で得た。

次いで脱水素体 (+)-148 と (+)-171 について *m*CPBA で酸化したところ、何れもエポキ シ化の後、*m*CPBA 由来の carboxylic acid が反応した (-)-C₁₁-hydroxy 体 (-)-173 及び (-)-174 が、それぞれ 57% 及び 68% で得られてきた (Scheme 37)。





なお、得られた (-)-C₁₁-hydroxy 体についての立体化学は、**Figure 2** に示す (-)-**173** の X 線結晶解析により C_{4b}, C_{10b}, C₁₁, C₁₂ の置換基が、**Scheme 37** に示すように 4b-*S**,10b-*R**,11-*S**,12-*S** 配置であると推定した。(-)-C₁₁-hydroxy 体 (-)-**173** は、光学活性 体 { $[\alpha]_D^{24}$ -58 (*c*0.087, CHCl₃)} として得られ、構造中にクロル原子が存在することにより、 絶対配置まで求めることが可能である。しかし、得られた単結晶はラセミ体であったため、相 対配置を示した。この理由としては、少量存在するラセミ体の結晶性がエナンチオマーに優先 したためと考えている。

今後、ベンジル位を還元し、得られる成績体の立体化学を確定し、それを基に (+)-chelidonine に導く予定である。

Figure 2. ORTEP Drawing of (-)-173 ⁶³⁾



第六章 Chelidonine 合成研究についてのまとめ

Chelidonine の合成研究について試みた反応を Scheme 38 にまとめる。



Scheme 38. Summary of Studies on (+)-Chelidonine Synthesis

Bromobenzoate 93 と tetralone 92 との coupling 反応により一段階で A, B, C, D 骨格を 構築し lactone 112 を得た。これを AD-mix-β を用いた不斉酸化に付すことで光学活性な (+)-spiro 体 89 を得た。既に対応する spiro 体から homochelidonine の合成は達成されて おり、そのルートを踏襲すれば chelidonine が合成可能である。

一方、lactone **112** を lactam **146** としこれを AD-mix- β を用いた不斉ジヒドロキル化を 行い、光学活性な (-)-diol 体 (-)-**147** を得た。(-)-**147** の aminal 部分を還元して (-)-**167** 及 び (-)-**168** とし2 段階の酸化を経て chelidonine の前駆体となる (-)-C₁₁-hydroxyl 体 (-)-**173** 及び (-)-**174** を得た。しかしながら、これらの立体化学については推定の域を出ていない。今 後、ベンジル位を還元し、得られる成績体の立体化学を確定する。その結果を基に修飾するこ とで (+)-chelidonine に導く予定である。

第二部 Arnottin I 及び II の全合成

第一章 序論

Arnottin I 及び II はイワザンショウ [*Xanthoxy arnottianum* Maxim. (Rutaceae)] より 当研究室で non-alkaloidal minor components として単離された。⁵⁾ Arnottin I は gilvocarsin 型抗生物質と同様の 6*H* benzo[*d*]naphtho[1,2-*b*]pyran-6-one 骨格を持つことが 知られている (Table 10)。⁴⁷⁾ Gilvocarsin 型抗生物質はカビの一種 (*Streptomyces gilvotanareus*) から発見された天然物で強い抗腫瘍活性が報告されている。⁴⁷⁾ Arnottin I の 全合成は当研究室 ⁴⁸⁾ を始めいくつか報告されている。^{49,50)}

Arnottin II は 3,4-dehydro-1-tetralone と phthalide 骨格からなる特異な spiro 骨格を有 する化合物である (Table 10)。 天然物は (-)-体 で、その立体化学は当研究室にて CD スペ クトルより *R* 配置であると決定された。⁵¹⁾ (±)-体の合成は当研究室で達成されているが、⁵¹⁾ 光学活性体の合成報告例は未だ無い。そこで CD スペクトルから決定された立体化学を化学 的に明らかにするため、第一部合成経路を参考に arnottin II の光学活性体の合成を検討した。



Table 10: Arnottin I, II and Gilvocarsin - Class Antibiotics

第二章 Arnottin I の合成

第一節 これまでの合成研究の概要

第一項 Murota らによる合成

当研究室の Murota ら⁵¹⁾は 2-benzofuranyl1-tetralone 71 から 7 工程を経て arnottin I の合成を達成している (Scheme 39)。 71 を芳香化して生じた水酸基を保護して 175 とし、オゾン分解または OsO4-HIO4 によりフラン環を開裂し aldehyde 176 とした。 このものをメチル化して 177 とした後、NaClO2 で aldehyde を酸化し、ベンジル基を脱保 護し arnottin I とした。または、177 のベンジル基を脱保護して hemiacetal 178 とし、続 く Jones 酸化で arnottin I を得ている。 Chelerythrine 合成 ³⁰⁾の中間体である 2-benzofuranyl-1-tetralone 71 を利用した合成であるが、71 の合成には 7 工程を要し(第 一部第三章, Scheme 15) 工程数が多いのが難点である。

Scheme 39. Total Synthesis of Arnottin I from 2-Benzofuranyl-1-tetralone 71 by Murota *et al.*



第二項 Harayama らによる合成

Harayama ら⁴⁹ は、Pd 触媒を用いた分子内 biaryl coupling 反応により arnottin I の 合成に成功している (Scheme 40)。 この反応は、 acid 180 と naphthol 181 を Parish's method ⁵²⁾ により ester 182 とし、 これを Pd(acac)₂ による coupling 反応で arnottin I とする経路である。短工程で benzonaphthopyranone 骨格を合成でき興味深い方法であるが、 acid 180 ⁵³⁾ は合成に 5 工程を要するのが難点である。

Scheme 40. Total Synthesis of Arnottin I Using Biaryl Coupling Reaction by Harayama *et al.*



第三項 Cheng らによる合成

Cheng ら⁵⁰⁾ はNi 触媒と Zn 存在下、iodobenzoate **188** による oxabenzonorbornadiene **187** の ring-opening 反応を用いて benzonaphthopyranone 合成を達成している。これを応 用し arnottin I を合成した (Scheme 41)。

Catechol (183) を臭素化して 4,5-dibromocatechol (184) とし、さらにフェノール性水酸基 を保護して 185 とした。このものを "BuLi と反応させ、系中で benzyne を発生し furan (186) との Diels-Alder 反応を行うことで oxabenzonorbornadiene 187 を得ている。 187 と iodobenzoate 188 を NiBr₂(dppe)、Zn 存在下加熱し benzonaphthopyranone 189 を得 た。189 のシリル基を脱保護した後、CH₂Br₂ と反応させることで arnottin I を得ている。

Ni 触媒と Zn を用いた coupling 反応により短工程で arnottin I を得ているが、基質合成 に工程数を要し効率的とは言い難い。

Scheme 41. Total Synthesis of Arnottin I Using Ni-Catalyzed Ring-Opening Reaction of Oxabenzonorbornadiene 187 with Iodobenzoate 188 by Cheng *et al.*



第二節 Arnottin I の合成計画

第一部で述べた chelidonine の合成研究では coupling 反応により 4 環性骨格を一段階で 合成できることが解った。従って、bromobenzoate 191 と tetralone 92 とを反応させれば dihydroarnottin I (192) が得られ、192 を芳香化すれば arnottin I ができるはずである (Scheme 42)。

Scheme 42. Synthetic Route for Arnottin I



第一部第四章第三項での結果より、bromobenzoate **191** と tetralone **92** の coupling 反応 における触媒は Pd₂(dba)₃、ligand は Xantphos (**102**) を用いることとし、Na₂S₂O₅ を抗酸 化剤として添加して反応を行った (**Table 11**)。

 Table 11.
 Coupling Reaction of Bromobenzoates 191 and Tetralone 92



基質として *tert*-butyl ester **191a** を、塩基として K₃PO₄ を用い、 toluene 中 24 時間加 熱すると目的とする dihydroarnottin I (**192**) は得られたものの 18% と低収率であった (entry 1)。反応時間を延長しても収率は向上しなかった (entry 2)。そこで、塩基を Cs₂CO₃ に 変え 100 °Cで 48 h 加熱すると収率は 73 % に向上した (entry 3)。同様の条件で methyl ester **191b** を用いると収率は大幅に低下した (entry 4)。また、溶媒を σ xylene に変え反応 温度を上げて反応させた場合も、収率の大幅な低下が観察された (entry 5, 6)。従って、本反 応の最適条件は、chelidonine 合成の結果と同じ条件である entry 3 の bromobenzoate は *tert*-butyl ester、塩基は Cs₂CO₃、反応温度は 100 °Cの組み合わせであると結論した。

第四節 Dihydroarnottin I (192) の酸化 (Arnottin I の合成)

得られた dihydroarnottin I (192) を DDQ で酸化し目的とする arnottin I を 94% で得た。各種スペクトルデータ ⁵⁾ は天然物のものと一致した (Scheme 43)。

Scheme 43. DDQ Oxidation of Dihydroarnottin I (192) to Arnottin I



第一節 これまでの合成研究の概要

Arnottin II の合成例は当研究室における Murota ら ⁵¹⁾ による (±)-体の合成例が一例あ るのみである (Scheme 44)。

Scheme 44. Total Synthesis of (±)-Arnottin II from 2-Benzofuranyl-1-tetralone **71** by Murota *et al.*



2-Benzofuranyl-1-tetralone **71** を塩基性条件下、空気酸化すると対応する 2-hydroxytetralone **78** が得られる。次いでフラン環をオゾン分解し、Jones 酸化して dihydroarnottin II (**193**) に導き、ベンジル位を臭素化、脱臭化水素化することで (±)-arnottin II を得た。

第二節 (-)-Arnottin II の合成計画

第一部の chelidonine の合成研究において 4 置換 lactone 体を Sharpless の不斉ジヒド ロキシル化反応に付すと光学活性な spiro 体が得られることを述べた(第四章第二節三項, **Table 6**)。これを (-)-arnottin II の合成に応用することにした。即ち、arnottin I の合成中間 体である dihydroarnottin I (192) を不斉酸化することで光学活性な dihydroarnottin II が 得られ、これに Murota ら ⁵¹⁾ の方法で二重結合を導入することで (-)-arnottin II が合成で きると考えた (Scheme 45)。





Dihydroarnottin I (192)の不斉酸化 第三節

Dihydroarnottin I (192) の酸化反応の結果を Table 12 に示す。

 Table 12.
 Oxidation of Dihydroarnottin I (192) to Spiro Compound 193

	MeO OMe O	[0] 192		MeO MeO	193	
Entry	Oxidant	Solvent	Temp. (°C)	Time (h)	193 : Yield (%)	% ee ^e
1 ^a	0-0 H ₃ C CF ₃ 120	CHCl ₃ /MeCN (4:1)	0 - rt	3	(±)- 193 (47)	-
2 ^b	OsO ₄	CH ₂ Cl ₂ /acetone/H ₂ O (5:4:1)	rt	240	(±)- 193 (56)	-
3 ^c	AD-mix- α	50% <i>t</i> -BuOH aq./CH ₂ Cl ₂ (1:1) 0	95	(-)- 193 (85)	88
4 ^d	AD-mix-β	50% <i>t</i> -BuOH aq./CH ₂ Cl ₂ (1:1)) 0	95	(+)- 193 (89)	88

^a Prepared from OXONE and 1,1,1-trifluoroacetone. ^b OsO₄ (31 mol%) and NMO (1.75 Meq.) were used. ^c 11 mol% of K₂OsO₂(OH)₄, 55 mol% of (DHQ)₂-PHAL and 1.5 Meq. of MeSONH₂ were used.

^d 11 mol% of K₂OsO₂(OH)₄, 55 mol% of (DHQD)₂-PHAL and 1.5 Meq. of MeSONH₂ were used.

^e Estimated by chiral HPLC.

Dioxirane 120 による酸化では chelidonine の時と比較し低収率であったが (±)-spiro 体 (±)-193 が 47% 得られた (entry 1)。OsO4 – NMO を用いた反応では、反応時間を長時間要 するものの (±)-193 が 56% で得られた (entry 2)。Sharpless の不斉ジヒドロキシル化反応 は、entry 3,4 に示すように反応温度を 0 ℃とし、chelidonine の時と同様の条件で酸化反 応を行った。その結果、AD-mix-αからは (-)-spiro 体 (-)-193 を 85% (88% ee) で、 AD-mix-β からは (+)-spiro 体 (+)-193 を 89% (88% ee) で得ることができた (entry 3, 4)。

第四節 (+)-Dihydroarnottin II [(+)-193] の絶対立体配置の決定

AD-mix- β を用いた場合に生成する (+)-spiro 体 (+)-193 の絶対立体配置は、提唱されて いる Sharpless の不斉ジヒドロキシル化のメカニズムに従えば、R 配置となる。著者は、そ の立体化学に保障を与えるため (+)-193 を相当する dibromo 体 (-)-194 に誘導した (Scheme 46)。そして得られた単結晶について X 線結晶解析を試み、予想通り R 配置である ことを決定した (Figure 2)。

Scheme 46. Bromination of (+)-Dihydroarnottin II [(+)-193] to Dibromo Compound (-)-194



Figure 2. ORTEP Drawing of (-)-194 ⁵⁴⁾



Murota らの方法 ⁵¹⁾ に従って (+)-dihydroarnottin II [(+)-**193**] のベンジル位を NBS で 臭素化後、DBU で脱臭化水素化することで、47% の収率で (-)-arnottin II を得た。このも のは 77% ee であったが、 CH_2Cl_2 -Et₂O から再結晶し光学純度を 98% ee まで上げることが できた。

また、(·)-dihydroarnottin II [(·)-**193**] からは、同様にして非天然型の (+)-arnottin II を合成した。ここに合成した (-)-arnottin II の各種スペクトルデータは天然物のものと一致した。 ⁵¹⁾ これにより、以前、CD スペクトルより決定していた(-)-arnottin II の立体化学 (*R* 配置) が正しいことを明らかにした (Scheme 47)。

Scheme 47. Introduction of a Double Bond into (+)-Dihydroarnottin II [(+)-193] and (-)-Dihydroarnottin II [(-)-193]



80% ee

第四章 Arnottin I 及び II の全合成についてのまとめ

Arnottin I 及び II の合成研究について Scheme 48 にまとめる。

1-Tetralone **92** の ketone α 位への bromoester **191** を用いた直接的アリール化により dihydroarnottin I (**192**) を合成した。このものから脱水素反応により効率的に arnottin I を 得た。

また、 **192** を AD-mix を用いた oxidative asymmetric spirolactonization に付すこと で光学活性な spiro 化合物を得、 (+)-dihydroarnottin II [(+)-**193**] から高い光学純度を持つ (-)-arnottin II を 3 工程、total yield 31% で効率的に合成した。

さらに不斉誘導における絶対立体化学は、対応する dibromo 体の X 線結晶解析により決定し、 これまで CD スペクトルで R 配置と提唱されていた (-)-arnottin II の絶対立体配置が正し いことを証明した。

Scheme 48. Summary of Total Synthesis of Arnottin I and II



arnottin I

第一部、第二部で述べてきた内容を Scheme 49 にまとめる。

Buchwald の Pd-coupling 反応を応用し bromobenzoate と tetralone から効率良く 4 環性 lactone 化合物を得た。このものを酸化し短工程で arnottin I を合成した。また、この lactone を AD-mix を用いた Sharpless の不斉酸化に付し、光学活性な spiro 体を得、 (+)-spiro 体から高い光学純度を持つ (-)-arnottin II を合成した。なお、この (+)-spiro 体か らは、過去の合成経路を踏襲すれば (+)-chelidonine へ導くことが可能である。 一方、 lactone を lactam とした後、このものを Sharpless の不斉酸化に付すと、光学活性な diol 体が得られ、 (-)-diol 体から chelidonine の前駆体となる (-)-C₁₁-hydroxyl 体を得た。この ものの立体化学は推定であり、今後、ベンジル位を還元し得られる成績体の立体化学を確定す る。なお、lactam それ自身は芳香型塩基の良い合成中間体となりうる化合物である。

Scheme 49. Summary of Studies on Chelidonine Synthesis and Total Synthesis of Arnottins I and II



追補

2007 年 1 月、Lautens ら ⁶²⁾ により Palladium(II) Catalyzed Asymmetric Ring-Opening Reaction を用いた (+)-homochelidonine の合成が報告された。これは光学活 性な脂環式 alkaloid の最初の合成例である。

Lautens らは、azabicyclic alkene **195** の boronic acid **196** との Pd 触媒を用いた asymmetric ring-opening reaction により、隣り合った 2 つの立体中心をエナンチオ選択的 に *syn* に構築することを鍵反応とし homochelidonine の不斉合成に成功している。合成経 路を Scheme 50 に示す。





触媒として Pd(MeCN)₂Cl₂ を、不斉 ligand として (S)-tol-binap [(S)-(-)-2,2'-bis(di-*p*-tolylphosphino)-1,1'-binaphthyl] を用い、*meso*-azabicyclic alkene 195 とboronic acid 196 を MeOH 中、Cs₂CO₃ 塩基存在下、室温で反応させることによりエナ ンチオ選択的な開環反応が進行し dihydronaphthalene 197 が 89% (90% ee) で得られてく る。197 は再結により 99% ee まで光学純度を高めることができる。このものを脱保護して alcohol 198 とし、CBr₄-PPh₃ 系でブロム化後、NaH により環化して B 環を構築し 199 と

する。このものを wet THF 中、NBS と反応させると、alkene の空いてる側に bromonium ion 中間体が生成し、それに対して水が攻撃することで、位置及び立体選択的に反応が進行し、 単一の生成物として bromohydrin **200** が得られてくる。このものを KO/Bu と反応させる と C 環上の正しい位置に酸素官能基が導入された *syn*-epoxide **201** となる。次いで、**201** を 1,4-dioxane 中、LiAlH₄ を加えて加熱すると、位置選択的な epoxide の還元及び Cbz 基の 脱保護とアミンのメチル化が one-pot で進行し、目的とする (+)-homochelidonine を **197** の光学純度を維持したまま 87% (99% ee) で得ている。

謝辞

終わりに望み、本研究及び本論文作成に際し、終始多大な御指導と御鞭撻を賜りました 千 葉大学薬学部 石川 勉 教授 に心より感謝致します。

また、本研究及び本論文作成に対し、有益な御助言と御協力を賜りました 千葉大学薬学部 熊本 卓哉 講師 及び 中西 和嘉 助手に感謝致します。

また、X 線結晶解析を行って頂きました 徳島文理大学香川薬学部 山口 健太郎 教授 及び 川幡 正俊 助手に深謝致します。

そして、元素分析及び各種スペクトルデータの測定を行って頂きました 千葉大学分析セン ターの皆様に感謝致します。 実験の部

NMR:日本電子 JNM-GSX 400 a (400 MHz) または JNM-GSC 500 a (500 MHz もしくは JNM-ECP 400 (400 MHz) と JNM-ECP 600 (600 MHz) を用い 溶媒は特記しない限り CDCl₃、内部標準は tetramethylsilane にて測定。 また、以下の略語を用いた。 s: singlet, d: doublet, t: triplet, dd: double doublet, ddd: double double doublet,

m: multiplet, br: broad, dif.: diffused

IR:日本分光 FT/IR 300E 型を用い、特記しない限り ATR にて測定。

MS: EIMS は日本電子 JMS-AUTOMASS 20 型または日本電子 JEOL GC-Mate を使用。 LRFABMS は日本電子 JEOL JMS-AX 500 または JEOL JMS-AX 505 を使用。 HRFABMS は日本電子 JEOL JMS-HX 110A を使用し *m*-nitrobenzyl (NBA) をマト リックスとして測定。

- M.P.: 微量融点測定器 (柳本製作所; MP-SI 型) にて測定し、すべて未補正。
- SiO₂: カラムクロマトグラフィーには、富士シリシア化学社製 FL 100D または、Merck 社 製 Art. 7734 Kiesel 60 (70-230 mesh) を使用。
- TLC:薄層クロマトグラフィーには Merck 社製 Art. 5715 DC-Fertigplatten Kieselgel 60
 F₂₅₄ もしくは Merck 社製 Art. 571325 DC-Platten Aluminiuoxid F₂₅₄ を使用。
 検出にはアトー社製 SJ-1031A (short wave: 254 nm; long wave: 365 nm) による照
 射、ヨウ素による発色または硫酸セリウム-モリブデン酸混液もしくは 0.2% ニンヒド
 リンエタノール溶液に浸した後、加熱することによって行なった。

HPLC: JASCO 875-UV, 880-PU を使用。

旋光度: JASCO DIP-140 Polarometer を使用。

第五章第一節第二項の実験

<u>2-o-Tolyl-3,4-dihydro-2H-naphthalen-1-one (110a) (Table 3, entry 1)</u>

Screw-capped tube に 2-bromotoluene (**109a**) (171 mg, 1.0 mmol), 1-tetralone (**94**) (175 mg, 1.2 mmol, 1.2 eq.), Pd(OAc)₂ (2.2 mg, 0.01 mmol, 0.01 eq.), 2-(dicyclohexylphosphino)-2'-(*N*,*N*-dimethylamino)biphenyl (**101**) (7.9 mg, 0.02 mmol, 0.02 eq), *4*BuONa (125 mg, 1.3 mmol, 1.3 eq.) を量り取り dry PhMe (1.0 mL) を加え 80 °C, 20 h 撹拌。 冷後、反応物に AcOEt (10 mL) 加え不溶物を celite 濾過。 濾液を濃縮し SiO₂ カラム (*n*-hexane : AcOEt = 25 : 1) で精製し **110a** を淡黄色固体として 180 mg (76%) 得た。

M.P. 63-64 °C [AcOEt-*n*-hexane, (lit. ⁵⁵⁾ not reported)]

IR $v \max \text{cm}^{-1}$: 1676 (C=O).

¹H-NMR δ : 2.32 (3H, s, CH₃), 2.34-2.41 (1H, m, C3-H), 2.43-2.50 (1H, m, C3-H), 3.07 (1H, ddd, J= 16.7, 4.8, 4.8 Hz, C4-H), 3.17 (1H, ddd, J= 16.7, 11.9, 4.8 Hz, C4-H), 3.99 (1H, dd, J= 11.9, 4.8 Hz, C2-H), 7.05-7.08 (1H, m, Ar-H), 7.15-7.23 (3H, m, Ar-H), 7.31 (1H, d, J= 7.9 Hz, Ar-H), 7.35 (1H, t, J= 7.5 Hz, C7-H), 7.52 (1H, t, J= 7.5 Hz, C6-H), 8.10 (1H, d, J= 7.9 Hz, C8-H).

¹³C-NMR δ: 19.9 (CH₃), 29.4 (CH₂), 30.4 (CH₂), 51.5 (CH), 126.2 (CH), 126.8 (CH), 126.9 (CH), 127.6 (CH), 127.8 (CH), 128.8 (CH), 130.6 (CH), 133.1 (C), 133.4 (CH), 136.5 (C), 138.6 (C), 144.1 (C), 198.1 (C).

HREIMS *m/z*: 236.1196 (Calcd for C₁₇H₁₆O (M⁺): 236.1201).

<u>2-(1,3-Benzodioxol-5-yl)-3,4-dihydro-1(2*H*)-naphthalenone (**110b**) (Table 3, entry 3)</u>

Screw-capped tube に 3,4-methylenedioxy bromobenzene (109b) (201 mg, 0.95 mmol), 1-tetralone (94) (175 mg, 1.2 mmol, 1.26 eq.), Pd(OAc)₂ (2.2 mg, 0.01 mmol, 0.01 eq.), 2dicyclohexylphosphino-2'-methylbiphenyl (100) (7.3 mg, 0.02 mmol, 0.02 eq.), K₃PO₄ (488 mg, 2.2 mmol, 2.3 eq.) を量り取り dry PhMe (1.0 mL) を加え 80 ℃, 15 h 撹拌。冷後、 反応物に AcOEt (10 mL) 加え不溶物を Celite 濾過。 濾液を濃縮し SiO₂ カラム (*n*-hexane: AcOEt = 25:1) で精製し 110b を淡黄色固体として 40 mg (15%) 得た。 M.P. 132-133 ℃ [AcOEt-*n*-hexane, (lit. ⁵⁶⁾135-136.5 ℃)].

IR $v \max \text{cm}^{-1}$: 1674 (C=O).

¹H-NMR δ: 2.34-2.41 (2H, m, C4-H), 3.01-3.16 (2H, m, C3-H), 3.72 (1H, dd, J=8.1, 8.1 Hz,

C2-H), 5.94 (2H, s, methylenedioxy), 6.65 (1H, d, *J* = 7.6 Hz, C6'-H), 6.67 (1H, s, C4'-H), 6.78 (1H, d, *J* = 7.9 Hz, C7'-H), 7.28 (1H, d, *J* = 7.9 Hz, C5-H), 7.33 (1H, t, *J* = 7.6 Hz, C7-H), 7.50 (1H, t, *J* = 7.6 Hz, C6-H), 8.08 (1H, d, *J* = 7.6 Hz, C8-H).

¹³C-NMR δ: 28.9 (CH₂), 31.3 (CH₂), 54.1 (CH), 100.9 (CH₂), 108.3 (CH), 108.8 (CH), 121.6 (CH), 126.8 (CH), 127.8 (CH), 128.7 (CH), 132.8 (C), 133.43 (CH), 133.46 (C), 144.0 (C), 146.5 (C), 147.7 (C), 198.2 (C).

HREIMS *m/z*: 266.0938 (Calcd for C₁₇H₁₄O₃ (M⁺): 266.0943).

11,12-Dihydro-6H benzo[d]naphtho[1,2-b]pyran-6-one (111) (Table 3, entry 9)

Screw-capped tube に *tert*-butyl 2-bromobenzoate (**109c**) (0.508 g, 2.0 mmol), 1-tetralone (**94**) (0.438 g, 3.0 mmol, 1.5 eq.), Pd₂(dba)₃ (0.037 g, 0.04 mmol, 2.0 mol%), Xantphos (**102**) (0.051 g, 0.088 mmol, 4.4 mol%), K₃PO₄ (0.976 g, 4.4 mmol, 2.2 eq.), Na₂S₂O₅ (0.038 g, 0.1 eq.), *o*xylene (2.0 mL) 加え、130 ℃ で 15 h 加熱。 冷後、反応物に AcOEt (10 mL) を加え不溶物を Celite 濾過。濾液を濃縮し SiO₂ カラム (*n*-hexane : AcOEt = 25:1) で精製し **111** を無色結晶として 0.400 g (81%) 得た。

M.P. 181-182 °C [AcOEt-*n*-hexane, (lit. ⁵⁷⁾ 167 °C)].

IR $v \max \text{cm}^{-1}$: 1712 (C=O).

¹H-NMR δ: 2.91-2.95 (2H, m, C11 or C12-H), 3.03 (2H, dif. t, *J* = 7.9 Hz, C11 or C12-H), 7.22-7.33 (3H, m, Ar-H), 7.49 (1H, dd, *J*= 7.9, 7.3 Hz, Ar-H), 7.61 (1H, d, *J*= 8.1 Hz, Ar-H), 7.76 (1H, dd, *J*= 7.3, 7.1 Hz, Ar-H), 7.87 (1H, dif. d, *J*= 7.9 Hz, Ar-H), 8.35 (1H, d, *J*= 7.9 Hz, C7-H).

¹³C-NMR δ: 21.0 (CH₂), 27.2 (CH₂), 109.5 (C), 120.9 (C), 122.1 (CH), 122.8 (CH), 127.0 (CH), 127.52 (CH), 127.59 (CH), 128.6 (C), 129.2 (CH), 130.2 (CH), 134.7 (CH), 136.3 (C), 137.3 (C), 148.1 (C), 162.1 (C).

EIMS m/\vec{z} 248 (M⁺, 100%), 220 [(M-28)⁺, 12%], 203 [(M-45)⁺, 15%], 189 [(M-59)⁺, 23%]. Anal. Calcd for C₁₇H₁₂O₂: C, 82.24; H, 4.87. Found: C, 82.19; H, 4.90.

第五章第一節第三項の実験

<u>6-Bromo-2,3-methylenedioxybenzoic acid methyl ester (93a) (Table 4)</u>

6-Bromo-2,3-methylenedioxybenzoic acid ⁵⁸ (3.59 g, 14.7 mmol) を DMF 25 mL に溶解し、 K₂CO₃ (4.0 g, 29.3 mmol, 2.0 eq.) 加え、0 ℃下、MeI (1.82 mL, 29.2 mmol, 1.99 eq.) 滴下。 0 ℃, 1 h, 室温下 12 h 撹拌。反応終了後、反応物を氷-2*N*HCl (50 mL) 中に空け、AcOEt (10 mL x 3) 抽出。水洗 (10mL x 2)、brine 洗 (5 mL)、Na₂SO₄ で乾燥後、溶媒留去。残渣を SiO2 カラム (*n*-hexane-AcOEt 10:1) で精製し **93a** を淡黄色結晶として 3.20 g (84%) 得た。 M.P. 52-53 ℃ (Et₂O-*n*-hexane).

IR $v \max \text{cm}^{-1}$: 1734 (C=O).

¹H-NMR δ: 3.95 (3H, s, CH₃), 6.06 (2H, s, methylenedioxy), 6.75 (1H, d, *J* = 8.0 Hz, C5-H), 7.08 (1H, d, *J* = 8.0 Hz, C4-H).

¹³C-NMR δ: 52.6 (CH₃), 102.5 (CH₂), 111.1 (CH), 111.2 (C), 116.2 (C), 126.3 (CH), 147.6 (C), 147.8 (C), 164.3 (C).

HRFABMS m/z: 257.9526 (Cacd for C₉H₇⁷⁹BrO₄ (M⁺): 257.9528), 259.9515 (Cacd for C₉H₇⁸¹BrO₄ (M⁺): 259.9507).

6-Bromo-2,3-methylenedioxybenzoic acid tert butyl ester (93b) (Table 4)

MgSO₄ (2.275 g, 18.9 mmol, 4.0 eq.) を CH₂Cl₂ (20 mL) に懸濁し、室温下、conc.H₂SO₄ (0.25 mL, 4.73 mmol, 1.0 eq.) を 加 え 15 min. 撹 拌 。 次 い で 、 6-bromo-2,3-methylenedioxybenzoic acid ⁵⁵⁾ (1.159 g, 4.73 mmol) の CH₂Cl₂ (20 mL) 懸濁 液、⁶BuOH (2.20 mL, 23.7 mmol, 5.0 eq.) を順次加え 24 h 撹拌。反応終了後、反応物を sat.NaHCO₃ (40 mL) 中に空け 1 h 撹拌。 CHCl₃ (30 mL) を加えて抽出、有機層を水洗 (10 mL x 2)、brine 洗 (5 mL)、Na₂SO₄ で乾燥後、溶媒留去。 残渣を SiO₂ カラム (*n*-hexane: AcOEt = 9:1) で精製し、**93b** を無色油状物として 1.220 g (86%) 得た。 IR ν max cm⁻¹: 1722 (C=O).

¹H-NMR δ: 1.61 (9H, s, *t*Bu), 6.05 (2H, s, methylenedioxy), 6.70 (1H, d, *J* = 8.3 Hz, C5-H), 7.03 (1H, d, *J* = 8.3 Hz, C4-H).

¹³C-NMR δ: 28.1 (CH₃), 83.4 (C), 102.3 (CH₂), 110.4 (CH), 110.6 (C), 118.2 (C), 125.8 (CH), 147.1 (C), 147.5 (C), 162.9 (C).

HRFABMS m/z: 299.9970 (Cacd for C₁₂H₁₃⁷⁹BrO₄ (M⁺): 299.9997), 301.9968 (Cacd for C₁₂H₁₃⁸¹BrO₄ (M⁺): 301.9978)

2,3;7,8-Bis(methylenedioxy)-11,12-dihydro-6*H*-benzo[*d*]naphtho[1,2-b]pyran-6-one (112) (Table 4, entry 3)

Screw-capped tube に *tert*-butyl ester **93b** (0.255 g, 0.85 mmol), tetralone **92** ⁶¹ (0.241 g, 1.27 mmol, 1.5 eq.), Pd₂(dba)₃ (0.0310 g, 0.0338 mmol, 4 mol%), XANTPHOS (**102**) (0.0431 g, 0.0745 mmol, 8.8 mol%), K₃PO₄ (0.413 g, 1.85 mmol, 2.2 eq.), Na₂S₂O₅ (0.0162 g, 0.081 mmol, 0.1 eq.), *o*xylene (1.5 mL) 加え、130 °C で 20 h 加熱。 冷後、溶 媒留去。 残渣に CHCl₃ (20 mL) 加え 1 h 撹拌。 不溶物濾去。 濾液を水洗、brine 洗、

Na₂SO₄ 乾燥後溶媒留去。 残渣に AcOEt (10 mL) 加えて洗浄し、 **112** を黄色結晶として 0.168 g (59%) 得た 。 濾液を濃縮 し SiO₂ カラム (benzene ~ benzene/acetone =100:1) で精製し lactone **112** を黄色結晶として 0.040 g (14%) 得た。合わせて 0.208 g (73%) 得た。 M.P. > 300 ℃ (CHCl₃-AcOEt).

IR $v \max \text{cm}^{-1}$: 1714 (C=O).

¹H-NMR δ : 2.81, 2.91 (each 2H, dif.t, J= 7.8 Hz, C11-H and C12-H), 5.96, 6.23 (each 2H, s, methylenedioxy), 6.69 (1H, s, C1-H), 7.01, 7.18 (each 1H, d, J= 8.3 Hz, C9-H and C10-H), 7.35 (1H, s, C4-H).

¹³C-NMR δ: 21.9 (CH₂, C11 or C12), 27.6 (CH₂, C11 or C12), 101.3 (CH₂, methylenedioxy), 103.2 (CH₂, methylenedioxy), 103.7 (CH), 105.6 (C), 107.8 (C), 108.3 (CH), 114.7 (CH), 115.1 (CH), 122.8 (C), 130.9 (C), 131.7 (C), 146.7 (C), 146.9 (C), 147.6 (C), 148.1 (C), 149.3 (C), 158.7 (C).

HRFABMS *m/z*: 336.0621 (Cacd for C₁₉H₁₂O₆ (M⁺): 336.0634.

Anal. Calcd for C₁₉H₁₂O₆: C, 67.86; H, 3.60. Found: C, 67.54; H, 3.63.

2,3;7,8-Bis(methylenedioxy)-11,12-dihydro-6*H*benzo[*d*]naphtho[1,2-b]pyran-6-one (112) and 2,3-Methylenedioxy-6-(5-oxo-5,6,7,8-tetrahydronaphtho[2,3-*d*][1,3]dioxol-6-yl) benzoic acid (112) (Table 4, entry 6)

Schlenk tube に drybox 中で tetralone **92**⁶¹⁾ (1.427 g, 7.5 mmol, 1.5 eq), Pd₂(dba)₃ (0.183 g, 0.20 mmol, 4.0 mol%), Xantphos (**102**) (0.255 g, 0.44 mmol, 8.8 mol%), Cs₂CO₃ (3.823 g, 11.5 mmol, 2.3 eq.), Na₂S₂O₅ (0.095 g, 0.5 mmol, 0.1 eq.) を秤取り窒素置換。 *tert* Butyl ester **93b** (1.506 g, 5.0 mmol) の dry PhMe (10 mL) 溶液を Schlenk tube にシ リンジで加え、100 °C で 20 h 撹拌した。冷後、反応物に CHCl₃ (600 mL) 加え撹拌 1 h 後 celite 濾過。濾液を水洗 (20 mL x 2), brine 洗 (10 mL)、 Na₂SO₄ 乾燥後溶媒留去した。 残 渣 (2.430 g) を AcOEt (20 mL) で洗浄し、 **112** を黄色結晶として 1.316 g (78%) 得た 。 水層 (中性) を合わせて 2N HCl (2 mL) で酸性 (pH 4) とし CHCl₃ 抽出 (20 mL x 3), brine 洗 (5 mL)、 Na₂SO₄ 乾燥後溶媒留去し、**112'** を 0.0483 g (3%) 得た。これを benzene (3 mL) に溶解し *p*TsOH·H₂O (0.0026 g, 0.0136 mmol, 0.1 eq.) 加え Dean-Stark を付け 1 h 還流した。 冷後、CHCl₃ (10 mL) 加え水洗 (1 mL x 2), 1*N*NaOH (1 mL) 洗、 brine 洗 (5 mL)、 Na₂SO₄ 乾燥し lactone **112** を黄色結晶として 0.0483 g (quant.) 得た。 合わせて lactone **112** を 1.364 g (81%) 得た。

112' のデータ M.P. > 300 °C (CHCl₃). IR $\nu \max \operatorname{cm}^{-1}$: 2902 (OH), 1660 (C=O). ¹H-NMR (d₆-DMSO) δ : 2.17 (1H, ddd, J= 12.0, 7.4, 3.7 Hz, C7'-H), 2.40 (1H, ddd, J= 16.4, 12.4, 4.2 Hz, C7'-H), 2.90 (1H, ddd, J= 16.4, 7.4, 3.7 Hz, C8'-H), 3.01 (1H, ddd, J= 16.4, 12.0, 4.2 Hz, C7'-H), 4.27 (1H, dd, J= 12.4, 4.2 Hz, C6'-H), 6.06, 6.07 (each 1H, s, methylenedioxy), 6.08 (2H, s, methylenedioxy), 6.67 (1H, d, J= 8.1 Hz, C5-H), 6.89 (1H, s, C9'-H), 6.96 (1H, d, J= 8.1 Hz, C4-H), 7.26 (1H, s, C4'-H), 12.9 (1H, brs, OH, exchangeable with D₂O).

¹³C-NMR (d₆-DMSO) δ: 29.0 (CH₂), 30.7 (CH₂), 50.8 (CH), 101.3 (CH₂), 101.6 (CH₂), 105.1 (CH), 107.9 (CH), 109.8 (CH), 115.4 (C), 122.0 (CH), 127.0 (C), 133.0 (C), 140.6 (C), 146.3 (C), 146.4 (C), 146.8 (C), 151.5 (C), 166.1 (C), 195.0 (C).

EIMS *m/z* 355 [(M+1)+, 4.8%], 336 [(M-18)+, 11%], 281 [(M-73)+, 13%], 207 [(M-147)+, 100%].

第五章第二節第二項の実験

(\pm) -Spiro[phthalide-3,2'-1'-tetralone] [(\pm) -135] (Table 5, entry 1)

Lactone 111 (0.125 g, 0.5 mmol) を MeCN (5.0 mL), 1,4-dioxane (5.0 mL) に溶解し、室 温下、EDTANa₂·2H₂O (4 x 10⁻⁴ M solution, 2.5 mL) を加えて撹拌下、1,1,1-trifluoroacetone (1.10 ml, 12.5 mmol, 25 eq.) を加え、0 °C下、OXONE[®] (1.54 g, 2.5 mmol, 5 eq.), NaHCO₃ (0.65 g, 7.7 mmol, 15 eq.) をあわせて乳鉢で磨り潰したものを 10 分かけて加え、0 °C, 0.5 h. 撹拌した。反応物に AcOEt (30 mL) を加え 不溶物を濾去。濾液を Na₂SO₄ で乾燥し溶媒 留去した。残渣を SiO₂ カラム (*n*-hexane:AcOEt = 9:1) で精製し (±)-135 を淡黄色結晶 として 0.115 g (87 %) 得た。

M.P. 142-144 °C (AcOEt-*n*-hexane).

IR $\nu \max \operatorname{cm}^{-1}$: 1765 (C=O), 1687 (C=O).

¹H-NMR δ : 2.57 (1H, ddd, J= 13.6, 6.4, 5.2 Hz, C3'-H), 2.74 (1H, ddd, J= 13.6, 7.8, 6.0 Hz, C3'-H), 3.34 (1H, ddd, J= 17.6, 7.8, 5.2 Hz, C4'-H), 3.45 (1H, ddd, J= 17.6, 6.4, 6.0 Hz, C4'-H), 7.26-7.29 (1H, m, Ar-H), 7.39 (1H, d, J= 7.6 Hz, C5'-H), 7.41 (1H, d, J= 7.6 Hz, C7'-H), 7.56-7.65 (3H, m, Ar-H), 7.97 (1H, d, J= 7.6 Hz, C7-H), 8.06 (1H, d, J= 8.1 Hz, C8'-H).

¹³C-NMR δ: 25.8 (CH₂, C4'), 33.7 (CH₂, C3'), 86.8 (C, C3), 122.3 (CH, C4), 126.1 (C, C7a), 126.4 (CH, C7), 127.5 (CH, C7'), 128.9 (CH, C8'), 129.1 (CH, C5'), 130.0 (CH, C6), 130.9 (C, C8'a), 134.2 (CH, C5), 134.7 (CH, C6'), 143.1 (C, C4'a), 148.0 (C, C3a), 169.3 (C, C1), 190.1 (C, C1').

EIMS m/z 370 (M+, 42%), 118 [(M-146)+, 100%].

Table 5, entry 2

Lactone 111 (12.5 mg, 0.05 mmol) を MeCN (1.5 mL), DME (3.0 mL) に溶解し、0 $^{\circ}$ 下、Na₂B₄O₇·10H₂O [0.5 mL, 0.05 M in EDTANa₂·2H₂O (4 x 10⁻⁴ M solution)]、 ^{*n*}Bu₄NHSO₄ (0.7 mg, 0.002 mmol, 0.04 eq.) 、 1,2:4,5-di-*O* isopropylidene-D-erythro-2,3-hexodiuro-2,6-pyranose (122) 13.0 mg (0.05 mmol, 1.0 eq.) を順次加えて撹拌下、OXONE[®] (61.5 mg, 0.1 mmol, 2.0 eq.) -EDTANa₂·2H₂O [0.4 mL (4 x 10⁻⁴ M solution)] 溶液と K₂CO₃(58.0 mg, 0.42 mmol, 8.4 eq.) - H₂O (0.4 mL) 溶液を少量ずつ同時に加えた。反応温度を室温に上げ 14 h 撹拌したが、反応の進行が見られなかったため、反応を中断した。

135 (Table 5, entry 3)

Lactone 111 (24.8 mg, 0.1 mmol) を MeCN (1.5 mL), 1,4-dioxane (1.5 mL) に溶解し、 EDTANa₂·2H₂O (4 x 10⁻⁴ M solution, 0.5 mL) を 加 え 10 °C 以下 撹 拌下、 (+)-3-(trifluoroacetyl)camphor (0.021 mL, 0.1 mmol, 1.0 eq.)、OXONE[®] (307.0 mg, 0.5 mmol, 5 eq.), NaHCO₃ (65.0 mg, 0.78 mmol, 7.75 eq.) をあわせて乳鉢で磨り潰したものを 30 分かけて加えた。反応温度を徐々に室温に上げ 14 h 撹拌した。反応物を H₂O (20 mL) に空け、CHCl₃ 抽出 (10 mL x 2)、brine 洗 (3 mL)、 Na₂SO₄ で乾燥し溶媒留去した。残 渣を SiO₂ カラム (*n*-hexane : AcOEt = 50 : 1) で精製し、原料 111 を 18.0 mg (73%) 回収 し 135 を淡黄色結晶として 3.7 mg (14%) 得た。

6% ee by chiral HPLC (CHIRALCEL OD, 0.46 cm x 25 cm), *n*-hexane/EtOH = 10 : 1, flow rate = 1.0 ml / min., detection wavelength = 254 nm, $t_{\rm R}$ (major) = 22.3 min., $t_{\rm R}$ (minor) = 16.0 min.

第五章第二節第三項の実験

(±)-Spiro[6,7-methylenedioxyphthalide-3,2'-6',7'-methylenedioxy-1'-tetralone] [(±)-89] (Table 6, entry 1)

Lactone 112 (16.8 mg, 0.05 mmol) を MeCN (1.0 mL), CHCl₃ (4.0 mL) に溶解し、室温 下、EDTANa₂·2H₂O (4 x 10⁻⁴ M solution, 0.2 mL, 0.08 mmol) を加えて撹拌下、 1,1,1-trifluoroacetone (0.45 mL, 5.0 mmol, 100 eq.) を加え、0 ℃下、OXONE[®] (0.307 g, 0.5 mmol, 10 eq.), NaHCO₃ (0.126 g, 1.5 mmol, 30 eq.) をあわせて磨り潰した粉末を 5 分かけ て加えた。 室温で 0.5 h 撹拌。 反応終了後、反応液を H₂O (20 mL) 中にあけ、CHCl₃ 抽 出 (3 mL x 5), brine 洗 (3 mL), Na₂SO₄ で乾燥後、溶媒留去した。 残渣を SiO₂ カラム (*n*-hexane:AcOEt = 7:3) で精製し(±)-89 を無色結晶として 14.0 mg (80%) 得た。

M.P. 290-291 °C (AcOEt- *n*-hexane).

IR $v \max \operatorname{cm}^{-1}$: 1749 (C=O), 1670 (C=O).

¹H-NMR δ : 2.47 (1H, ddd, J= 13.1, 6.3, 5.4 Hz, C3'-H), 2.66 (1H, ddd, J= 13.1, 8.0, 5.4 Hz, C3'-H), 3.20 (1H, ddd, J= 17.4, 8.0, 5.4 Hz, C4'-H), 3.28 (1H, ddd, J= 17.4, 6.3, 5.4 Hz, C4'-H), 6.06 (2H, s, C6',7'-methylenedioxy), 6.20 (2H, d, J= 7.3 Hz, C6,7-methylenedioxy), 6.68 (1H, d, J= 8.1 Hz, C4-H), 6.75 (1H, s, C5'-H), 7.00 (1H, d, J= 8.1 Hz, C5-H), 7.44 (1H, s, C8'-H).

¹³C-NMR δ: 26.0 (CH₂, C4'), 33.9 (CH₂, C3'), 86.8 (C, C2'), 102.1 (CH₂, methylenedioxy, C6',7'), 103.6 (CH₂, methylenedioxy, C6,7), 107.4 (CH, C8'), 108.0 (CH, C5'), 108.8 (C, C7a), 113.6 (CH, C5), 114.7 (CH, C4), 125.5 (C, C8'a), 140.4 (C, C4'a), 141.0 (C, C3a), 145.4 (C, C7), 147.7 (C, C7'), 150.0 (C, C6), 153.4 (C, C6'), 166.2 (C, C1), 188.2 (C, C1'). FABMS *m/z*: 353 [M+H]⁺

(-)-Spiro[6,7-methylenedioxyphthalide-3,2'-6',7'-methylenedioxy-1'-tetralone] [(-)-89] (Table 6, entry 2)

Lactone 112 (67.3 mg, 0.2 mmol), AD-mix-a (1400 mg), K₂OsO₂(OH)₄ (7.4 mg, 0.02 mmol, 10 mol%), (DHQ)₂PHAL (78.0 mg, 0.1 mmol, 50 mol%), MeSO₂NH₂ (28.6 mg, 0.3 mmol, 1.5 eq.), 50% ⁴BuOH aq. (10 mL), CH₂Cl₂ (10 mL) の混合物を室温下 88 h 撹拌した。反応 終了後、反応物に Na₂SO₃ 2 g 加え 1 h 撹拌。CHCl₃ 10 mL 加え有機層を除去 [(DHQ)₂PHAL 含有]。水層を 2 *N*HCl (7 mL) で酸性 (約 pH 4) とし、CHCl₃ 抽出 (5 mL x 2), brine 洗 (5 mL)。Na₂SO₄ で乾燥し溶媒留去し SiO₂ カラム (CHCl₃) で精製し(-)-89 を 54.0 mg (77%) 得た。

M.P. 254-255 °C (AcOEt- *n*-hexane).

IR $\nu \max \operatorname{cm}^{-1}$: 1753 (C=O), 1674 (C=O).

¹H-NMR δ : 2.47 (1H, ddd, J= 13.1, 6.3, 5.4 Hz, C3'-H), 2.66 (1H, ddd, J= 13.1, 8.0, 5.4 Hz, C3'-H), 3.20 (1H, ddd, J= 17.4, 8.0, 5.4 Hz, C4'-H), 3.28 (1H, ddd, J= 17.4, 6.3, 5.4 Hz, C4'-H), 6.05, 6.07 (each 1H, d x 2, J= 10.7 Hz, C6',7'-methylenedioxy), 6.18, 6.21 (each 1H, d x 2, J= 10.3 Hz, C6,7-methylenedioxy), 6.68 (1H, d, J= 7.9 Hz, C4-H), 6.75 (1H, s, C5'-H), 7.00 (1H, d, J= 7.9 Hz, C5-H), 7.43 (1H, s, C8'-H).

¹³C-NMR δ: 25.9 (CH₂, C4'), 33.9 (CH₂, C3'), 86.8 (C, C2'), 102.1 (CH₂, methylenedioxy, C6',7'), 103.6 (CH₂, methylenedioxy, C6,7), 107.3 (CH, C8'), 108.0 (CH, C5'), 108.7 (C, C7a), 113.6 (CH, C5), 114.7 (CH, C4), 125.4 (C, C8'a), 140.4 (C, C4'a), 141.0 (C, C3a), 145.3 (C, C7), 147.7 (C, C7'), 149.8 (C, C6), 153.3 (C, C6'), 166.2 (C, C1), 188.2 (C, C1').
HRFABMS *m/z*: 353.0647 (Cacd for C₁₉H₁₃O₇ (M+H)+: 353.0661).

 $[\alpha]_{D^{25}}$ - 103 (*c* 0.104, CHCl₃).

86% ee by chiral HPLC (CHIRALPAK IA, 0.46 cm x 25 cm); *n*-hexane/CH₂Cl₂/EtOH = 15:5:4; flow rate = 0.5 mL/min; detection wavelength = 254 nm; $t_{\rm R}$ (major) = 21.7 min., $t_{\rm R}$ (minor) = 17.1 min.

(+)-Spiro[6,7-methylenedioxyphthalide-3,2'-6',7'-methylenedioxy-1'-tetralone] [(+)-89] (Table 6, entry 3)

Lactone **112** (67.3 mg, 0.2 mmol), AD-mix-β (1400 mg), K₂OsO₂(OH)₄ (7.4 mg, 0.02 mmol, 10 mol%), (DHQD)₂PHAL (78.0 mg, 0.1 mmol, 50 mol%), MeSO₂NH₂ (28.6 mg, 0.3 mmol, 1.5 eq.), 50% /BuOH aq. (10 mL), (CH₂Cl₂) 10 mL の混合物を室温下 88 h 撹拌した。 以下、entry 1 と同様に処理し (+)-**89** を 50.0 mg (71%) 得た。

M.P. 252-253 °C (AcOEt- *n*-hexane).

IR $\nu \max \operatorname{cm}^{-1}$: 1757 (C=O), 1676 (C=O).

¹H-NMR δ : 2.47 (1H, ddd, J= 13.1, 6.3, 5.4 Hz, C3'-H), 2.66 (1H, ddd, J= 13.1, 8.0, 5.4 Hz, C3'-H), 3.20 (1H, ddd, J= 17.4, 8.0, 5.4 Hz, C4'-H), 3.28 (1H, ddd, J= 17.4, 6.3, 5.4 Hz, C4'-H), 6.06 (2H, s, C6',7'-methylenedioxy), 6.19 (1H, s, C6,7-methylenedioxy), 6.20 (1H, s, C6,7-methylenedioxy), 6.69 (1H, d, J= 7.9 Hz, C4'-H), 6.75 (1H, s, C5'-H), 7.00 (1H, d, J= 7.9 Hz, C5'-H), 7.43 (1H, s, C8'-H).

¹³C-NMR δ: 26.0 (CH₂, C4'), 33.9 (CH₂, C3'), 86.8 (C, C2'), 102.1 (CH₂, methylenedioxy, C6',7'), 103.6 (CH₂, methylenedioxy, C6,7), 107.3 (CH, C8), 108.0 (CH, C5'), 108.7 (C, C7a), 113.6 (CH, C5), 114.7 (CH, C4), 125.4 (C, C8'a), 140.4 (C, C4'a), 141.0 (C, C3a), 145.3 (C, C7), 147.7 (C, C7'), 149.9 (C, C6), 153.4 (C, C6'), 166.2 (C, C1), 188.2 (C, C1').

HRFABMS *m/z*: 353.0647 (Cacd for C₁₉H₁₃O₇ (M+H)+: 353.0661).

 $[\alpha]_{D^{25}}$ +96 (*c* 0.1, CHCl₃).

85% ee by chiral HPLC (CHIRALPAK IA, 0.46 cm x 25 cm); *n*-hexane/CH₂Cl₂/EtOH = 15:5:4; flow rate = 0.5 mL/min; detection wavelength = 254 nm; $t_{\rm R}$ (major) = 17.1 min., $t_{\rm R}$ (minor) = 21.4 min.

第五章第三節第二項の実験 (Scheme 29, Table 7)

2,3;7,8-Bis(methylenedioxy)-11,12-dihydro-5-methyl-5*H*-benzo[*c*]phenanthridin-6-one (146) (Scheme 29)

Lactone 112 (0.3784 g, 1.13 mmol) を MeOH (50 mL) に懸濁し、60 °C 下、 40% MeNH₂·H₂O (6 mL, 77.4 mmol, 68 eq.) を 1 h 毎に 1.0 mL づつ加え 5 h 撹拌 (懸濁 →溶解)。反応終了後、MeOH を留去し残渣に CHCl₃ (20 mL) を加えて抽出、有機層を水 洗 (5 mL x 2)、brine 洗 (5 mL)、Na₂SO₄ で乾燥後溶媒留去した。 残渣にベンゼン (20 mL) を加えて溶解し、 *p*TsOH·H₂O (0.019 g, 0.1 mmol) 加え、Dean-Stark の装置を付け 100 °C, 1.5 h 撹拌した。 TLC でアミドの消失を確認後、冷後、反応物に水 (10 mL) を加 え CHCl₃ 抽出 (10 mL x 2)、水洗 (5 mL)、brine 洗 (5 mL)、Na₂SO₄ で乾燥後溶媒留去 した。 残渣を SiO₂ short カラム (AcOEt: *m*hexane = 1:1) で精製し lactam 146 を黄色 結晶として 0.3341 g (85%) 得た。

- M.P. >300 °C (CHCl₃-AcOEt).
- IR $v \max \text{cm}^{-1}$: 1641(C=O).

¹H-NMR δ: 2.70-2.73, 2.76-2.78 (each 2H, m, C11-H and C12-H), 3.67 (3H, s, CH₃), 5.99, 6.24 (each 2H, s, methylenedioxy), 6.80, 6.91 (each 1H, s, C1-H and C4-H), 7.17, 7.21 (each 1H, d, *J* = 8.5 Hz, C9-H and C10-H).

¹³C-NMR δ: 24.4 (CH₂), 29.1 (CH₂), 37.5 (CH₃), 101.2 (CH₂), 102.7 (CH₂), 106.5 (CH), 108.3 (CH), 110.8 (C), 113.3 (CH), 115.3 (CH), 115.9 (C), 124.2 (C), 130.8 (C), 132.7 (C), 136.2 (C), 146.1 (C), 146.6 (C), 146.7 (C), 147.3 (C), 162.0 (C).

HRFABMS *m/z*: 349.0934 (Cacd for C₂₀H₁₅NO₅ (M⁺): 349.0950).

(±)-,3;7,8-Bis(methylenedioxy)-11,12-dihydro-4b,10b-dihydoxy-5-methyl-5*H*benzo[*c*]phenanthridin-6-one [(±)-**147**] (Table 7, entry 1)

Lactam 146 (35.0 mg, 0.1 mmol) を MeCN (2.0 mL), CHCl₃ (8.0 mL) に溶解し、室温下、 EDTANa₂·2H₂O (4 x 10⁻⁴ M solution, 0.2 mL, 0.08 mmol) を加えて撹拌下、 1,1,1-trifluoroacetone (0.90 mL, 10.0 mmol, 100 eq.) を加え、0 °C下、OXONE® (0.307 g, 0.5 mmol, 5 eq.), NaHCO₃ (0.126 g, 1.5 mmol, 15 eq.) をあわせて磨り潰した粉末を 10 分かけ て加えた。0 °C, 0.5 h, 室温 1 h. 撹拌。 反応終了後、反応液をろ過して不溶物を除去し、 CHCl₃ (3 mL) で洗浄。 ろ液を水洗 (3 mL), brine 洗 (3 mL), Na₂SO₄ で乾燥後、溶媒留 去した。残渣を SiO₂ カラム (*n*-hexane : AcOEt = 1: 1 ~ AcOEt) で精製し (±)-147 を無色 結晶として 21.0 mg (55%) 得た。 M.P. 213-216 °C (AcOEt-CH₂Cl₂). IR $\nu \max \operatorname{cm}^{-1}$: 3273 (OH), 1645 (C=O).

¹H-NMR (d₆-DMSO) δ : 1.90-2.00 (1H, m, C11 or C12-H), 2.15 (1H, ddd, J = 14.9, 7.7, 6.9 Hz), 2.62 (1H, ddd, J = 16.9, 7.7, 5.0 Hz, C11 or C12-H), 2.74 (3H, brs, CH₃), 2.86 (1H, ddd, J = 16.9, 8.7, 7.7 Hz, C11 or C12-H), 5.07 (1H, s, OH, exchangeable with D₂O), 5.97, 5.98 (each 1H, s, methylenedioxy), 6.05 (1H, s, OH, exchangeable with D₂O), 6.08, 6.09 (each 1H, s, methylenedioxy), 6.66 (1H, s, C1-H), 7.03 (1H, d, J = 8.00 Hz, C10-H), 7.06 (1H, brs, C4-H), 7.08 (1H, d, J = 8.0 Hz, C9-H).

¹³C-NMR (d₆-DMSO) δ: 25.5 (CH₂), 29.2 (CH₃), 72.5 (C), 87.1 (C), 100.8 (CH₂), 101.8 (CH₂), 107.6 (CH), 110.6 (CH), 117.1 (CH), 129.9 (C), 145.2 (C), 146.6 (C), 146.9 (C), 147.6 (C), 161.0 (C).

HREIMS *m/z*: 383.1014 (Cacd for C₂₀H₁₇NO₇ (M⁺): 383.1005).

(+)-,3;7,8-Bis(methylenedioxy)-11,12-dihydro-4b,10b-dihydoxy-5-methyl-5*H*benzo[*c*]phenanthridin-6-one [(+)-147] (Table 7, entry 7)

Lactam 146 (0.140 g, 0.4 mmol), AD-mix- α (2.8 g), K₂OsO₂(OH)₄ (0.0148 g, 0.04 mmol, 10 mol%), (DHQ)₂PHAL (0.156 g, 0.2 mmol, 50 mol%), MeSO₂NH₂ (0.0572 g, 0.6 mmol, 1.5 eq.), 50% BuOHaq. (20 mL), CH₂Cl₂ (20 mL) の混合物を0°C下、75 h 撹拌した。反応終了後、反応物に Na₂SO₃ 4 g 加え 1 h 撹拌。CH₂Cl₂ 抽出(10 mL x 3)。brine 洗 (5 mL)。Na₂SO₄ で乾燥し溶媒留去。残渣に CH₂Cl₂ (10 mL) 加え結晶濾取し (+)-147 を無色結晶として 0.103 g (67%) 得た。濾液を濃縮し残渣をSiO₂ カラム (*n*-hexane : AcOEt = 1: 1) で精製し (+)-147 を無色結晶として 0.024 g (16%) 得た。合わせて (+)-147 を 0.127 g (83%) 得た。

M.P. 193-195 °C (MeOH).

IR $v \max \text{cm}^{-1}$: 3278 (OH), 1646 (C=O).

¹H-NMR (d₆-DMSO) δ : 1.90-2.00, 2.14-2.19 (each 1H, m, C11 or C12-H), 2.62 (1H, ddd, J= 17.5, 7.5, 4.5 Hz, C11 or C12-H), 2.85 (1H, ddd, J= 17.5, 16.6, 7.5 Hz, C11 or C12-H), 2.73 (3H, brs, CH3), 2.82-2.88 (1H, m, C11 or C12-H), 5.11 (1H, s, OH, exchangeable with D₂O), 5.98 (2H, d, J= 4.0 Hz, methylenedioxy), 6.07 (1H, s, OH, exchangeable with D₂O), 6.07 (2H, d, J= 3.0 Hz, methylenedioxy), 6.65 (1H, s, C1-H), 7.03 (1H, d, J= 8.0 Hz, C10-H), 7.06 (1H, brs, C4-H), 7.07 (1H, d, J= 8.0 Hz, C9-H).

¹³C-NMR (d₆-DMSO) δ: 25.8 (CH₂), 29.5 (CH₃), 72.7 (C), 87.4 (C), 101.0 (CH₂), 102.0 (CH₂), 107.9 (CH), 110.9 (CH), 117.4 (CH), 130.1 (C), 145.4 (C), 146.8 (C), 147.2 (C), 147.9 (C), 161.3 (C).

HRFABMS *m/z*: 384.1087 (Cacd for C₂₀H₁₈NO₇ (M+H)+: 384.1083).

 $[\alpha]_{D^{24}} + 115 (c 0.05, MeOH).$

94% ee by chiral HPLC (CHIRALPAK IA, 0.46 cm x 25 cm); *n*-hexane/CH₂Cl₂/EtOH = 15:5:4; flow rate = 0.5 mL/min; detection wavelength = 254 nm; $t_{\rm R}$ (major) = 31.0 min., $t_{\rm R}$ (minor) = 25.0 min.

(-)-,3;7,8-Bis(methylenedioxy)-11,12-dihydro-4b,10b-dihydoxy-5-methyl-5*H*benzo[*c*]phenanthridin-6-one [(-)-**147**] (Table 7, entry 8)

AD-mix-β (2.80 g), K₂OsO₂(OH)₄ (0.0148 g, 0.04 mmol, 10 mol%), (DHQD)₂PHAL (0.156 g, 0.2 mmol, 50 mol%) に 50% ⁴BuOHaq. (20 mL) 加え室温下、15 min. 撹拌。次い で MeSO₂NH₂ (0.0572 g, 0.6 mmol, 1.5 eq.), lactam **146** (0.140 g, 0.4 mmol) の CH₂Cl₂ (20 mL) 溶液を順次加え 0 °C下、96 h 撹拌した。 反応終了後、反応物に Na₂SO₃ 4 g 加え 1 h 撹拌。CH₂Cl₂ 抽出(10 mL x 3)。brine 洗 (5 mL)。Na₂SO₄ で乾燥し溶媒留去。残渣に CH₂Cl₂ (5 mL) 加え結晶濾取し、(-)-**147** を無色結晶として 0.1249 g (81%) 得た。

M.P. 190-193 °C (MeOH).

IR $\nu \max \text{cm}^{-1}$: 3293 (OH), 1649 (C=O).

¹H-NMR (d₆-DMSO) δ : 1.90-2.00 (1H, m, C11 or C12-H), 2.15 (1H, ddd, J = 15.5, 7.6, 7.0 Hz, C11 or C12-H), 2.62 (1H, ddd, J = 17.5, 7.6, 4.9 Hz, C11 or C12-H), 2.74 (3H, brs, CH₃), 2.85 (1H, ddd, J = 17.5, 8.8, 7.6 Hz, C11 or C12-H), 5.01 (1H, s, OH, exchangeable with D₂O), 5.96 (2H, d, J = 1.6 Hz, methylenedioxy), 5.99 (1H, s, OH, exchangeable with D₂O), 6.07 (2H, d, J = 3.6 Hz, methylenedioxy), 6.65 (1H, s, C1-H), 7.02 (1H, d, J = 8.0 Hz, C10-H), 7.05 (1H, brs, C4-H), 7.08 (1H, d, J = 8.0 Hz, C9-H).

¹³C-NMR (d₆-DMSO) δ: 25.6 (CH₂), 29.3 (CH₃), 72.4 (C), 87.2 (C), 100.9 (CH₂), 101.8 (CH₂), 107.7 (CH), 110.7 (CH), 117.2 (CH), 129.9 (C), 145.2 (C), 146.6 (C), 147.0 (C), 147.7 (C), 161.1 (C).

HRFABMS *m/z*: 384.1065 (Cacd for C₂₀H₁₈NO₇ (M+H)+: 384.1083).

 $[\alpha]_{D^{24}}$ - 104 (*c* 0.05, MeOH).

86% ee by chiral HPLC (CHIRALPAK IA, 0.46 cm x 25 cm); *n*-hexane/CH₂Cl₂/EtOH = 15:5:4; flow rate = 0.5 mL/min; detection wavelength = 254 nm; $t_{\rm R}$ (major) = 24.9 min., $t_{\rm R}$ (minor) = 31.1.

(-)-,3;7,8-Bis(methylenedioxy)-11,12-dihydro-4b,10b-dihydoxy-5-methyl-5*H*benzo[*c*]phenanthridin-6-one [(-)-**147**] (Table 7, entry 9)

AD-mix-β (2.80 g), K₂OsO₂(OH)₄ (0.0148 g, 0.04 mmol, 10 mol%), (DHQD)₂PHAL (0.156 g, 0.2 mmol, 50 mol%) に 50% /BuOHaq. (20 mL) 加え室温下、15 min. 撹拌。次い でMeSO₂NH₂ (0.0572 g, 0.6 mmol, 1.5 eq.), lactam **133** (0.140 g, 0.4 mmol) の CH₂Cl₂ (20 mL) 溶液を順次加え室温下 (8-15 °C)、12 h 撹拌した。 反応終了後、反応物に Na₂SO₃ 4 g 加え 1 h 撹拌。CH₂Cl₂ 抽出 (10 mL x 3)、brine 洗 (5 mL)、Na₂SO₄ で乾燥し溶媒留 去。残渣に CH₂Cl₂ (5 mL) 加え結晶濾取し、(-)-147 を無色結晶として 0.1042 g (68%) 得た。 濾液を濃縮し残渣を SiO₂ カラム (*n*-hexane : AcOEt = 1: 1) で精製し (-)-147 を無色結晶 として 0.0163 g (11%) 得た。合わせて 0.1205 g (78%) 得た。

第五章第三節第四項の実験

(+)-Spiro[2,3-dihydro-2-methyl-7,8-methylenedioxy-2H-isoquinoline-1,4-dione-3,1'-5',6'methylenedioxyindane] (161) (Scheme 32)

(+)-Diol [(+)-147] (19.0 mg, 0.05 mmol) を CHCl₃ (10 mL) に懸濁し pTsOH·H₂O (0.9 mg, 0.005 mmol, 0.1 eq.), 4 Å MS (75 mg), 2,2-dimethoxypropane (0.1 mL, 0.81 mmol, 16.2 eq.) 加え 1 h 還流。 反応終了後、冷後、反応物に H₂O (1 mL) 加え水洗、brine 洗 (1 mL), Na₂SO₄ 乾燥し残渣 を SiO₂ カラム (*n*-hexane : AcOEt = 1: 1) で精製し (+)- 161 を無色結晶として 17.0 mg (94 %) 得た。

M.P. 90-95 °C (AcOEt-*n*-hexane).

IR $v \max \text{cm}^{-1}$: 1643 (C=O).

¹H-NMR δ : 2.43 (1H, ddd, J= 13.8, 9.2, 7.4 Hz, C2'-H), 2.72 (1H, ddd, J= 13.8, 9.2, 3.5 Hz, C2'-H), 3.02 (1H, ddd, J= 15.5, 9.2, 3.5 Hz, C3'-H), 3.14 (1H, ddd, J= 15.5, 9.2, 7.4 Hz, C3'-H), 5.91, 5.97 (each 1H, d, J= 1.3 Hz, methylenedioxy, C5'-C6'), 6.29, 6.30 (each 1H, s, methylenedioxy, C7-C8), 6.37 (1H, s, C7'-H), 6.74 (1H, s, C4'-H), 7.08 (1H, d, J= 8.2 Hz, C6-H), 7.70 (1H, d, J= 8.2 Hz, C5-H).

¹³C-NMR δ: 30.3 (CH₃), 30.9 (CH₂, C3'), 37.1 (CH₂, C2'), 80.0 (C, C1'), 101.5 (CH₂, methylenedioxy, C5'-C6'), 103.3 (CH, C7'), 103.6 (CH2, methylenedioxy, C7-C8), 105.3 (C, C4'), 111.9 (CH, C6), 115.0 (C, C8a), 123.5 (CH, C5), 124.4 (C, C4a), 134.2 (C, C7'a), 137.9 (C, C3'a), 147.55 (C, C6'), 147.65 (C, C8), 149.1 (C, C5'), 154.9 (C, C7), 159.9 (C, C1), 192.8 (C, C4).

EIMS m/z: 365 (M⁺, 100%), 350 [(M-15)⁺, 60%]. [α]_D²⁰ + 103 (c 0.043, CHCl₃). (-)-2,3;7,8-Bis(methylenedioxy)-5-methyl-4b,10b,11,12-tetrahydro-10b-triethylsilyloxy-5*H*-benzo[*c*]phenanthridin-6-one [(-)-**167**]

and (-)-Spiro[3,4-dihydro-2-methyl-7,8-methylenedioxy-2*H*-isoquinoline-1-one-3,1'-5',6'methylenedioxyindan] [(-)-**169**] (Table 8, entry 2)

(-)-Diol [(-)-147] (19.2 mg, 0.05 mmol) を CH_2Cl_2 (5.0 mL) に懸濁し、 Et_3SiH [1.3 mL (0.16 M solution in CH_2Cl_2), 0.2 mmol, 4 eq.] を加えて撹拌し Ar 下、内温 -40 °C 下、 BF_3OEt_2 [6.3 mL (0.008 M solution in CH_2Cl_2), 0.05 mmol, 1.0 eq.] 滴下 (10 min.)。同温度 で 2 h 撹拌。反応終了後、反応物を ice- H_2O (10 mL) 中に空け、 CH_2Cl_2 抽出 (5 mL x 2)。 有機層を水洗 (3 mL x 2)、 brine 洗 (3 mL)。 Na_2SO_4 で乾燥後、溶媒留去した。 残渣を SiO₂ カラム (*n* hexane : AcOEt = 1: 1) で精製し (-)-167 を無色結晶として 9.2 mg (30 %)、 (-)-169 を無色結晶として 12.7 mg (70 %)得た。

(-)-167

M.P. 95-97 °C (Et₂O-*n*-hexane).

IR $v \max \text{cm}^{-1}$: 1650 (C=O).

¹H-NMR δ : 0.31, 0.34 (each 3H, dq, J= 15.0, 7.7 Hz, CH₂ of Et), 0.81 (9H, t, J= 7.7 Hz, CH₃ of Et), 2.23 (1H, ddd, J= 13.7, 12.1, 6.7 Hz, C11-H), 2.67 (1H, dd, J= 13.7, 5.8 Hz, C11-H), 2.75 (1H, ddd, J= 17.3, 12.1, 5.8 Hz, C12-H), 2.86 (1H, dd, J= 17.3, 6.7 Hz, C12-H), 3.44 (3H, s, CH₃), 4.42 (1H, s, C4b-H), 5.82, 5.85 (each 1H, d, J= 1.4 Hz, methylenedioxy), 5.97, 6.15 (each 1H, d, J= 1.1 Hz, methylenedioxy), 6.38 (1H, s, C1-H), 6.59 (1H, s, C4-H), 6.79 (1H, d, J= 8.1 Hz, C9-H), 6.86 (1H, J= 8.1 Hz, C10-H).

¹³C-NMR δ: 5.93 (CH₂, Et), 6.87 (CH₃, Et), 27.7 (CH₂, C11 or C12), 32.9 (CH₂, C11 or C12), 37.7 (CH₃, C5), 70.1 (C, C10b), 71.4 (CH, C4b), 100.9 (CH₂, methylenedioxy), 102.3 (CH₂, methylenedioxy), 106.0 (CH, C4), 107.7 (CH, C1), 109.9 (CH, C9), 113.3 (C, C8), 117.7 (CH, C10), 127.9 (C, C12a), 128.8 (C, C4a), 131.3 (C, C10a), 146.5 (C, C3), 147.0 (C, C2), 148.0 (C, C7), 149.1 (C, C6a), 161.7 (C, C6).

HRFABMS *m/z*· 482.1971 (Cacd for C₂₆H₃₂NO₆Si (M⁺): 482.1999). [α]_D²⁴ - 127 (*c* 0.10, CHCl₃).

(-)-169

M.P. 126-128 °C (AcOEt-*n*-hexane).

IR $v \max \text{cm}^{-1}$: 1645 (C=O).

¹H-NMR δ : 2.09 (1H, dt, J= 12.6, 7.4 Hz, C2'-H), 2.47 (1H, dt, J= 12.8, 6.4 Hz, C2'-H), 2.88 (1H, t, J= 7.4 Hz, C3'-H), 3.14 (3H, s, CH₃), 3.14 (1H, d, J= 12.6 Hz, C4-H), 3.75 (1H,

d, J = 12.6 Hz, C4·H), 5.94, 5.97, 6.07, 6.15 (each 1H, brs, methylenedioxy), 6.30 (1H, d, J = 8.3 Hz, C5·H), 6.54 (1H, s, C7'-H), 6.75 (1H, s, C4'-H), 6.76 (1H, d, J = 8.3 Hz, C6·H). ¹³C·NMR δ : 29.7 (CH₂,, C3'), 34.9 (CH₃), 39.2 (CH₂, C2'), 51.9 (C, C3), 57.9 (CH₂, C4), 101.2 (CH₂, methylenedioxy), 102.2 (CH₂, methylenedioxy), 104.6 (CH, C7'), 105.2 (CH, C4'), 110.8 (CH, C6), 112.5 (C, C8a), 117.8 (CH, C5), 137.5 (C, C7'a), 137.6 (C, C3'a), 138.9 (C, C4a), 146.9 (C, C5'), 147.8 (C, C7), 147.9 (C, C8), 162.5 (C, C1). HRFABMS m/z 352.1214 (Cacd for C₂₀H₁₈NO₅ (M+H)+: 352.1185). [α]_{D²⁴} - 144 (c 0.054, CHCl₃).

(-)-167 and (-)-169 (Table 8, entry 3)

(-)-Diol [(-)-147] (38.3 mg, 0.1 mmol) を CH_2Cl_2 (20 mL) に懸濁し、Ar 下、Et₃SiH (0.48 mL, 3 mmol, 30 eq.) を加え内温 -35 °C 下、BF₃·OEt₂ [1.3 mL (0.08 M solution in CH_2Cl_2), 0.1 mmol, 1.0 eq.] 滴下 (3 min.)。同温度で 2 h 撹拌。 反応終了後、反応物を H_2O (40 mL) 中に空け、 CH_2Cl_2 抽出 (10 mL)。有機層を水洗 (5 mL)、brine 洗 (5 mL)。Na₂SO₄ で乾 燥後、溶媒留去した。 残渣を SiO₂ カラム (*r*-hexane : AcOEt = 1: 1) で精製し (-)-167 を 無色結晶として 33.5 mg (70 %) 、(-)-169 を無色結晶として 3.5 mg (10 %)、(-)-168 を 2.2 mg (6%)得た。この他に原料 (-)-147 を 2.5 mg (7%) 回収した。

(-)-2,3;7,8-Bis(methylenedioxy)-10b-hydroxy-5-methyl-4b,10b,11,12-tetrahydro-5*H*-benzo[*c*]phenanthridin-6-one [(-)-**168**] (Table 8, entry 4)

(-)-Diol [(-)-147] (76.7 mg, 0.20 mmol) を CH₂Cl₂ (30 mL) に懸濁し、Ar 下、Et₃SiH (0.96 mL, 6.0 mmol, 30.0 eq.) を加え撹拌。内温 -35 ℃ 下、BCl₃ [0.20 mL (1M solution in CH₂Cl₂), 0.20 mmol, 1.0 eq.) 滴下 (5 min.)。 同温度で 1 h 撹拌。 反応終了後、反応物を H₂O (80 mL) 中に空け、有機層を水洗 (5 mL), brine 洗 (5 mL), Na₂SO₄ で乾燥後、溶媒留 去。 残渣を SiO₂ カラム (*r* hexane : AcOEt = 3 : 7 ~ AcOEt) で精製し (-)-168 を無色結晶 として 55.6 mg (76 %) 得た。

M.P. 263-264 °C (CHCl₃-AcOEt).

IR $\nu \max \text{cm}^{-1}$: 3423 (OH), 1633 (C=O).

¹H-NMR δ : 2.23 (1H, ddd, J= 13.9, 11.2, 7.0 Hz, C11 or C12-H), 2.62 (1H, ddd, J= 13.9, 6.5, 2.4 Hz, C11 or C12-H), 2.74 (1H, ddd, J= 17.2, 11.2, 6.5 Hz, C11 or C12-H), 2.87 (1H, ddd, J= 17.2, 6.5, 2.4 Hz, C11 or C12-H), 3.43 (3H, s, CH₃), 3.76 (1H, brs, OH, exchangeable with D₂O), 4.52 (1H, s, C4b-H), 5.84, 5.86, 5.90, 5.98 (each 1H, s, methylenedioxy), 6.42 (1H, s, C1 or C4-H), 6.59 (1H, s, C1 or C4-H), 6.79 (1H, d, J= 7.8 Hz), 6.92 (1H, d, J= 7.8 Hz).

¹³C-NMR δ : 27.2 (CH₂), 31.3 (CH₂), 37.2 (CH₃), 69.0 (C), 69.3 (CH), 101.0 (CH₂), 102.2 (CH₂), 106.3 (CH), 108.0 (CH), 110.7 (CH), 111.9 (C), 117.0 (CH), 128.4 (C), 128.5 (C), 132.4 (C), 146.5 (C), 147.1 (C), 147.8 (C), 148.8 (C), 161.8 (C). HRFABMS *m/z*: 368.1111 (Cacd for C₂₀H₁₈O₆ (M+H)+: 368.1134). $[\alpha]_{D}^{24}$ - 132 (*c* 0.03, CHCl₃).

Table 8, entry 5

(-)-Diol [(-)-134] (19.2 mg, 0.05 mmol) を CH₂Cl₂ (5 mL) に懸濁し、Ar 下、Et₃SiH (0.08 mL, 0.5 mmol, 10.0 eq.) を加え撹拌。 内温 -35 ℃ 下、 TiCl₄ [0.11 mL (0.46 M solution in CH₂Cl₂), 0.20 mmol, 1.0 eq.] 滴下 (5 min.)。同温度で 1 h 撹拌。反応終了後、反応物を 水 20 mL 中に空け、有機層を水洗 (5 mL), brine 洗 (5 mL), Na₂SO₄ で乾燥後、溶媒留去。 残渣を SiO₂ カラム (*m*hexane:AcOEt=3:7~AcOEt) で精製したが複雑な混 合物を与え構造を特定するに到らなかった。

第五章第四節第三項の実験

(-)-167 (Table 9, entry 2)

(-)-Diol [(-)-147, 91% ee] (153.3 mg, 0.4 mmol) を CH_2Cl_2 (27 mL) に懸濁し、Ar 下、 Et₃SiH (1.3 mL, 8.0 mmol, 20 eq.) を加え内温 -35 °C 下、 CF₃COOH (0.46 mL, 0.6 mmol, 1.5 eq.) 滴下 (1 min.)。同温度で 2 h 撹拌。反応終了後、反応物を 水 50 mL 中に空け、 CH_2Cl_2 抽出 (10 mL x 3)。有機層を水洗 (5 mL)、brine 洗 (5 mL)。Na₂SO₄ で乾燥後、 溶媒留去。 残渣を SiO₂ カラム (*n*-hexane : AcOEt = 1: 1 ~ AcOEt : MeOH = 50 : 3) で精 製し (-)-167 を無色結晶として 143.3 mg (75 %) 得た。

 $[\alpha]_{D^{24}}$ - 119 (*c* 0.121, CHCl₃).

90% ee by chiral HPLC (CHIRALPAK IA, 0.46 cm x 25 cm); *n*-hexane/CH₂Cl₂/EtOH = 15:5:0.1; flow rate = 0.5 mL/min; detection wavelength = 254 nm; $t_{\rm R}$ (major) = 26.4 min., $t_{\rm R}$ (minor) = 24.9.

(+)-2,3;7,8-Bis(methylenedioxy)-4b,10b-dihydro-5-methyl-10b-hydroxy-5*H*benzo[*c*]phenanthridin-6-one [(+)-**148**] and

2,3;7,8-Bis(methylenedioxy)-5-methyl-5*H*-benzo[*c*]phenanthridin-6-one (Oxysanguinarine) (170) (Scheme 36)

(-)-Alcohol [(-)-168] (32.2 mg, 0.088 mmol) を benzene (1.0 mL) に懸濁し DDQ (21.9 mg, 0.096 mmol, 1.1 eq.), K₂CO₃ (1.2 mg, 0.0088 mmol, 0.1 eq.) 加え 60 ℃ 8 h 撹拌。冷後、溶 媒留去し残渣に CHCl₃ (15 mL) を加え水洗 (3 mL), 1N NaOH 洗 (3 mL), 水洗 (3 mL), brine 洗 (3 mL), Na₂SO₄ dry, 溶媒留去。残渣 (27.7 mg) を SiO₂ カラム (AcOEt : *n*-hexane = 4 : 1) で精製し (+)-148 を 6.7 mg (21%), oxysanguinarine (170) を 3.5 mg (11%) 得た。

(+)-148

M.P. 257-260 °C (CHCl₃-*n*-hexane).

IR $\nu \max \operatorname{cm}^{-1}$: 3342 (OH), 1639 (C=O).

¹H-NMR δ : 3.42 (3H, s, CH₃), 4.80 (2H, C4b-H and OH), 5.84-5.87 (4H, m, methylenedioxy), 6.33, 6.40 (each 1H, d, J= 9.9 Hz, C11 and C12-H), 6.51, 6.57 (each 1H, s, C1 and C4-H), 6.67, 6.80 (each 1H, d, J= 7.8 Hz, C9 and C10-H).

¹³C-NMR δ: 36.4 (CH₃), 69.6 (CH), 70.6 (C), 101.2 (CH₂), 102.2 (CH₂), 105.5 (CH), 107.4 (CH), 110.6 (CH), 112.1 (C), 117.5 (CH), 126.8 (C), 127.4 (CH), 128.8 (C), 131.7 (CH), 133.4 (C), 147.0 (C), 147.1 (C), 147.3 (C), 148.8 (C), 161.7 (C).

HRFABMS m/z: 366.0994 (Cacd. for C20H15NO6 (M+H)+: 366.0978).

 $[\alpha]_{D^{24}}$ + 9.6 (*c* 0.107, CHCl₃).

Oxysanguinarine (170)

M.P. >300 °C [CHCl₃, (lit. ⁵⁹⁾ 360-362 °C)].

IR $v \max \text{cm}^{-1}$: 1649 (C=O).

¹H-NMR δ: 3.91 (3H, s, CH₃), 6.10 (2H, s, methylenedioxy), 6.27 (2H, s, methylenedioxy), 7.16 (1H, s, C1-H or C4-H), 7.24 (1H, d, *J*= 8.6 Hz, C10-H), 7.53 (1H, d, *J*= 8.8 Hz, C11 or C12-H), 7.57 (1H, s, C1-H or C4-H), 7.76 (1H, d, *J*= 8.6 Hz, C9-H), 7.98 (1H, d, *J*= 8.8 Hz, C11 or C12-H).

¹³C-NMR δ : 40.8 (CH₃), 101.5, 102.5, 102.9, 104.7, 110.9, 113.2, 115.4, 117.3, 118.7, 121.1, 123.5, 131.8, 135.6, 147.1, 147.5, 147.7, 147.8, 162.7.

EIMS m/z: 347 (M+, 100%), 318 [(M-29)+, 21%].

(+)-2,3;7,8-Bis(methylenedioxy)-4b,10b-dihydro-5-methyl-10b-triethylsilyloxy-5*H*benzo[*c*]phenanthridin-6-one [(+)-**171**] and

(+)-Spiro[2,3-dihydro-2-methyl-7,8-methylenedioxy-2*H*-isoquinoline-1,4-dione-3,1'-5',6'methylenedioxyindene] [(+)-**172**] (Scheme 36)

(-)-Silyl ether [(-)-167] (146.8 mg, 0.305 mmol) を benzene (3.0 mL) に溶解し、DDQ (103.8 mg, 0.457 mmol, 1.5 eq.) を加え 85 ℃ 3.5 h 撹拌。 反応終了後、溶媒留去し残渣に Et₂O (20 mL) 加え不溶物濾去。濾液を水洗 (3 mL x 2), 1N NaOH 洗 (1 mL x 2), 水洗 (3 mL x 3), brine 洗 (3 mL), Na₂SO₄ dry, 溶媒留去。残渣を SiO₂ カラム (*n*-hexane : AcOEt = 1:1) で精製し (+)-171 を 87.0 mg (60%), (+)-172 を 34.9 mg (32%) 得た。

(+)-171

M.P. 78-80 °C (Et₂O-*n*-hexane).

IR $v \max \text{cm}^{-1}$: 1647 (C=O).

¹H-NMR δ : 0.39 (6H, dq, J= 1.6, 7.8 Hz, CH₂ of Et), 0.85 (9H, t, J= 7.8 Hz, CH₃ of Et), 3.37 (3H, s, CH₃), 4.71 (1H, s, C4b-H), 5.86, 5.87 (each 1H, d, J= 1.2 Hz, methylenedioxy), 6.00, 6.15 (each 1H, d, J= 1.2 Hz, methylenedioxy), 6.25, 6.37 (each 1H, d, J= 10.0 Hz, C11 and C12-H), 6.50, 6.51 (each 1H, s, C1 and C4-H), 6.70, 6.78 (each 1H, d, J= 8.2 Hz, C9 and C10-H).

¹³C-NMR δ: 5.93 (CH₂, Et), 6.87 (CH₃, Et), 36.4 (CH₃), 70.1 (CH, C4b), 72.9 (C, C10b), 101.2 (CH₂, methylenedioxy), 102.3 (CH₂, methylenedioxy), 105.8 (CH,), 107.3 (CH), 110.0 (CH), 113.5 (C), 118.1 (CH), 126.5 (C), 127.1 (CH), 129.1 (C), 131.8 (CH), 132.8 (C), 146.9 (C), 147.3 (C), 147.3 (C), 149.3 (C), 161.6 (C, C6).

HRFABMS m/z: 480.1850 (Cacd for C₂₆H₃₀NO₆Si (M+H)+: 480.1842). [α]_D²⁴ +3.7 (c 0.027, CHCl₃).

(+)-172

M.P. 147-150 °C.

IR $v \max \text{cm}^{-1}$: 1697 (C=O).

¹H-NMR δ : 2.85 (3H, s, CH₃), 5.99, 6.03, 6.11, 6.14 (each 1H, d, J = 1.2 Hz, methylenedioxy), 6.18 (1H, d, J = 10.1 Hz, C2' or C3'-H), 6.52 (1H, s, C4'-H), 6.57, 6.76 (each 1H, d, J = 8.0 Hz, C5 and C6-H), 6.89 (1H, s, C7'-H), 7.48 (1H, d, J = 10.1 Hz, C2' or C3'-H).

¹³C-NMR δ: 26.8 (CH₃), 75.8 (C), 102.1 (CH₂), 103.0 (CH₂), 107.1 (CH), 109.8 (CH), 111.1 (CH), 112.7 (C), 113.9 (CH), 123.0 (CH), 124.6 (C), 134.4 (C), 137.2 (C), 143.7 (C), 146.1 (CH), 148.3 (C), 149.3 (C), 150.6 (C), 167.3 (C), 194.3 (C).

HRFABMS *m/z*: 364.0835 (Cacd for C₂₀H₁₄NO₆ (M+H)+: 364.0821).

(-)-(4b*S**,10b*R**,11*S**,12*S**)-12-(3-Chlorobenzoyloxy)-10b,11-dihydroxy-5-methyl-2,3;7,8-bis(methylenedioxy)-4b,5,6,10b,11,12-hexahydrobenzo[*c*]phenanthridin-6-one [(-)-173] (Scheme 37)

(+)-Allyl alcohol [(+)-148] (19.1 mg, 0.0523 mmol)を CH₂Cl₂ (1.0 mL) に溶解し0℃下、
65% mCPBA (9.5 mg, 0.0549 mmol, 1.05 eq.) 加え0℃下 2 h, 室温下 16 h 撹拌。反応終了後、反応物に CH₂Cl₂ (5 mL),水 (2 mL) 加え抽出。有機層をとり brine (3 mL) で洗浄後、
Na₂SO₄ で乾燥、溶媒留去し残渣を SiO₂ カラム (*n*-hexane : AcOEt = 4 : 1~3 : 2) で精製し(-)-173 を無色固体として 16.1 mg (57%) 得た。

M.P. 181-183 °C (MeCN).

IR $v \max \operatorname{cm}^{-1}$: 3377 (OH), 1712 (C=O), 1635 (C=O).

¹H-NMR δ : 3.42 (1H, s, OH, exchangeable with D₂O), 3.52 (3H, s, CH₃), 5.02 (1H, s, C4b-H), 5.11 (1H, d, J = 3.1 Hz, C11-H), 5.49 (1H, s, OH, exchangeable with D₂O), 5.84, 5.88, 5.91, 5.92 (each 1H, d, J=1.1 Hz, methylenedioxy), 6.10 (1H, d, J= 3.1 Hz, C12-H), 6.62, 6.67 (each 1H, s, C1 and C4-H), 6.80 (1H, d, J= 8.1 Hz, C10-H), 7.11 (1H, d, J= 8.1 Hz, C9-H), 7.43 (1H, dd, J= 7.9, 7.9 Hz, C5'-H), 7.58 (1H, brd, J= 7.9 Hz, C4'-H), 8.03 (1H, brd, J= 7.9Hz, C6'-H), 8.11 (1H, t, J= 1.8 Hz, C2'-H).

¹³C-NMR δ: 38.0 (CH₃), 64.9 (CH), 70.7 (CH), 71.4 (C), 72.5 (CH), 101.5 (CH2), 102.3 (CH2), 105.4 (CH), 107.5 (CH), 111.2 (CH), 111.8 (C), 117.2 (CH), 124.4 (C), 128.0 (CH), 129.87 (CH), 129.93 (CH), 130.7 (C), 131.3 (C), 133.6 (CH), 134.8 (C), 147.7 (C), 148.6 (C), 149.1 (C), 161.9 (C), 165.4 (C).

HRFABMS m/\vec{z} HRFABMS m/\vec{z} 538.0895 (Cacld for C₂₇H₂₁³⁵ClNO₉ (M+H)+: 538.0905). [α]_D²⁴ - 59 (c 0.087, CHCl₃).

(-)-(4b*S**,10b*R**,11*S**,12*S**)-12-(3-Chlorobenzoyloxy)-11-hydroxy-5-methyl-2,3;7,8-bis(methylenedioxy)-10b-triethylsilyloxy-4b,5,6,10b,11,12-hexahydrobenzo[*c*]phenanthridin-6-one [(-)-174] (Scheme 37)

(+)-Allyl silyl ether [(+)-171] (123.8 mg, 0.258 mmol) を CH₂Cl₂ (5.0 mL) に溶解し0 ℃ 下、 65% mCPBA (69.2 mg, 0.261 mmol, 1.01 eq.) 加え0 ℃下 2 h, 室温下 16 h 撹拌。反 応終了後、反応物に CH₂Cl₂ (5 mL), H₂O (2 mL) 加えて有機層をとり brine (3 mL) で洗浄 後、 Na₂SO₄ で乾燥、溶媒留去した。残渣を SiO₂ カラム (*n*-hexane : AcOEt = 4 : 1 ~ 3 : 2) で精製し (-)-174 を無色固体として 127.8 mg (76%) 得た。 M.P. 145-148 ℃ (Et₂O). IR $\nu \max \operatorname{cm}^{-1}$: 3543 (OH), 1716 (C=O), 1649 (C=O).

¹H-NMR δ : 0.33, 0.38 (each 3H, dq, J= 15.6, 7.9 Hz, CH₂ of Et), 0.84 (9H, t, J= 7.9 Hz, CH₃ of Et), 2.86 (1H, s, OH, exchangeable with D₂O), 3.49 (3H, s, CH₃), 4.89 (1H, s, C4b-H), 5.05 (1H, d, J= 3.5 Hz, C11-H), 5.89, 5.92, 6.01 (each 1H, d, J= 1.3 Hz, methylenedioxy), 6.12 (1H, d, J= 3.5 Hz, C12-H), 6.20 (1H, d, J= 1.3 Hz, methylenedioxy), 6.66 (2H, s, C1 and C4-H), 6.91 (1H, d, J= 8.1 Hz, C10-H), 7.16 (1H, d, J= 8.1 Hz, C9-H), 7.44 (1H, t, J= 7.9 Hz, C5'-H), 7.59 (1H, ddd, J= 7.9, 2.1, 1.1 Hz, C4'-H), 8.04 (1H, ddd, J= 7.9, 2.1, 1.1 Hz, C6'-H), 8.13 (1H, t, J= 2.1 Hz, C2'-H).

¹³C-NMR δ: 5.67 (CH₂), 6.89 (CH₃), 38.1 (CH₃), 65.4 (CH), 71.2 (CH), 72.4 (CH), 74.3 (C), 101.5 (CH₂), 102.6 (CH₂), 105.7 (CH), 107.3 (CH), 110.7 (CH), 113.5 (C), 118.6 (CH), 124.0 (C), 128.0 (CH), 129.1 (C), 129.3 (C), 129.87 (CH), 129.91 (CH), 131.3 (C), 133.6 (CH), 134.8 (C), 147.8 (C), 148.3 (C), 148.6 (C), 150.0 (C), 161.5 (C), 165.4 (C).

HRFABMS m/z: 652.1750 (Cacld for C₃₃H₃₅³⁵ClNO₉Si (M+H)+: 652.1770).

 $[\alpha]_{D^{24}}$ - 74 (*c* 0.127, CHCl₃).

第二部

第二章第三節の実験

6-Bromo-2,3-dimethoxybenzoic acid tert butyl ester (191a) (Table 11)

MgSO₄ (2.95 g, 24.5 mmol, 4.0 eq.) を CH₂Cl₂ (30 mL) に懸濁し、室温下、conc.H₂SO₄ (0.33 mL, 6.13 mmol, 1.0 eq.) 加え 15 min. 撹拌。次いで、6-bromo-2,3-dimethoxybenzoic acid ⁶⁰⁾ (1.60 g, 6.13 mmol)、 4BuOH (2.9 mL 30.6 mmol, 5.0 eq.) を加え 18 h 撹拌。反応終 了後、反応物を sat.NaHCO₃ (70 mL) 中に空け 1 h 撹拌。CHCl₃ (30 mL)を加えて抽出、有 機層を水洗 (10 mL x 2)、brine 洗 (5 mL)、Na₂SO₄ で乾燥後、溶媒留去。残渣を SiO₂ カラ ム (*n*-hexane-AcOEt 9:1)で精製し **191a** を無色油状物として 1.47 g (76%) 得た。

IR $\nu \max \operatorname{cm}^{-1}$: 1728 (C=O).

¹H-NMR δ: 1.61 (9H, s, *t*Bu), 3.84, 3.87 (each 3H, s, OCH₃), 6.79 (1H, d, *J* = 8.8 Hz, C5-H), 7.21 (1H, d, *J* = 8.8 Hz, C4-H).

¹³C-NMR δ: 28.1 (CH₃), 56.1 (CH₃), 61.5 (CH₃), 82.9 (C), 108.7 (C), 114.0 (CH), 127.8 (CH), 132.7 (C), 146.6 (C), 152.1 (C), 164.7 (C).

HREIMS m/z: 316.0314 (Cacd. for $C_{13}H_{17}^{79}BrO_4$: 316.0310).

Dihydroarnottin I (7,8-Dimethoxy-2,3-methylenedioxy-6*H*-benzo[*d*]-11,12-dihydronaphtho[1,2-*b*]pyran-6-one) (**192**) (Table 11, entry 3)

Screw-capped tube に bromobenzoate **191a** (0.3172 g, 1.0 mmol), tetralone **92**⁶¹⁾ (0.285 g, 1.5 mmol, 1.5 eq.), Pd₂(dba)₃ (0.0367 g, 0.04 mmol, 4.0 mol%), Xantphos (0.0509 g, 0.086 mmol, 8.6 mol%), Cs₂CO₃ (0.749 g, 2.18 mmol, 2.18 eq.), Na₂S₂O₅ (0.019 g, 0.094 mmol, 0.094 eq.), dry PhMe 2.0 mL 加之, 100 °C で 48 h 加熱。冷後、反応物に CHCl₃ (20 mL) 加之 celite 濾過。濾液を水洗 (5 mL x 3), brine 洗 (5 mL)、 Na₂SO₄ 乾燥後溶媒留去。 残 渣 (0.4250 g) を AcOEt (5 mL) で洗浄し、**177** を黄色結晶として 0.2061 g (58%) 得た。 濾液を濃縮 し SiO₂ カラム (benzene : acetone = 100 : 1) で精製し **177** を黄色結晶とし て 0.0222 g (6%) 得た。水層 (中性) を合わせて 2*N*HCl (2 mL) で酸性 (pH 4)とし CHCl₃ 抽出 (5 mL x 2), brine 洗 (5 mL)、 Na₂SO₄ 乾燥後溶媒留去。残渣 (carboxylic acid, 0.0329 g, 0.089 mmol) を benzene (1.0 mL) に溶解し *p*TsOH·H₂O (1.7 mg, 0.0089 mmol, 0.1 Meq) 加え Dean-Stark を付け 1 h 還流。 冷後、析出した結晶を濾取し **192** を黄色結晶と して 0.032 g (9%) 得た。合わせて **192** を黄色結晶として 0.2603 g (73%) 得た。

M. P. 250-251 °C (CH₂Cl₂).

IR $v \max \text{cm}^{-1}$: 1730 (C=O).

¹H-NMR δ : 2.80-2.84, 2.90-2.93 (each 2H, dif. t, J= 7.3 Hz, C-11 and C-12), 3.95, 3.99 (each 3H, s, OCH₃), 5.98 (2H, s, methylenedioxy), 6.71, (1H, s, C1-H or C4-H), 7.28 (1H, d, J= 8.8 Hz, C9-H or C10-H)., 7.34 (1H, s, C1-H or C4-H), 7.36 (1H, d, J= 8.8 Hz, C9-H or C10-H).

¹³C-NMR δ: 21.7 (CH₂, C11 or C12), 27.6 (CH₂, C11 or C12), 56.7 (CH₃), 61.5 (CH₃), 101.2 (CH₂, methylenedioxy), 103.5 (CH, Ar), 107.1 (C), 108.3 (CH, Ar), 115.3 (C), 117.7 (CH, Ar), 120.1 (CH, Ar), 122.8 (C), 130.8 (C), 132.2 (C), 146.7 (C), 146.8 (C), 148.0 (C), 151.8 (C), 152.3 (C), 158.4 (CO).

HRFABMS *m/z*: 352.0923 (Cacd for C₂₀H₁₆O₆ (M⁺): 352.0947).

Anal. Calcd for C₂₀H₁₆O₆: C, 68.18; H, 4.58. Found: C, 68.13; H, 4.50.

<u>Arnottin I (7,8-Dimethoxy-2,3-methylenedioxydibenzo-6*H*benzo[*d*]naphtho[1,2-*b*]pyran-6-one) (Scheme 43)</u>

Dihydroarnottin I (192) (105.7 mg, 0.3 mmol) を benzene (5.0 mL) に懸濁し DDQ (136.2 mg, 0.6 mmol, 2.0 eq.) を加 え 90 ℃で 2 h 還流。反応終了後、反応物に CHCl₃ (70 mL) 加え、H₂O (5 mL), 1N NaOH (3 mL x 5), H₂O (3 mL x 5), brine (3 mL) で順次洗浄。 有機層を Na₂SO₄ で乾燥後、溶媒留去し crude として 113.0 mg (108%) 得た。これを CHCl₃ より再結し arnottin I を無色結晶として 99.2 mg (94%) 得た。 M. P. 299-300 °C [CHCl₃, (lit. ⁵⁾ 293-297 °C)] IR $\nu \max \operatorname{cm}^{-1}$: 1736 (C=O). ¹H-NMR δ: 3.99, 4.03 (each 3H, s, OCH₃), 6.10 (2H, s, methylenedioxy), 7.14 (1H, s, C1-H), 7.44 (1H, d, J = 8.8 Hz, C9-H), 7.53 (1H, d, J = 8.8 Hz, C12-H), 7.83 (1H, d, J = 8.8 Hz, C11-H), 7.85 (1H, s, C4-H), 7.88 (1H, d, J = 8.8 Hz, C10-H). ¹³C-NMR δ: 56.6 (CH₃, C8), 61.6 (CH₃, C7), 99.1 (CH, C4), 101.5 (CH₂, methylenedioxy), 104.0 (CH, C1), 112.1 (C, C10b), 115.5 (C, C6a), 117.75 (CH, C10 or C11), 117.83 (CH, C10 or C11), 119.7 (CH, C9), 120.3 (C, C4a), 123.2 (CH, C12), 129.8 (C, C10a), 131.2 (C, C12a), 146.1 (C, C4b), 148.6 (C, C3), 148.9 (C, C2), 151.9 (C, C7), 153.1 (C, C8), 157.7 (C, C6). HRFABMS *m/z*: 351.0837 (Cacd for C₂₀H₁₅O₆(M+H)+: 351.0869). Anal. Calcd for C₂₀H₁₄O₆: C, 68.57; H, 4.03. Found: C, 68.30; H, 4.02.

第三章第三節の実験

(±)-Spiro[6,7-dimethoxyphthalide-3,2'-6',7'-methylenedioxy-1'-tetralone] [(±)-193] (Table 12, entry 1)

Dihydroarnottin I (192) (17.6 mg, 0.05 mmol) を MeCN (1.0 mL), CHCl₃ (4.0 mL) に溶 解し、室温下、EDTANa₂·2H₂O (4 x 10⁻⁴ M solution, 0.2 mL, 0.08 mmol, 1.6 eq.) を加えて 撹拌下、1,1,1-trifluoroacetone (0.45 mL, 5.0 mmol, 100 eq.) を加え次いで 0 °C下、OXONE (0.307 g, 0.5 mmol, 10 eq.), NaHCO₃ (0.126 g, 1.5 mmol, 30 eq.) をあわせて乳鉢で磨り潰 したものを 5 分かけて加えた。0 °C で 0.5 h、 室温で 3 h 撹拌した。反応終了後、反応物 に H₂O (5 mL) を加え CHCl₃ 抽出 (3 mL x 3)。有機層を brine 洗 (5 mL) 後、Na₂SO₄ で 乾燥し溶媒留去した。 残渣を SiO₂ カラム (benzene ~ benzene : acetone = 100:3) で精製 し (±)-193 を淡黄色結晶として 8.6 mg (47 %) 得た。

M.P. 183-184 °C (AcOEt).

IR $\nu \max \operatorname{cm}^{-1}$: 1759 (C=O), 1682 (C=O).

¹H-NMR δ: 2.46 (1H, ddd, J= 13.5, 6.6, 5.3 Hz, C3'-H), 2.64 (1H, ddd, J= 13.5, 7.9, 5.3 Hz, C3'-H), 3.20 (1H, ddd, J= 17.4, 7.9, 5.3 Hz, C4'-H), 3.30 (1H, ddd, J= 17.4, 6.6, 5.3 Hz, C4'-H), 3.89, 4.13 (each 3H, s, OCH₃), 6.07 (2H, s, methylenedioxy), 6.76 (1H, s, C5'-H), 6.89 (1H, d, J = 8.2 Hz, C4-H), 7.14 (1H, d, J= 8.2 Hz, C5-H), 7.43 (1H, s, C8'-H). ¹³C-NMR δ: 26.0 (CH₂, C4'), 34.0 (CH₂, C3'), 56.8 (CH₃, C7-OCH₃), 62.4 (CH₃, C6-OCH₃), 85.0 (C, C2'), 102.0 (CH₂, methylenedioxy), 107.2 (CH, C8'), 108.0 (CH, C5'), 116.7 (CH, C4), 118.2 (C, C7a), 119.0 (CH, C5), 125.6 (C, C8'a), 140.4 (C, C4'a), 141.1 (C, C3a), 147.6 (C, C'7), 148.7 (C, C7), 153.27, 153.28 (each C, C6' or C6), 166.8 (C, C1), 188.7 (C, C1'). HRFABMS m/z: 369.0953 (Cacd for C₂₀H₁₇O₇ (M+H)+: 369.0974).

(±)-193 (Table 12, entry 2)

Dihydroarnottin I (192) (84.6 mg, 0.24 mmol) を CH₂Cl₂ (5.0 mL), acetone (4.0 mL), H₂O (2.0 mL) に懸濁し室温下、4-methylmorpholine *N*-oxide (NMO) (49.2 mg, 0.42 mmol, 1.75 eq.), OsO₄ (18.7 mg, 0.074 mmol, 0.31 eq.) を順次加え 10 days 撹拌。 192 は完全に消 失しなかったが、反応を中断し後処理。 反応物に AcOEt (15 mL) 加え 5% Na₂S₂O₃ aq. (3 mL), brine (3 mL) で順次洗浄後、Na₂SO₄ で乾燥し溶媒留去。残渣 (81.1 mg, 92%) を SiO₂ カラム (benzene ~ benzene : AcOEt = 9 : 1) で精製し (±)-193 を淡黄色結晶として 49.5 mg (56 %) 得た。また、192 を 12.6 mg (15%) 回収した。

(S)-(-)-Spiro[6,7-dimethoxyphthalide-3,2'-6',7'-methylenedioxy-1'-tetralone] [(-)-193] (Table 12, entry 3)

AD-mix- α (1400 mg), K₂OsO₂(OH)₄ (7.4 mg, 0.02 mmol, 10 mol%), (DHQ)₂PHAL (77.8 mg, 0.1 mmol, 50 mol%) に 50% /BuOHaq. (10 mL) 加え室温下、15 min. 撹拌。次いで MeSO₂NH₂ (28.5 mg, 0.3 mmol, 1.5 eq.), Dihydroarnottin I (193) (70.5 mg, 0.2 mmol) の CH₂Cl₂ (10 mL) 溶液を順次加え 0 ℃で 95 h 撹拌した。 反応終了後、反応物に Na₂SO₃ (2.5 g) 加え 1 h 撹拌。反応終了後、反応物に CH₂Cl₂ (5 mL)、H₂O (3 mL) 加えて分液し 水層を取り 2*N*HCl (15 mL) で酸性 (pH 4) としAcOEt 抽出 (3 mL x 3)。有機層を水洗 (2 mL x 2)、brine 洗 (2 mL)、Na₂SO₄ で乾燥後溶媒留去。残渣を SiO₂ カラム (*n*-hexane : AcOEt = 7:3) で精製し (-)-193 を無色結晶として 62.4 mg (85%)得た。

M. P. 145-147 °C (AcOEt-*n*-hexane).

IR $v \max \text{cm}^{-1}$: 1755 (C=O), 1684 (C=O).

¹H-NMR δ : 2.46 (1H, ddd, J= 13.4, 6.6, 5.2 Hz, C3'-H), 2.63 (1H, ddd, J= 13.4, 7.8, 5.4 Hz,

C3'-H), 3.20 (1H, ddd, *J* = 17.2, 7.8, 5.2 Hz, C4'-H), 3.30 (1H, ddd, *J* = 17.2, 6.6, 5.4 Hz, C4'-H), 3.89, 4.13 (each 3H, s, OCH₃), 6.06 (2H, s, methylenedioxy), 6.76 (1H, s, C5'-H), 6.89 (1H, d, *J*=8.4 Hz, C4-H), 7.14 (1H, d, *J*=8.4 Hz, C5-H), 7.42 (1H, s, C8'-H).

¹³C-NMR δ: 26.0 (CH₂, C4), 33.9 (CH₂, C3), 56.8 (CH₃, C7'-OCH₃), 62.4 (CH₃, C6'-OCH₃), 85.0 (C, C2), 102.0 (CH₂, methylenedioxy), 107.2 (CH, C8), 108.0 (CH, C5), 116.7 (CH, C4'), 118.2 (C, C7'a), 119.1 (CH, C5'), 125.6 (C, C8a), 140.4 (C, C4a), 141.1 (C, C3'a), 147.6 (C, C7), 148.7 (C, C7'), 153.2, 153.3 (each C, C6 or C6'), 166.8 (C, C1'), 188.6 (C, C1).

HRFABMS *m/z*: 369.0940 (Cacd for C₂₀H₁₇O₇ (M+H)+: 369.0974).

Anal. Calcd for C₂₀H₁₆O₇: C, 65.22; H, 4.38. Found: C, 65.13; H, 4.38.

 $[\alpha]_{D^{24}}$ - 63 (c 0.1, CHCl₃).

88% ee by chiral HPLC (CHIRALPAK IA, 0.46 cm x 25 cm); *n*-hexane/CH₂Cl₂/EtOH = 15:5:4; flow rate = 0.5 mL/min; detection wavelength = 254 nm; $t_{\rm R}$ (major) = 21.8 min., $t_{\rm R}$ (minor) = 14.4 min,

Dihydroarnottin II {(*R*)-(+)-Spiro[6,7-dimethoxyphthalide-3,2'-6',7'methylenedioxy-1'-tetralone]} [(+)-**193**] (Table 12, entry 4)

AD-mix-β (1.4 g), K₂OsO₂(OH)₄ (7.4 mg, 0.02 mmol, 10 mol%), (DHQD)₂PHAL (77.8 mg, 0.1 mmol, 50 mol%) に 50% /BuOHaq. (10 mL) を加え室温下、15 min. 撹拌。次いで MeSO₂NH₂ (28.5 mg, 0.3 mmol, 1.5 eq.), Dihydroarnottin I (192) (70.5 mg, 0.2 mmol) の CH₂Cl₂ (10 mL) 溶液を順次加え 0 ℃で 95 h 撹拌した。 反応終了後、反応物に Na₂SO₃ (2.5 g) 加え 1 h 撹拌。反応終了後、反応物に CH₂Cl₂ (5 mL)、H₂O (3 mL) 加えて分液し 水層を取り 2*N*HCl (15 mL) で酸性 (pH 4) とし AcOEt 抽出 (3 mL x 3)。有機層を水洗 (2 mL x 2)、brine 洗 (2 mL)、Na₂SO₄ で乾燥後溶媒留去。残渣を SiO₂ カラム (*r* hexane : AcOEt = 7:3) で精製し (+)-193 を無色結晶として 65.9 mg (89 %)得た。

M.P. 145-147 °C (AcOEt-*n*-hexane).

IR $v \max \text{cm}^{-1}$: 1753 (C=O), 1685 (C=O).

¹H-NMR δ : 2.46 (1H, ddd, J= 13.6, 6.2, 5.4 Hz, C3'-H), 2.64 (1H, ddd, J= 13.6, 8.2, 5.8 Hz, C3'-H), 3.20 (1H, ddd, J= 17.4, 8.2, 5.4 Hz, C4'-H), 3.30 (1H, ddd, J= 17.4, 6.2, 5.4 Hz, C4'-H), 3.89, 4.12 (each 3H, s, OCH₃), 6.06 (2H, s, methylenedioxy), 6.76 (1H, s, C5'-H), 6.89 (1H, d, J= 8.2 Hz, C4-H), 7.14 (1H, d, J= 8.2 Hz, C5-H), 7.41 (1H, s, C8'-H).

¹³C-NMR δ : 26.0 (CH₂, C4'), 33.9 (CH₂, C3'), 56.8 (CH₃, C7-OCH₃), 62.4 (CH₃, C6-OCH₃), 85.0 (C, C2'), 102.0 (CH₂, methylenedioxy), 107.2 (CH, C8'), 108.0 (CH, C5'), 116.7 (CH, C4), 118.2 (C, C7a), 119.0 (CH, C5), 125.6 (C, C8'a), 140.4 (C, C4'a), 141.0 (C, C3a), 147.6 (C, C'7), 148.7 (C, C7), 153.2, 153.3 (each C, C6' or C6), 166.8 (C, C1), 188.6 (C, C1'). HRFABMS *m/z*: 369.0984 (Cacd for C₂₀H₁₇O₇ (M+H)+: 369.0974).

Anal. Calcd for $C_{20}H_{16}O_7$: C, 65.22; H, 4.38. Found: C, 65.15; H, 4.41. $[\alpha]_D^{24} + 61$ (c 0.05, CHCl₃). 88% ee by chiral HPLC (CHIRALPAK IA, 0.46 cm x 25 cm); *n*-hexane/CH₂Cl₂/EtOH = 15:5:4; flow rate = 0.5 mL/min; detection wavelength = 254 nm; t_R (major) = 14.4 min, t_R (minor) = 21.8 min.

第三章第四節の実験

(*R*)-(-)-Spiro[4-bromo-6,7-dimethoxyphtalide-3,2'-5'-bromo-6',7'-methylenedioxy-1'tetralone][(-)-194] (Scheme 46)

Dihydroarnottin II [(+)-**193**] (76.0 mg, 0.206 mmol) に Br₂-CHCl₃ solution (1.37 M in CHCl₃, 1.5 mL, 2.06 mmol, 10 eq.) を加え室温下、30 h 撹拌。反応終了後、反応物を 5% Na₂S₂O₃ aq. 洗 (2 mL x 3)、brine 洗 (2 mL)、Na₂SO₄ で乾燥後、溶媒留去した。残渣 (98.9 mg) を SiO₂ カラム (*n* hexane : AcOEt = 4 : 1 ~ 1: 1) で精製し dibromo 体 (-)-**194** を無 色固体として 93.2 mg (86 %) 得た。

M. P. 281-282 °C (AcOEt).

IR $\nu \max \operatorname{cm}^{-1}$: 1757 (C=O), 1676 (C=O).

¹H-NMR δ : 2.27-2.31 (1H, m, C3' or C4'-H), 3.22-3.36 (3H, m, C3' or C4'-H), 3.94, 4.10 (each 3H, s, OCH₃), 6.15, 6.16 (each 1H, d, J= 1.2 Hz, methylenedioxy), 7.33 (1H, s, C5-H), 7.50 (1H, s, C8'-H).

¹³C-NMR δ: 25.2 (CH₂), 31.3 (CH₂), 57.0 (CH₃), 62.4 (CH₃), 84.7 (C), 102.2 (CH₂), 102.3 (CH₂), 106.6 (CH), 109.8 (C), 120.2 (C), 122.9 (CH), 126.9 (C), 139.8 (C), 140.0 (C), 147.0 (C), 148.1 (C), 151.6 (C), 154.1 (C), 165.3 (C), 186.2 (C, C1').

HRFABMS *m/z*: 523.9083 (Cacd for C₂₀H₁₄⁷⁹Br₂O₇ (M⁺): 523.9106).

Anal. Calcd for C₂₀H₁₄Br₂O₇: C, 45.66; H, 2.61. Found: C, 45.40; H, 2.68.

 $[\alpha]_{D^{24}}$ - 121 (*c* 0.08, CHCl₃).

(-)-Arnottin II {(*R*)-(-)-Spiro[6,7-dimethoxyphthalide-3,2'-6',7'-methylenedioxy-2*H*-naphthalene-1'-one]} (Scheme 47)

(+)-Dihydroarnottin II [(+)-193] (68.2 mg, 0.185 mmol) を benzene (5.0 mL) に溶解し NBS (33.0 mg, 0.185 mmol, 1.0 eq.), AIBN (3.1 mg, 0.0185 mmol, 0.1 eq.) を加え、85 °C, 24 h, 65 °C 20 h 撹拌した。次いで DBU (77.7 mg, 0.499 mmol, 2.7 eq.) を加え 85 °C, 1 h 還流した。冷後、反応物に AcOEt (10 mL) 加え 2N HCl (2 mL), 10% NaHSO₃ (2 mL), sat.NaHCO₃ (2 mL), brine (2 mL) で順次洗浄。Na₂SO₄ で乾燥後、溶媒留去した。残渣 (57.0 mg) を SiO₂ カラム (benzene : AcOEt = 100 : 5 ~ 100 : 7) で精製し (-)-arnottin II を 31.6 mg (47%) 得た。また、原料 (+)-193 を 8.0 mg (12%) 回収した。この他に arnottin II の 4'-Br 体と構造不明物との混合物を 2.3 mg 得た。

M.P. 222-224 °C [AcOEt-*n* hexane, (lit. ⁵¹⁾ 225-226 °C)].

IR $\nu \max \operatorname{cm}^{-1}$: 1776 (C=O), 1687 (C=O).

¹H-NMR δ : 3.86 (3H, s, OCH₃), 4.17 (3H, s, OCH₃), 6.09 (1H, d, J= 9.8 Hz, C3'-H), 6.10 (2H, s, methylenedioxy), 6.69 (1H, d, J= 9.8 Hz, C4'-H), 6.78 (1H, d, J= 8.2 Hz, C4-H), 6.78 (1H, s, C5'-H), 7.05 (1H, d, J= 8.2 Hz, C5-H), 7.34 (1H, s, C8'-H).

¹³C-NMR δ: 56.9 (CH₃), 62.7 (CH₃), 84.3 (C, C3), 102.4 (CH₂, methylenedioxy), 107.6 (CH), 107.9 (CH), 115.5 (CH), 117.2 (C), 119.1 (CH), 123.0 (C), 128.3 (CH), 130.2 (CH), 134.4 (C), 139.1 (C), 148.4 (C), 149.0 (C), 153.4 (C), 153.9 (C), 167.5 (C, C1), 191.0 (C, C1').

HRFABMS *m/z*: 366.0717 (Cacd for C₂₀H₁₄O₇ (M⁺): 366.0740).

Anal. Calcd for C₂₀H₁₄O₇: C, 65.57; H, 3.85. Found: C, 65.31; H, 3.80.

 $[\alpha]_{D^{25}} - 217 \ (c \ 0.026, MeOH) \ \{\text{lit.} 51) \ [\alpha]_{589} - 280 \ (c \ 9x10^{-3}, MeOH) \}, \ [\alpha]_{D^{25}} - 240 \ (c \ 0.105, CHCl_3); 98\% ee by chiral HPLC (CHIRALPAK IA, 0.46 cm x 250 cm);$ *n*-hexane/CH₂Cl₂/EtOH = 15:5:4; flow rate = 0.5 mL/min; detection wavelength = 254 nm; $<math>t_{\rm R} \ (\text{major}) = 15.5 \text{ min}, \ t_{\rm R} \ (\text{minor}) = 24.4 \text{ min}.$

(+)-Arnottin II {(S)-(+)-Spiro[6,7-dimethoxyphthalide-3,2'-6',7'-methylenedioxy-2H-naphthalene-1'-one]} (Scheme 47)

(-)-Dihydroarnottin II [(-)-193] (54.5 mg, 0.148 mmol) を benzene (3.0 mL) に溶解し NBS (26.3 mg, 0.148 mmol, 1.0 eq.), AIBN (2.5 mg, 0.0148 mmol, 0.1 eq.)を加え、85 °C, 24 h, 65 °C 20 h 撹拌した。次いで DBU (62.1 mg, 0.400 mmol, 2.7 eq.) を加え 85 °C, 1 h 還流した。冷後、反応物に AcOEt (10 mL) を加え 2*N*HCl (2 mL), 10% NaHSO₃ (2 mL), sat.NaHCO₃ (2 mL), brine (2 mL) で順次洗浄。Na₂SO₄ で乾燥後、溶媒留去した。残渣 (49.6 mg) を SiO₂ カラム (benzene : AcOEt = 20 : 1) で精製し (+)-arnottin II を 23.5 mg (43%) 得た。また、原料 (-)-193 を 7.3 mg (13%) 回収した。この他に arnottin II の 4'-Br 体と構 造不明物との混合物を 1.1 mg 得た。

M.P. 223-225 °C (CH₂Cl₂-Et₂O).

IR $\nu \max \operatorname{cm}^{-1}$: 1772 (C=O), 1687 (C=O).

¹H-NMR δ : 3.86, 4.17 (each 3H, s, OCH₃), 6.09 (1H, d, J= 10.0 Hz, C3'-H), 6.09 (1H, d, J= 1.2 Hz, methylenedioxy), 6.10 (1H, d, J= 1.2 Hz, methylenedioxy), 6.69 (1H, d, J= 10.0 Hz, C4'-H), 6.78 (1H, d, J= 8.2 Hz, C4·H), 6.78 (1H, s, C5'-H), 7.05 (1H, d, J= 8.2 Hz, C5·H), 7.37 (1H, s, C8'-H).

¹³C-NMR δ: 56.9 (CH₃), 62.6 (CH₃), 84.3 (C, C3), 102.4 (CH₂, methylenedioxy), 107.6 (CH), 107.9 (CH), 115.5 (CH), 117.2 (C), 119.1 (CH), 123.0 (C), 128.3 (CH), 130.2 (CH), 134.4 (C), 139.1 (C), 148.4 (C), 149.0 (C), 153.5 (C), 154.0 (C), 167.5 (C, C1), 191.0 (C, C1').

HRFABMS m/z: 366.0714 (Cacd for C₂₀H₁₄O₇ (M⁺): 366.0740), 367.0799 (Cacd for C₂₀H₁₅O₇(M+H)⁺: 367.0818).

80% ee by chiral HPLC (CHIRALPAK IA, 0.46 cm x 250 cm); *n*-hexane/CH₂Cl₂/EtOH = 15:5:4; flow rate = 0.5 mL/min; detection wavelength = 254 nm; $t_{\rm R}$ (major) = 13.9 min, $t_{\rm R}$ (minor) = 20.8 min.

引用文献及び附註

- 1) Probst Q. M., Justus Liebigs Ann. Chem., 1839, 29, 120.
- Wall M. E., Wani M. C., Taylor Y. L. Abstructs on Papers, 162nd National Meeting of American Chemical Society, Washington, D. C., 1971 MEDI 34.
- Messer W. M., Tin-wa M., Fong H. H. S., Bevelle C., Franswarth N. R., Abraham P. J., J. Pharm. Sci., 1972, 61, 1858.
- 4) Ishikawa, T. Med. Res. Rev. 2001, 21, 61.
- 5) Ishii, H., Ishikawa, T., Haginiwa, J. Yakugaku Zasshi, 1977, 97, 890.
- 6) Šimánek V., In The Alkaloids; Brossi, A. Ed.; Academic Press: Orland, 1985; Vol. 26, 185.
- Herbert J. M., Augereau J. M., Gleye J., Maffrand J. P., *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, 1990, 172, 993.
- Tan G. T., Miller J. F., Kinghorn A. D., Hughes S. H., Pezzuto J M., Biochem. Biophys. Res. Commun., 1992, 185, 370.
- 9) Fang S. D., Wang L. K., Hecht S. M., J. Org. Chem., 1993, 58, 5025.
- Catherina C.-G., Patrick M. L. V., Sandra A., Hilde V. den H., Pablo N. S., Mahabir P. G., Magda C., Luc P., Georges V., Arnold J. V., *Planta Med. Chem.*, 2002, 68, 770.
- 11) Trowell O. A., Biochem. Pharm., 1960, 5, 53.
- 12) Cushman M., Choong T. C., Valko J. T., Koleck M. P., J. Org. Chem., 1980, 45, 5067.
- 13) Ma W. G., Fukushi Y., Tahara S., Fitoterapia, 1999, 70, 258.
- 14) マルホ株式会社, 特開平 11-302174.
- 15) マルホ株式会社,特開平 11-310530.
- 16) Grzegorz G., Ewa C.-K., Maria G., Anna C., Ewa J.-W., Eur. J. Med. Chem., 2001, 36, 951.
- 17) Yoshida, M.; Watanabe, T.; Ishikawa, T. Tetrahedron Lett. 2002, 43, 6751.
- 18) Takao, N.; Bessho, N.; Kamigauchi, M.; Iwasa, K.. Tetrahedron Lett. 1979, 43, 6751
- Kamigauchi, M.; Miyamoto, Y.; Iwasa, K.; Sugiura, M.; Nishijo, Z.; Takao, N. *Helv. Chim. Acta* 1990, 73, 2171.
- 20) Oppolzer W., Keller K., J. Am. Chem. Soc., 1971, 93, 3836.
- 21) Cushman M., Choong T. C., Valko J. T., Koleck M. P., J. Org. Chem., 1980, 45, 5067.
- 22) Ninomiya I., Naito T., Mori T., Tetrahedron Lett., 1969, 3643.
- Battersby A. R., Francis R. J., Hirst M., Ruveda E. A., Staunton J., J. Chem. Soc., Perkin Trans. 1, 1975, 1140.
- 24) Hanaoka M., Yoshida S., Mukai C., Tetrahedron Lett., 1985, 26, 5163.
- 25) Ninomiya I., Yamamoto O., Naito T., J. Chem. Soc., Perkin Trans. 1, 1980, 212.
- 26) Harigaya, Y., Yamaguchi H., Onda M., *Chem. Pharm. Bull.*, 1981, 29, 1321.
 Harigaya, Y., Takamatsu, S.; Yamaguchi H., Onda M., *Chem. Pharm. Bull.*, 1982,

30,1244.

- 27) Vicario J. L., Badia D., Dominguez E., Carrillo L., J. Org. Chem., 1999, 64, 4610.
- 28) Zhang Z., Zhu G., Jiang Q., Xiao D., Zhang X., J. Org. Chem., 1999, 64, 1774.
- 29) Yoshida M., Watanabe T., Ishikawa T., Heterocycles, 2001, 433.
- 30) Ishii H., Ishikawa T., Takeda S., Suzuki M., Harayama T., Chem. Pharm. Bull., 1992, 40, 2002.
- 31) Paradisi, C. In Comprehensive Organic Synthesis; Trost, B. M., Fleming, I., Semmelhack, M. F., Eds.; Pergamon Press: New York, 1991; Vol. 4, Chapter 2.1. Kessar, S. V. In Comprehensive Organic Synthesis; Trost, B. M., Fleming, I., Semmelhack, M. F., Eds.; Pergamon Press: New York, 1991; Vol. 4, Chapter 2.3.
- 32) Beugelmans, R.; Chastanet, J.; Ginsburg, H.; Quintero-Cortes, L.; Roussi, G. J. Org. Chem. 1985, 50, 4933.
- 33) Tambar, U. K.; Stoltz, B. M. J. Am. Chem. Soc. 2005, 127, 5340.
- 34) Viciu, M. S.; Germaneau, F.; Nolan, S. P. Org. Lett. 2002, 4, 4053.
- 35) Herrmann W. A. Angew. Chem., Int. Ed. 2002, 41, 1290.
- 36) Fox, J. M.; Huang, X.; Chieffi, A.; Buchwald, S. L. J. Am. Chem. Soc. 2000, 122, 1360.
- 37) Yang, D.; Wong, M.-K.; Yip, Y.-C. J. Org. Chem. 1995, 60, 3887.
- 38) Wang, Z.-X.; Tu, Y.; Frohn, M.; Zhang, J.-R.; Shi, Y. J. Am. Chem. Soc. 1997, 119, 11224.
- 39) Curci, R.; D'Accolti, L.; Fiorentio, M.; Rosa, A. Tetrahedron Lett. 1995, 36, 5831.
- 40) Mandal, A. K.; Jawalkar, D. G. J. Org. Chem. 1989, 54, 2364.
- 41) Morikawa, K.; Park, J.; Andersson, P. G; Hashiyama, T.; Sharpless, K. B. *J. Am. Chem. Soc.* **1993**, *115*, 8463.
- 42) Zhang, X.; Foote, C. S. J. Am. Chem. Soc. 1993, 115, 8867.
- 43) Corey, E. J.; Rege, P. D.; Tian, Y. Org. Lett. 2006, 8, 3117.
- 44) Kursanov, D. N.; Parnes, Z. N.; Loim, N. M. Synthesis, 1974, 633.
- 45) Maier, M.; Evertz, K. Tetrahedron Lett. 1988, 29, 1677.
- 46) Yamazaki, H.; Horikawa, H.; Nishitani, T.; Iwasaki, T. Chem. Pharm. Bull. 1990, 38, 2024.
- 47) Nakano, H.; Matsuda, Y.; Ito, K.; Ohkubo, S.; Morimoto, M.; Tomita, F. J. Antibiot. 1981, 34, 266.
 Matsumoto, T.; Hosoya, T.; Suzuki, K. J. Am. Chem. Soc. 1992, 114, 3568.
- 48) Ishii, H.; Ishikawa, T.; Murota, M.; Aoki, Y.; Harayama, T. J. Chem. Perkin Trans. I 1993, 1019.
- 49) Harayama, T.; Yasuda, H.; Akiyama, T.; Takeuchi, Y.; Abe, H. *Chem. Pharm. Bull.* 2000, *48*, 861.
 Harayama, T.; Yasuda, H. *Heterocycles* 1997, *46*, 61.
- 50) Madan, S.; Cheng, C-H. J. Org. Chem. 2006, 71, 8312.
- 51) Ishikawa, T.; Murota, M.; Watanabe, T.; Harayama, T. Ishii, H. Tetrahedron Lett. 1995, 36, 4269.
- 52) Parish, R. C.; Stock, L. M. J. Org. Chem. 1965, 30, 927.
- 53) Dyke, S. F.; Tiley, E. P. Tetrahedron 1975, 31, 561.
- 54) X-ray data were collected on a Bruker SMART 1000 CCD detector. The crystal structure was solved

by direct methods SHELXS-97 (Sheldrick, 1997) and refined by full-matrix least-squares SHELXL-97 (Sheldrik, 1997).All non-hydrogen atoms were refined anisotropically. All hydrogen atoms were included at their calculated positions. Crystal data for (-)-**194**: C₂₀H₁₄Br₂O₇; *M*) 526.13 g mol-1, orthorhombic, *P*212121, colorless prisma measuring 0.40 _ 0.30 _ 0.05 mm, *T*) 150 K, *a*) 7.3016(10) Å, *b*) 8.4264(12) Å, *c*) 30.356(4) Å, *V*) 1867.7(5) Å3, *Z*) 4, *D*calcd) 1.871 Mg m-3, *i*) 4.383 mm-1, *T*max) 0.8106, *T*min) 0.2731, GOF on *F*2) 1.056, R1) 0.0551, wR2) 0.1428 [*I* > $2\delta(I)$], R1) 0.0693, and wR2) 0.1547 (all data), absolute structure parameter) 0.000(17). CCDC-611350.

- 55) Marion, N.; Ecarnot, E. C.; Navarro, O.; Amoroso, D.; Bell, A.; Nolan, S. P. J. Org. Chem. 2006, 71, 3816.
- 56) Onda, M.; Harigaya, Y.; Horie, J. Heterocycles, 1977, 8, 89.
- 57) Chatterjea, J. N.; Bhakta, S. C.; Chattopadhyay, A. K. J. Indian Chem. Soc. 1974, 51, 757.
- 58) Jan, S. Collect. Czech. Chem. Commun. 1982, 47, 2140.
- 59) Le, T. N.; Gang, S. G.; Cho, W.-J. J. Org. Chem. 2004, 69, 2768.
- 60) Kametani, T.; Honda, T.; Inoue, H.; Fukumoto, K. J. Chem. Soc., Perkin Trans. 1 1976, 1221.
- 61) Sanchez, I. H.; Mendoza, M. T.; Aguilar, M. A.; Martell, E. A.; Gonzalez, M. E.; Lemini, C. Chem. Lett. 1980, 1501.
- 62) McManus, A.; Fleming, M. J.; Lautens, M. Angew. Chem. Int. Ed. 2007, 46, 433.

63)

Table 1.Crystal data and structure refinement for 6068kwh.Identification codeEmpirical formulaFormula weightTemperatureWavelengthCrystal systemSpace groupUnit cell dimensions	6068kwh C54 H42 Cl2 N2 O19 1093.80 150 K 0.71073 Å Triclinic P-1 $a = 10.1948(17)$ Å $\alpha = 75.969(2)$ $b = 15.044(2)$ Å $c = 16.932(3)$ Å)°. °.
Volume Z	2370.1(7) Å ³ 2	
Density (calculated)	1.533 Mg/m ³	
Absorption coefficient F(000)	0.224 mm ⁻¹ 1132	
Crystal size Theta range for data collection Index ranges Reflections collected Independent reflections Completeness to theta = 25.00° Absorption correction	0.50 x 0.30 x 0.02 mm ³ 1.24 to 28.35°. -9<=h<=13, -20<=k<=18, -22<=l<=20 14488 10601 [R(int) = 0.0460] 98.1 % None	
Refinement method Data / restraints / parameters	Full-matrix least-squares on F ² 10601 / 0 / 720	
Goodness-of-fit on F ² Final R indices [I>2sigma(I)] R indices (all data) Largest diff. peak and hole	0.981 R1 = 0.0674, $wR2 = 0.1715R1 = 0.1199$, $wR2 = 0.20440.545 and -0.600 e.Å-3$	

	Х	У	Z	U(eq)
Cl(1)	4421(1)	759(1)	8917(1)	47(1)
Cl(2)	7644(1)	5027(1)	8638(1)	72(1)
O(15)	6956(2)	726(2)	5117(1)	24(1)
O(12)	5318(2)	-1648(1)	5673(1)	23(1)
O(16)	8859(2)	871(2)	6097(2)	25(1)
O(3)	4935(2)	-6532(2)	5699(1)	26(1)
O(6)	3241(3)	-3497(2)	5642(1)	26(1)
O(13)	2888(2)	-960(2)	6736(1)	26(1)
O(4)	7753(2)	-6904(1)	6081(1)	29(1)
O(8)	3673(2)	-3004(1)	8292(1)	27(1)
O(17)	8057(2)	1169(2)	7642(1)	26(1)
O(7)	2048(2)	-2856(2)	7141(2)	27(1)
O(9)	5449(3)	-2406(2)	7751(2)	35(1)
N(2)	7170(3)	-1233(2)	5856(2)	20(1)
N(1)	3345(3)	-5454(2)	6368(2)	23(1)
O(18)	6060(3)	2391(2)	7737(2)	41(1)
O(14)	1405(2)	364(2)	7219(2)	33(1)
O(1)	3939(3)	-6357(2)	10132(1)	39(1)
O(2)	3042(3)	-7108(2)	9405(1)	38(1)
C(36)	5800(3)	-1127(2)	5936(2)	19(1)
C(45)	7429(3)	1012(2)	6374(2)	22(1)
C(7)	3043(3)	-4685(2)	6830(2)	20(1)
O(5)	9440(2)	-6203(2)	6120(2)	40(1)
C(18)	3516(3)	-3220(2)	6949(2)	21(1)
C(1)	4019(4)	-4965(2)	9001(2)	29(1)
C(41)	3030(3)	1328(2)	6860(2)	25(1)

Table 2. Atomic coordinates $(x \ 10^4)$ and equivalent isotropic displacement parameters $(Å^2x \ 10^3)$ for 6068kwh. U(eq) is defined as one third of the trace of the orthogonalized U^{jj} tensor.

C(9)	4646(3)	-5869(2)	6077(2)	22(1)
C(16)	5378(3)	-4496(2)	6285(2)	22(1)
C(37)	4884(3)	-317(2)	6312(2)	19(1)
C(11)	7136(3)	-5954(2)	6124(2)	23(1)
C(44)	6810(3)	429(2)	5983(2)	21(1)
C(40)	2637(3)	530(2)	6900(2)	24(1)
C(32)	8533(3)	-2009(2)	7340(2)	26(1)
C(6)	3320(3)	-5081(2)	7726(2)	22(1)
O(10)	9511(3)	-2264(2)	9329(2)	45(1)
C(33)	8048(3)	-1003(2)	7059(2)	22(1)
C(38)	3532(3)	-267(2)	6614(2)	22(1) 20(1)
C(50)	3055(3)	-5956(2)	8103(2)	20(1) 27(1)
C(19)	4157(3)	-3689(2)	7754(2)	24(1)
O(11)	9/95(3)	-3283(2)	8506(2)	$\frac{24(1)}{44(1)}$
C(20)	3778(3)	-5285(2)	8177(2)	$\frac{1}{24(1)}$
C(20)	3778(3)	-4392(2)	6177(2)	24(1) 22(1)
C(17)	5057(5) 5215(2)	-3909(2)	6201(2)	23(1) 20(1)
C(43)	3313(3)	493(2) 1200(2)	6291(2)	20(1)
C(42)	4383(3)	1299(2)	0.340(2)	23(1) 20(1)
$C(2\delta)$	8403(4) 5724(2)	-733(2)	(19(2))	30(1)
C(10)	5/34(3)	-5457(2)	0180(2)	21(1) 20(1)
C(13)	8152(3)	-3538(2)	6144(2)	29(1)
C(47)	7992(3)	-38/(2)	/568(2)	24(1)
C(22)	3697(4)	-1610(2)	86/3(2)	$\frac{2}{(1)}$
C(54)	9557(4)	2001(2)	8263(2)	30(1)
C(4)	3268(4)	-6290(2)	8905(2)	28(1)
C(21)	4385(4)	-2369(2)	8188(2)	28(1)
C(15)	6404(3)	-4075(2)	6271(2)	28(1)
C(23)	4301(4)	-876(2)	8579(2)	28(1)
C(46)	7343(3)	684(2)	7291(2)	24(1)
C(34)	7/45(3)	-625(2)	6172(2)	20(1)
C(49)	8171(4)	2481(2)	8117(2)	28(1)
C(39)	1470(3)	-524(2)	7039(2)	29(1)
C(48)	7302(4)	2031(2)	7813(2)	28(1)
C(51)	8373(4)	3861(3)	8493(2)	38(1)
C(52)	9752(4)	3389(3)	8629(2)	37(1)
C(2)	3773(4)	-5828(2)	9344(2)	28(1)
C(31)	8997(4)	-2346(2)	8101(2)	31(1)
C(35)	8088(3)	-1879(2)	5346(2)	27(1)
C(14)	7815(4)	-4597(2)	6209(2)	32(1)
C(24)	3696(4)	-154(2)	9020(2)	33(1)
C(8)	2175(4)	-5694(2)	6160(2)	30(1)
C(29)	8990(4)	-1733(3)	8591(2)	33(1)
C(12)	9218(4)	-7026(2)	5956(3)	37(1)
C(50)	7563(4)	3419(2)	8230(2)	33(1)
C(53)	10336(4)	2459(3)	8525(2)	37(1)
C(25)	2505(5)	-148(3)	9536(2)	44(1)
C(26)	1914(5)	-875(3)	9628(2)	47(1)
C(27)	2511(4)	-1603(3)	9195(2)	38(1)
C(3)	3731(5)	-7237(3)	10104(2)	49(1)
C(30)	10080(5)	-3230(3)	9202(3)	54(1)
O(19)	1262(3)	-1757(2)	5577(2)	30(1)

G1(1) G(24)	1 50 5 (0)		1.540(4)
CI(1)-C(24)	1.725(3)	C(44)-C(34)	1.540(4)
Cl(2)-C(51)	1.726(4)	C(40)-C(38)	1.387(4)
O(15)-C(44)	1 425(4)	C(32) - C(31)	1 362(4)
O(15) - O(44)	1.423(4)	C(32) - C(31)	1.302(4)
O(15)-H(57)	0.97(5)	C(32)-C(33)	1.410(4)
O(12)-C(36)	1.244(3)	C(32)-H(32)	0.9500
O(16)-C(45)	1423(4)	C(6)-C(20)	1 399(4)
O(16) U(59)	0.80(4)	C(6) C(5)	1.400(4)
О(10)-П(38)	0.80(4)	C(0)-C(3)	1.409(4)
O(3)-C(9)	1.245(3)	O(10)-C(29)	1.387(4)
O(6)-C(17)	1441(4)	O(10)-C(30)	1 432(5)
O(6) H(55)	0.87(4)	C(22) C(47)	1202(0)
0(0)-H(33)	0.87(4)	C(33)-C(47)	1.393(4)
O(13)-C(38)	1.366(3)	C(33)-C(34)	1.512(4)
O(13)-C(39)	1.446(4)	C(5)-C(4)	1.353(4)
O(4) - C(11)	1 373(3)	C(5)-H(5)	0.9500
O(4) - O(11)	1.373(3)	$C(3)$ - $\Pi(3)$	0.5500
O(4)- $C(12)$	1.431(4)	C(19)-C(20)	1.515(4)
O(8)-C(21)	1.345(4)	C(19)-H(19)	1.0000
O(8) - C(19)	1 454(4)	O(11)-C(31)	1 372(4)
O(0) - O(17)	1.737(7)	O(11) - O(31)	1.372(7)
O(17)-C(48)	1.340(4)	O(11)-C(30)	1.430(5)
O(17)-C(46)	1.452(3)	C(43)-C(42)	1.388(4)
O(7)- $C(18)$	1.428(4)	C(42)-H(42)	0.9500
O(7) H(56)	0.82(4)	C(22) C(20)	1.267(5)
О(7)-П(30)	0.82(4)	C(28) - C(29)	1.307(3)
O(9)-C(21)	1.208(4)	C(28)-C(47)	1.407(4)
N(2)-C(36)	1.341(4)	C(28)-H(28)	0.9500
N(2) - C(35)	1 456(4)	C(13) - C(14)	1.370(4)
N(2) - C(33)	1.450(4)	C(13)-C(14)	1.570(4)
N(2)-C(34)	1.470(4)	C(47)-C(46)	1.510(4)
N(1)-C(9)	1.338(4)	C(22)-C(27)	1.382(5)
N(1)-C(8)	1 466(4)	C(22) - C(23)	1 399(4)
N(1) C(7)	1.100(1)	C(22) C(23)	1.00(5)
N(1)-C(7)	1.4/0(4)	C(22)- $C(21)$	1.490(5)
O(18)-C(48)	1.215(4)	C(54)-C(53)	1.386(5)
O(14)-C(40)	1 365(4)	C(54)-C(49)	1 387(5)
O(14) C(20)	1.420(4)	C(54) = U(54)	0.0500
O(14) - O(39)	1.420(4)	$C(34) - \Pi(34)$	0.9300
O(1)-C(2)	1.381(4)	C(4)-C(2)	1.380(5)
O(1)-C(3)	1.422(4)	C(15)-C(14)	1.394(5)
O(2) - C(4)	1 380(4)	C(15) - H(15)	0.9500
O(2) O(1)	1.300(1) 1.410(4)	C(12) C(24)	1 200(5)
O(2)-C(3)	1.410(4)	C(23)-C(24)	1.388(5)
C(36)-C(37)	1.483(4)	C(23)-H(23)	0.9500
C(45)-C(46)	1.509(4)	C(46)-H(46)	1.0000
C(45) C(44)	1.544(4)	C(34) H(34)	1,0000
C(45) - C(44)	1.344(4)	$C(34) - \Pi(34)$	1.0000
C(45)-H(45)	1.0000	C(49)-C(50)	1.390(4)
C(7)-C(6)	1.522(4)	C(49)-C(48)	1.487(4)
C(7) - C(17)	1 532(4)	C(39)-H(39A)	0 9900
C(7) U(7)	1.0000	C(20) H(20D)	0.0000
$C(7) - \Pi(7)$	1.0000	С(39)-П(39В)	0.9900
O(5)-C(13)	1.365(4)	C(51)-C(52)	1.376(5)
O(5)-C(12)	1.426(4)	C(51)-C(50)	1.394(5)
C(18) - C(19)	1 513(1)	C(52) - C(53)	1 371(5)
C(10) - C(17)	1.515(+)	C(52) - C(53)	1.571(5)
C(18)-C(17)	1.540(4)	C(52)-H(52)	0.9500
C(18)-H(18)	1.0000	C(31)-C(29)	1.379(5)
C(1) - C(2)	1.374(4)	C(35)-H(35A)	0.9800
C(1) C(2)	1.371(1) 1.208(4)	C(25) II(25D)	0.0800
C(1)-C(20)	1.396(4)	С(55)-П(55В)	0.9800
C(1)-H(1)	0.9500	C(35)-H(35C)	0.9800
C(41)-C(40)	1.370(4)	C(14)-H(14)	0.9500
C(41) - C(42)	1 392(4)	C(24) - C(25)	1 381(5)
C(41) - C(42)	1.572(4)	C(24) - C(25)	1.561(5)
C(41)-H(41)	0.9500	$C(\delta)$ -H(δC)	0.9800
C(9)-C(10)	1.490(4)	C(8)-H(8B)	0.9800
C(16)-C(15)	1.385(4)	C(8)-H(8A)	0 9800
C(16) C(10)	1 415(4)	$C(12) \amalg(12A)$	0.000
	1.413(4)	$U(12)-\Pi(12A)$	0.9900
C(16)-C(17)	1.516(4)	C(12)-H(12B)	0.9900
C(37)-C(38)	1.378(4)	C(50)-H(50)	0.9500
C(37) - C(43)	1 418(4)	C(53)-H(53)	0.9500
C(11) C(10)	1.110(7)	C(25) C(26)	1 200(5)
C(11)-C(10)	1.3/8(4)	U(23)-U(26)	1.380(5)
C(11)-C(13)	1.384(4)	C(25)-H(25)	0.9500
C(44)-C(43)	1.512(4)	C(26)-C(27)	1.385(5)
\times / \times /			

Table 3. Bond lengths [Å] and angles [°] for 6068kwh.

C(26)-H(26)	0.9500	O(4)-C(11)-C(13)	109.5(3)
C(27)-H(27)	0.9500	C(10)-C(11)-C(13)	122.3(3)
C(3)-H(3A)	0.9900	O(15)-C(44)-C(43)	111.5(2)
C(3)-H(3B)	0.9900	O(15)-C(44)-C(34)	105.5(2)
C(30)-H(30B)	0.9900	C(43)-C(44)-C(34)	110.1(2)
C(30)-H(30A)	0.9900	O(15)-C(44)-C(45)	109.0(2)
O(19)-H(59)	0.80(5)	C(43)-C(44)-C(45)	113.5(3)
O(19)-H(60)	0.95(6)	C(34)-C(44)-C(45)	106.8(2)
C(44)-O(15)-H(57)	111(2)	O(14)-C(40)-C(41)	128.4(3)
C(45)-O(16)-H(58)	110(3)	O(14)-C(40)-C(38)	109.9(2)
C(17)-O(6)-H(55)	108(2)	C(41)-C(40)-C(38)	121.7(3)
C(38)-O(13)-C(39)	105.6(2)	C(31)-C(32)-C(33)	117.8(3)
C(11)-O(4)-C(12)	105.2(2)	C(31)-C(32)-H(32)	121.1
C(21)-O(8)-C(19)	115.4(2)	C(33)-C(32)-H(32)	121.1
C(48)-O(17)-C(46)	116.9(2)	C(20)-C(6)-C(5)	120.2(3)
C(18)-O(7)-H(56)	104(3)	C(20)-C(6)-C(7)	122.1(3)
C(36)-N(2)-C(35)	118.9(2)	C(5)-C(6)-C(7)	117.7(3)
C(36)-N(2)-C(34)	121.9(2)	C(29)-O(10)-C(30)	104.3(3)
C(35)-N(2)-C(34)	118.7(2)	C(47)-C(33)-C(32)	120.2(3)
C(9)-N(1)-C(8)	120.0(3)	C(47)-C(33)-C(34)	121.5(3)
C(9)-N(1)-C(7)	121.0(2)	C(32)-C(33)-C(34)	118.0(3)
C(8)-N(1)-C(7)	118.7(2)	O(13)-C(38)-C(37)	128.3(3)
C(40)-O(14)-C(39)	106.2(2)	O(13)-C(38)-C(40)	109.7(3)
C(2)-O(1)-C(3)	103.9(3)	C(37)-C(38)-C(40)	121.9(3)
C(4)-O(2)-C(3)	103.8(3)	C(4)-C(5)-C(6)	117.3(3)
O(12)-C(36)-N(2)	121.8(3)	C(4)-C(5)-H(5)	121.3
O(12)-C(36)-C(37)	121.7(3)	C(6)-C(5)-H(5)	121.3
N(2)-C(36)-C(37)	116.4(2)	O(8)-C(19)-C(18)	108.7(2)
O(16)-C(45)-C(46)	107.7(2)	O(8)-C(19)-C(20)	108.4(2)
O(16)-C(45)-C(44)	110.5(2)	C(18)-C(19)-C(20)	113.0(3)
C(46)-C(45)-C(44)	110.3(2)	O(8)-C(19)-H(19)	108.9
O(16)-C(45)-H(45)	109.4	C(18)-C(19)-H(19)	108.9
C(46)-C(45)-H(45)	109.4	C(20)-C(19)-H(19)	108.9
C(44)-C(45)-H(45)	109.4	C(31)-O(11)-C(30)	104.8(3)
N(1)-C(7)-C(6)	112.3(2)	C(1)-C(20)-C(6)	121.2(3)
N(1)-C(7)-C(17)	110.1(2)	C(1)-C(20)-C(19)	118.7(3)
C(6)-C(7)-C(17)	112.5(2)	C(6)-C(20)-C(19)	119.9(3)
N(1)-C(7)-H(7)	107.2	O(6)-C(17)-C(16)	111.4(3)
C(6)-C(7)-H(7)	107.2	O(6)-C(17)-C(7)	106.1(2)
С(17)-С(7)-Н(7)	107.2	C(16)-C(17)-C(7)	110.1(2)
C(13)-O(5)-C(12)	105.3(3)	O(6)-C(17)-C(18)	108.6(2)
O(7)-C(18)-C(19)	106.5(3)	C(16)-C(17)-C(18)	113.5(3)
O(7)-C(18)-C(17)	110.5(2)	C(7)-C(17)-C(18)	106.7(2)
C(19)-C(18)-C(17)	110.0(2)	C(42)-C(43)-C(37)	120.3(3)
O(7)-C(18)-H(18)	109.9	C(42)-C(43)-C(44)	122.7(3)
C(19)-C(18)-H(18)	109.9	C(37)-C(43)-C(44)	117.0(3)
C(17)-C(18)-H(18)	109.9	C(43)-C(42)-C(41)	121.7(3)
C(2)-C(1)-C(20)	116.9(3)	C(43)-C(42)-H(42)	119.1
C(2)-C(1)-H(1)	121.5	C(41)-C(42)-H(42)	119.1
C(20)-C(1)-H(1)	121.5	C(29)-C(28)-C(47)	117.3(3)
C(40)- $C(41)$ - $C(42)$	117.4(3)	C(29)-C(28)-H(28)	121.3
C(40)- $C(41)$ - $H(41)$	121.3	C(47)-C(28)-H(28)	121.3
C(42)-C(41)-H(41)	121.3	C(11)-C(10)-C(16)	116.4(3)
O(3)-C(9)-N(1)	122.4(3)	C(11)-C(10)-C(9)	122.3(3)
U(3)-U(9)-U(10)	121.0(3)	C(16)-C(10)-C(9)	121.0(3)
N(1)-C(9)-C(10)	116.5(3)	O(5)-C(13)-C(14)	128.3(3)
C(15)-C(16)-C(10)	120.7(3)	O(5)-C(13)-C(11)	110.1(3)
C(15)-C(16)-C(17)	122.7(3)	C(14)-C(13)-C(11)	121.6(3)
C(10)-C(16)-C(17)	116.6(3)	C(33)-C(47)-C(28)	120.7(3)
C(38)-C(37)-C(43)	116.9(3)	C(33)-C(47)-C(46)	119.6(3)
C(38)-C(37)-C(36)	121.9(2)	C(28)-C(47)-C(46)	119.5(3)
C(43)-C(37)-C(36)	120.8(3)	C(27)-C(22)-C(23)	119.9(3)
O(4)-C(11)-C(10)	128.1(3)	C(27)-C(22)-C(21)	123.1(3)

C(23)-C(22)-C(21)	117 0(3)	H(35A)-C(35)-H(35B)	109.5
C(53)-C(54)-C(49)	119.9(3)	N(2)-C(35)-H(35C)	109.5
C(53)- $C(54)$ - $H(54)$	120.0	H(35A)-C(35)-H(35C)	109.5
C(49)- $C(54)$ - $H(54)$	120.0	H(35R) - C(35) - H(35C)	109.5
C(5)-C(4)-C(2)	122 6(3)	C(13)-C(14)-C(15)	117 5(3)
C(5) - C(4) - O(2)	127.6(3)	C(13)-C(14)-H(14)	121.3
C(2) - C(4) - O(2)	109.8(3)	C(15) - C(14) - H(14)	121.3
O(2) - O(2) - O(2)	1242(3)	C(25) C(24) C(23)	121.5 120.8(3)
O(9)-C(21)-O(8)	124.2(3) 124.0(3)	C(25)-C(24)-C(25)	120.0(3) 110.3(3)
O(8)-C(21)-C(22)	1118(3)	C(23)-C(24)-C(1)	119.5(3) 110.0(3)
C(16) C(15) C(14)	121 4(3)	N(1) C(2) H(2C)	100.5
C(16) - C(15) - C(14)	110.3	N(1) - C(8) - H(8C)	109.5
C(10)- $C(15)$ - $H(15)$	119.5	H(1)-C(0)-H(0D)	109.5
C(14)-C(13)-H(13)	119.5	N(1) C(2) H(2A)	109.5
C(24) - C(23) - C(22)	119.0(3)	$N(1)$ - $C(0)$ - $\Pi(0A)$	109.5
C(24)- $C(23)$ - $H(23)$	120.5	$H(\delta C) - C(\delta) - H(\delta A)$	109.5
C(22)- $C(23)$ - $H(23)$	120.5	H(8B)-C(8)-H(8A)	109.5
O(17)-C(46)-C(45)	109.4(2)	C(28) - C(29) - C(31)	122.1(3)
O(1/)-C(46)-C(4/)	108.0(2)	C(28)-C(29)-O(10)	128.2(3)
C(45)-C(46)-C(47)	113.1(3)	C(31)-C(29)-O(10)	109.6(3)
O(17)-C(46)-H(46)	108.7	O(5)-C(12)-O(4)	108.0(3)
C(45)-C(46)-H(46)	108.7	O(5)-C(12)-H(12A)	110.1
C(47)-C(46)-H(46)	108.7	O(4)-C(12)-H(12A)	110.1
N(2)-C(34)-C(33)	113.0(2)	O(5)-C(12)-H(12B)	110.1
N(2)-C(34)-C(44)	109.8(2)	O(4)-C(12)-H(12B)	110.1
C(33)-C(34)-C(44)	114.1(3)	H(12A)-C(12)-H(12B)	108.4
N(2)-C(34)-H(34)	106.5	C(49)-C(50)-C(51)	118.6(3)
C(33)-C(34)-H(34)	106.5	C(49)-C(50)-H(50)	120.7
C(44)-C(34)-H(34)	106.5	C(51)-C(50)-H(50)	120.7
C(54)-C(49)-C(50)	120.2(3)	C(52)-C(53)-C(54)	120.4(3)
C(54)-C(49)-C(48)	122.0(3)	C(52)-C(53)-H(53)	119.8
C(50)-C(49)-C(48)	117.8(3)	C(54)-C(53)-H(53)	119.8
O(14)-C(39)-O(13)	107.5(2)	C(26)-C(25)-C(24)	120.0(3)
O(14)-C(39)-H(39A)	110.2	C(26)-C(25)-H(25)	120.0
O(13)-C(39)-H(39A)	110.2	C(24)-C(25)-H(25)	120.0
O(14)-C(39)-H(39B)	110.2	C(25)-C(26)-C(27)	119.8(4)
O(13)-C(39)-H(39B)	110.2	C(25)-C(26)-H(26)	120.1
H(39A)-C(39)-H(39B)	108.5	C(27)-C(26)-H(26)	120.1
O(18)-C(48)-O(17)	124.0(3)	C(22)-C(27)-C(26)	120.5(3)
O(18)-C(48)-C(49)	124.3(3)	C(22)-C(27)-H(27)	119.8
O(17)-C(48)-C(49)	111.7(3)	C(26)-C(27)-H(27)	119.8
C(52)-C(51)-C(50)	121.1(3)	O(2)-C(3)-O(1)	109.3(3)
C(52)-C(51)-Cl(2)	119.4(3)	O(2)-C(3)-H(3A)	109.8
C(50)-C(51)-C(2)	119.5(3)	O(1)-C(3)-H(3A)	109.8
C(53)-C(52)-C(51)	119.8(3)	O(2)-C(3)-H(3B)	109.8
C(53)-C(52)-H(52)	120.1	O(1)-C(3)-H(3B)	109.8
C(51)-C(52)-H(52)	120.1	H(3A)-C(3)-H(3B)	108.3
C(1)-C(2)-C(4)	121.7(3)	O(11)-C(30)-O(10)	107.8(3)
C(1)-C(2)-O(1)	128.8(3)	O(11)- $C(30)$ -H(30B)	110.1
C(4)-C(2)-O(1)	109 5(3)	O(10)-C(30)-H(30B)	110.1
C(32)-C(31)-O(11)	128 4(3)	O(11)- $C(30)$ - $H(30A)$	110.1
C(32)-C(31)-C(29)	121 7(3)	$O(10)$ - $C(30)$ - $H(30\Delta)$	110.1
O(11)-C(31)-C(29)	109 9(3)	H(30R)-C(30)-H(30A)	108.5
$N(2)_{C(35)_{H(35A)}}$	109.5	$H(50)_{-}O(10)_{-}H(60)$	100.5
M(2) = C(33) = H(33A) M(2) = C(25) = H(25P)	109.5	11(37)-0(17)-11(00)	109(3)
m(2)- $C(33)$ - $m(33D)$	107.3		

Symmetry transformations used to generate equivalent atoms:

U23 U22 U33 U13 U^{11} U^{12} $\overline{Cl(1)}$ 50(1) -20(1)-28(1)69(1) 36(1) 2(1)49(1) 49(1) 140(1)-25(1) Cl(2)-63(1)-4(1)26(1) 33(1) -4(1) -11(1) O(15) 22(1) 28(1) -5(1) -11(1) O(12) 21(1)21(1)-5(1) -7(1) 0(16) 20(1) 29(1) 28(1) -5(1)-4(1) -12(1)O(3) 29(1) 26(1) 30(1) -15(1)-13(1) 1(1) 25(1) 28(1) O(6) 23(1)-4(1)-2(1)-7(1)-12(1) -12(1)18(1) 25(1) 38(1) 2(1)O(13) O(4) 21(1) 21(1) 48(2) -18(1) -1(1)-4(1) 31(1) 25(1) O(8) 22(1)34(1) -12(1)-3(1)-12(1)28(1) -17(1) O(17) 34(1) -4(1)-8(1)0(7) 24(1) 24(1) -7(1) -6(1) 32(1) -2(1) O(9) 31(1) 33(1) 47(2) -16(1) -1(1) -15(1)N(2) 18(1) 19(1) 28(1) -13(1)2(1)-6(1) 20(1) 26(1) 30(2) 1(1)-14(1)N(1) -11(1)23(1) 19(1) 39(1) 36(1) -6(1) -12(1) O(18) 69(2) -29(1) -6(1) O(14) 52(2) -24(1)8(1) O(1)57(2) 31(1) 26(1) -1(1) -10(1)-13(1) O(2)53(2) 31(1) 34(1) -6(1) -21(1) 3(1) 18(1) C(36) 17(2)23(2)-5(1)-1(1)-7(1)20(2) -7(1) 0(1)-10(1) C(45) 19(2) 29(2) 20(2) C(7) 17(2) 26(2) -10(1) 2(1) -7(1) O(5)32(1) -7(1) 20(1)75(2) -26(1)-2(1)C(18) 17(1) -5(1) -4(1) 18(2) 27(2) -2(1)C(1) 34(2) -9(1) -5(2) -10(2)26(2) 28(2) C(41) 18(2) 23(2) 38(2) -15(1)-2(1)-5(1)C(9) 22(2)22(2) 25(2) -4(1)-1(1)-11(1)22(2) C(16) 22(2) 23(2) -6(1) 0(1)-9(1) C(37) C(11) 18(1) 18(2) -6(1) -9(1) -4(1) -2(1) -6(1) -7(1) 20(2)21(2) 24(2) 30(2) C(44) 18(2) 20(2) 28(2) -5(1) -3(1) -8(1) C(40) 20(2)26(2) 28(2) -12(1)-1(1) -7(1) C(32) 28(2) 22(2) 30(2) -6(1)-6(1)-9(1) 19(2) -9(1) C(6) 23(2) 26(2) -6(1) 1(1) O(10) 59(2) 47(2) 29(1) 9(1) -18(1) -22(1) C(33) 19(2) 23(2) 27(2)-4(1)-10(1)-3(1)C(38) 18(1) 19(2) 24(2) -6(1) -6(1) -5(1) C(5) 31(2) 23(2) 31(2) -10(1) 0(2) -12(1)C(19) 26(2) 23(2)30(2) -14(1)1(1)-10(1)30(1) 0(11) 55(2) -21(1)45(2) 10(1) -16(1)C(20) 23(2) 22(2) 28(2) -9(1) 1(1) -7(1) C(17) C(43) 22(2) 20(2) -6(1) -8(1) -2(1) -4(1) -8(1) -8(1) 21(2) 28(2) 18(2) 26(2) C(42) -7(1) -9(1) 24(2) 20(2) 33(2) -3(1) C(28) 33(2) 36(2) 26(2) -8(2) -1(2)-17(2)C(10) 21(2) 20(2) 24(2)0(1)-10(1)-8(1)C(13) 19(2) 26(2) 44(2) -14(2) -1(2) -7(1)C(47) 21(2)26(2) 26(2) -7(1) -1(1) -11(1)C(22) 38(2) 20(2) 27(2) -7(1) -9(2) -9(1) C(54) 30(2) 31(2) 35(2) -16(2) -1(2) -10(2)C(4) 30(2) 21(2) 31(2) -3(1)0(2) -9(1) C(21) 31(2) 22(2) 35(2) -5(1)-11(2)-11(1)C(15) 26(2) 20(2) 42(2) -13(1)-11(1)1(2) C(23) 37(2) 24(2) 26(2) -6(1) -8(2) -8(2) 25(2) 18(1) C(46) 22(2) 33(2) -15(1)-3(1)-10(1)C(34) 29(2) 16(2)-8(1) -3(1) -5(1)C(49) -10(2) 29(2) 31(2) 30(2) -16(2) -3(1)

Table 4. Anisotropic displacement parameters $(Å^2x \ 10^3)$ for 6068kwh. The anisotropic displacement factor exponent takes the form: $-2\pi^2 [h^2 \ a^{*2}U^{11} + ... + 2h \ k \ a^* \ b^* \ U^{12}]$

C(39)	20(2)	26(2)	44(2)	-14(2)	6(2)	-10(1)
C(48)	28(2)	30(2)	32(2)	-17(2)	0(1)	-10(2)
C(51)	36(2)	35(2)	52(2)	-26(2)	-6(2)	-9(2)
C(52)	34(2)	46(2)	46(2)	-24(2)	-6(2)	-20(2)
C(2)	29(2)	28(2)	26(2)	-6(1)	-1(1)	-7(1)
C(31)	31(2)	25(2)	37(2)	3(2)	-7(2)	-13(2)
C(35)	20(2)	27(2)	37(2)	-17(2)	0(1)	-6(1)
C(14)	23(2)	27(2)	55(2)	-18(2)	1(2)	-15(1)
C(24)	48(2)	23(2)	34(2)	-9(2)	-12(2)	-12(2)
C(8)	28(2)	35(2)	37(2)	-15(2)	-2(2)	-17(2)
C(29)	33(2)	40(2)	27(2)	1(2)	-4(2)	-19(2)
C(12)	21(2)	32(2)	64(3)	-23(2)	0(2)	-8(2)
C(50)	27(2)	33(2)	44(2)	-20(2)	-6(2)	-6(2)
C(53)	28(2)	41(2)	49(2)	-22(2)	-2(2)	-10(2)
C(25)	63(3)	34(2)	40(2)	-22(2)	9(2)	-18(2)
C(26)	53(3)	47(2)	47(2)	-22(2)	12(2)	-23(2)
C(27)	44(2)	35(2)	42(2)	-14(2)	2(2)	-18(2)
C(3)	67(3)	43(2)	41(2)	7(2)	-17(2)	-27(2)
C(30)	72(3)	39(2)	51(3)	5(2)	-30(2)	-17(2)
O(19)	26(1)	26(1)	39(2)	-4(1)	-3(1)	-10(1)

Table 5.	Hydrogen coordinates ($x \ 10^4$) and isotropic	displacement parameters (Å ^{2}x 10 ³)
for 6068kwł	1.	• • • • •

	Х	у	Z	U(eq)
H(57)	6050(50)	1070(30)	4900(30)	60(13)
H(58)	8930(40)	1100(20)	5620(20)	30(11)
H(55)	3920(40)	-3490(20)	5260(20)	28(10)
H(56)	1760(50)	-2490(30)	6720(30)	52(14)
H(45)	6898	1711	6227	26
H(7)	2025	-4326	6812	24
H(18)	3892	-2680	6661	25
H(1)	4337	-4638	9309	34
H(41)	2402	1879	7040	30
H(32)	8536	-2437	7009	31
H(5)	2739	-6297	7807	32
H(19)	5195	-3856	7654	29
H(42)	4680	1846	6506	30
H(28)	8420	-341	8709	35
H(54)	9971	1361	8183	36
H(15)	6141	-3417	6304	33
H(23)	5113	-872	8219	34
H(46)	6340	863	7505	29
H(34)	8663	-643	5854	24
H(39A)	821	-414	6622	35
H(39B)	1206	-952	7538	35
H(52)	10297	3706	8794	45
H(35A)	7616	-2317	5264	32
H(35B)	8944	-2252	5615	32
H(35C)	8320	-1501	4816	32
H(14)	8517	-4311	6213	38
H(8C)	2531	-6287	5947	36
H(8B)	1670	-5168	5744	36
H(8A)	1544	-5786	6650	36
H(12Å)	9731	-7616	6327	44
H(12B)	9559	-7088	5386	44
H(50)	6616	3753	8130	40
H(53)	11280	2126	8634	45
H(25)	2091	356	9828	53

H(26)	1100	-876	9987	56
H(27)	2102	-2102	9258	46
H(3A)	4641	-7745	10085	59
H(3B)	3163	-7443	10602	59
H(30B)	11108	-3402	9106	65
H(30A)	9844	-3685	9690	65
H(59)	1760(50)	-2270(30)	5500(30)	61(15)
H(60)	1780(60)	-1310(40)	5450(30)	100(20)

Table 6. Torsion angles [°] for 6068kwh.

C(35)-N(2)-C(36)-O(12)	9 0(4)	O(7)-C(18)-C(19)-C(20)	68.2(3)
C(34)-N(2)-C(36)-O(12)	-179 5(3)	C(17)-C(18)-C(19)-C(20)	-51 6(3)
C(35)-N(2)-C(36)-C(37)	-1675(3)	C(2)-C(1)-C(20)-C(6)	-0.5(5)
C(34)-N(2)-C(36)-C(37)	4 0(4)	C(2)-C(1)-C(20)-C(19)	-1746(3)
C(9)-N(1)-C(7)-C(6)	-82.6(3)	C(5)-C(6)-C(20)-C(1)	1 7(5)
C(8)-N(1)-C(7)-C(6)	103.5(3)	C(7)-C(6)-C(20)-C(1)	179 6(3)
C(9)-N(1)-C(7)-C(17)	43.7(4)	C(5)-C(6)-C(20)-C(19)	175.8(3)
C(8)-N(1)-C(7)-C(17)	-130.2(3)	C(7)-C(6)-C(20)-C(19)	-6.4(5)
C(8)-N(1)-C(9)-O(3)	-7.6(5)	O(8)-C(19)-C(20)-C(1)	-44.6(4)
C(7)-N(1)-C(9)-O(3)	178.6(3)	C(18)-C(19)-C(20)-C(1)	-165.1(3)
C(8)-N(1)-C(9)-C(10)	169.0(3)	O(8)-C(19)-C(20)-C(6)	141.2(3)
C(7)-N(1)-C(9)-C(10)	-4.8(4)	C(18)-C(19)-C(20)-C(6)	20.7(4)
O(12)-C(36)-C(37)-C(38)	20.0(4)	C(15)-C(16)-C(17)-O(6)	92.1(4)
N(2)-C(36)-C(37)-C(38)	-163.5(3)	C(10)-C(16)-C(17)-O(6)	-88.3(3)
O(12)- $C(36)$ - $C(37)$ - $C(43)$	-152.8(3)	C(15)-C(16)-C(17)-C(7)	-150 5(3)
N(2)-C(36)-C(37)-C(43)	237(4)	C(10)- $C(16)$ - $C(17)$ - $C(7)$	29 1(4)
C(12)-O(4)-C(11)-C(10)	175.4(3)	C(15)-C(16)-C(17)-C(18)	-31.0(4)
C(12)-O(4)-C(11)-C(13)	-8 2(4)	C(10)- $C(16)$ - $C(17)$ - $C(18)$	148 7(3)
O(16)-C(45)-C(44)-O(15)	-58.8(3)	N(1)-C(7)-C(17)-O(6)	66 7(3)
C(46)-C(45)-C(44)-O(15)	-1777(2)	C(6)-C(7)-C(17)-O(6)	-1672(2)
O(16)-C(45)-C(44)-C(43)	1763(2)	N(1)-C(7)-C(17)-C(16)	-540(3)
C(46)-C(45)-C(44)-C(43)	574(3)	C(6)-C(7)-C(17)-C(16)	72.1(3)
O(16)-C(45)-C(44)-C(34)	54 8(3)	N(1)-C(7)-C(17)-C(18)	-177.6(2)
C(46)-C(45)-C(44)-C(34)	-642(3)	C(6)-C(7)-C(17)-C(18)	-515(3)
C(39)-O(14)-C(40)-C(41)	174.5(3)	O(7)-C(18)-C(17)-O(6)	64.1(3)
C(39)-O(14)-C(40)-C(38)	-7.0(3)	C(19)-C(18)-C(17)-O(6)	-178.7(2)
C(42)-C(41)-C(40)-O(14)	176.2(3)	O(7)-C(18)-C(17)-C(16)	-171.4(2)
C(42)-C(41)-C(40)-C(38)	-2.1(5)	C(19)-C(18)-C(17)-C(16)	-54.2(3)
N(1)-C(7)-C(6)-C(20)	147 9(3)	O(7)-C(18)-C(17)-C(7)	-50.0(3)
C(17)-C(7)-C(6)-C(20)	22.9(4)	C(19)-C(18)-C(17)-C(7)	67.3(3)
N(1)-C(7)-C(6)-C(5)	-34.2(4)	C(38)-C(37)-C(43)-C(42)	-1.7(4)
C(17)-C(7)-C(6)-C(5)	-159.1(3)	C(36)-C(37)-C(43)-C(42)	171.5(3)
C(31)-C(32)-C(33)-C(47)	-2.9(5)	C(38)-C(37)-C(43)-C(44)	178.3(3)
C(31)-C(32)-C(33)-C(34)	170.6(3)	C(36)-C(37)-C(43)-C(44)	-8.6(4)
C(39)-O(13)-C(38)-C(37)	-178.4(3)	O(15)-C(44)-C(43)-C(42)	-93.0(3)
C(39)-O(13)-C(38)-C(40)	5.9(3)	C(34)-C(44)-C(43)-C(42)	150.3(3)
C(43)-C(37)-C(38)-O(13)	-176.4(3)	C(45)-C(44)-C(43)-C(42)	30.6(4)
C(36)-C(37)-C(38)-O(13)	10.5(5)	O(15)-C(44)-C(43)-C(37)	87.1(3)
C(43)-C(37)-C(38)-C(40)	-1.2(4)	C(34)-C(44)-C(43)-C(37)	-29.7(4)
C(36)-C(37)-C(38)-C(40)	-174.3(3)	C(45)-C(44)-C(43)-C(37)	-149.3(3)
O(14)-C(40)-C(38)-O(13)	0.6(3)	C(37)-C(43)-C(42)-C(41)	2.7(5)
C(41)-C(40)-C(38)-O(13)	179.2(3)	C(44)-C(43)-C(42)-C(41)	-177.2(3)
O(14)-C(40)-C(38)-C(37)	-175.4(3)	C(40)-C(41)-C(42)-C(43)	-0.8(5)
C(41)-C(40)-C(38)-C(37)	3.2(5)	O(4)-C(11)-C(10)-C(16)	175.1(3)
C(20)-C(6)-C(5)-C(4)	-0.3(5)	C(13)-C(11)-C(10)-C(16)	-0.9(5)
C(7)-C(6)-C(5)-C(4)	-178.2(3)	O(4)-C(11)-C(10)-C(9)	-10.5(5)
C(21)-O(8)-C(19)-C(18)	-83.4(3)	C(13)-C(11)-C(10)-C(9)	173.5(3)
C(21)-O(8)-C(19)-C(20)	153.4(3)	C(15)-C(16)-C(10)-C(11)	3.6(4)
O(7)-C(18)-C(19)-O(8)	-52.2(3)	C(17)-C(16)-C(10)-C(11)	-176.0(3)
C(17)-C(18)-C(19)-O(8)	-172.0(2)	C(15)-C(16)-C(10)-C(9)	-170.9(3)

C(17)-C(16)-C(10)-C(9)	9.5(4)	C(54)-C(49)-C(48)-O(17)	-5.3(5)
O(3) - C(9) - C(10) - C(11)	-21.4(5)	C(50)-C(49)-C(48)-O(17)	172.8(3)
N(1)-C(9)-C(10)-C(11)	162.0(3)	C(50) - C(51) - C(52) - C(53)	-1.8(6)
O(3)-C(9)-C(10)-C(16)	152.8(3)	$C_{1}(2) - C_{1}(51) - C_{1}(52) - C_{1}(53)$	179 2(3)
N(1) C(0) C(10) C(16)	23.0(3)	C(20) C(1) C(22) C(33)	2 1(5)
C(12) O(5) C(12) C(14)	-23.9(4)	C(20) - C(1) - C(2) - C(4)	-2.1(3) 170 2(2)
C(12) - O(3) - C(13) - C(14)	-1/5.0(4)	C(20)-C(1)-C(2)-O(1)	27(6)
C(12)-O(5)-C(13)-C(11)	8.8(4)	C(5)-C(4)-C(2)-C(1)	3.7(6)
O(4)-C(11)-C(13)-O(5)	-0.4(4)	O(2)-C(4)-C(2)-C(1)	-176.6(3)
C(10)-C(11)-C(13)-O(5)	176.3(3)	C(5)-C(4)-C(2)-O(1)	-177.4(3)
O(4)-C(11)-C(13)-C(14)	-178.2(3)	O(2)-C(4)-C(2)-O(1)	2.4(4)
C(10)-C(11)-C(13)-C(14)	-1.5(5)	C(3)-O(1)-C(2)-C(1)	-171.7(4)
C(32)-C(33)-C(47)-C(28)	2.3(5)	C(3)-O(1)-C(2)-C(4)	9.5(4)
C(34)-C(33)-C(47)-C(28)	-171.0(3)	C(33)-C(32)-C(31)-O(11)	179.1(3)
C(32)-C(33)-C(47)-C(46)	-174.1(3)	C(33)-C(32)-C(31)-C(29)	0.5(5)
C(34)-C(33)-C(47)-C(46)	12.6(5)	C(30)-O(11)-C(31)-C(32)	169.1(4)
C(29)-C(28)-C(47)-C(33)	0.8(5)	C(30)-O(11)-C(31)-C(29)	-12.1(4)
C(29)-C(28)-C(47)-C(46)	177.3(3)	O(5)-C(13)-C(14)-C(15)	-176.2(3)
C(6)-C(5)-C(4)-C(2)	-2.4(5)	C(11)-C(13)-C(14)-C(15)	1.2(5)
C(6)-C(5)-C(4)-O(2)	178.0(3)	C(16)-C(15)-C(14)-C(13)	15(5)
C(3)-O(2)-C(4)-C(5)	166 5(4)	C(22)-C(23)-C(24)-C(25)	-0.9(5)
C(3) - O(2) - C(4) - C(2)	-13.2(4)	C(22) = C(23) = C(24) = C(11)	1799(2)
C(19) - O(2) - C(21) - O(9)	-13.2(4)	C(22) - C(23) - C(24) - C(1) C(47) - C(28) - C(29) - C(31)	-3 A(5)
C(19) - O(8) - C(21) - O(9)	-0.1(+)	C(47) - C(28) - C(29) - C(31)	-5.4(5) 170 8(2)
C(17) - O(8) - C(21) - C(22)	171.0(2) 177.2(2)	C(47) - C(28) - C(29) - O(10)	-1/9.8(3)
C(27)- $C(22)$ - $C(21)$ - $O(9)$	-1/(.2(3))	C(32)-C(31)-C(29)-C(28)	2.8(0)
C(23)-C(22)-C(21)-O(9)	3.2(5)	O(11)-C(31)-C(29)-C(28)	-1/6.0(3)
C(27)- $C(22)$ - $C(21)$ - $O(8)$	3.0(5)	C(32)-C(31)-C(29)-O(10)	1/9.8(3)
C(23)-C(22)-C(21)-O(8)	-1/6.5(3)	O(11)-C(31)-C(29)-O(10)	1.0(4)
C(10)-C(16)-C(15)-C(14)	-4.0(5)	C(30)-O(10)-C(29)-C(28)	-1/2.6(4)
C(17)-C(16)-C(15)-C(14)	175.6(3)	C(30)-O(10)-C(29)-C(31)	10.6(4)
C(27)-C(22)-C(23)-C(24)	0.4(5)	C(13)-O(5)-C(12)-O(4)	-13.7(4)
C(21)- $C(22)$ - $C(23)$ - $C(24)$	-179.9(3)	C(11)-O(4)-C(12)-O(5)	13.5(4)
C(48)-O(17)-C(46)-C(45)	87.6(3)	C(54)-C(49)-C(50)-C(51)	-0.2(5)
C(48)-O(17)-C(46)-C(47)	-148.9(3)	C(48)-C(49)-C(50)-C(51)	-178.3(3)
O(16)-C(45)-C(46)-O(17)	53.5(3)	C(52)-C(51)-C(50)-C(49)	0.9(6)
C(44)-C(45)-C(46)-O(17)	174.2(2)	Cl(2)-C(51)-C(50)-C(49)	179.9(3)
O(16)-C(45)-C(46)-C(47)	-67.0(3)	C(51)-C(52)-C(53)-C(54)	1.8(6)
C(44)-C(45)-C(46)-C(47)	53.7(3)	C(49)-C(54)-C(53)-C(52)	-1.1(6)
C(33)-C(47)-C(46)-O(17)	-148.3(3)	C(23)-C(24)-C(25)-C(26)	1.0(6)
C(28)-C(47)-C(46)-O(17)	35.2(4)	Cl(1)-C(24)-C(25)-C(26)	-179.8(3)
C(33)-C(47)-C(46)-C(45)	-27.1(4)	C(24)-C(25)-C(26)-C(27)	-0.7(6)
C(28)-C(47)-C(46)-C(45)	156.4(3)	C(23)-C(22)-C(27)-C(26)	-0.1(5)
C(36)-N(2)-C(34)-C(33)	86.3(3)	C(21)-C(22)-C(27)-C(26)	-179.7(3)
C(35)-N(2)-C(34)-C(33)	-102.2(3)	C(25)-C(26)-C(27)-C(22)	0.2(6)
C(36)-N(2)-C(34)-C(44)	-42.4(4)	C(4)-O(2)-C(3)-O(1)	19.3(4)
C(35)-N(2)-C(34)-C(44)	129.2(3)	C(2)-O(1)-C(3)-O(2)	-17.9(4)
C(47)-C(33)-C(34)-N(2)	-151.1(3)	C(31)-O(11)-C(30)-O(10)	18.7(4)
C(32)-C(33)-C(34)-N(2)	35.5(4)	C(29)-O(10)-C(30)-O(11)	-18.0(4)
C(47)-C(33)-C(34)-C(44)	-24.7(4)		× /
C(32)-C(33)-C(34)-C(44)	161.8(3)	Summetry transformations u	sed to generate equivalant
O(15)-C(44)-C(34)-N(2)	-67.3(3)	atoms.	see to generate equivalent
C(43)-C(44)-C(34)-N(2)	53.2(3)	atoms.	
C(45)-C(44)-C(34)-N(2)	176.8(2)		
O(15)-C(44)-C(34)-C(33)	1647(2)		
C(43)-C(44)-C(34)-C(33)	-749(3)		
C(45)-C(44)-C(34)-C(33)	48 8(3)		
C(53)- $C(54)$ - $C(49)$ - $C(50)$	0 3(5)		
C(53)-C(54)-C(49)-C(50)	178 A(2)		
C(40) O(14) C(20) O(12)	1/0.4(3) 10.5(2)		
C(40) - O(14) - C(39) - O(13)	10.3(3)		
C(38) - O(13) - C(39) - O(14)	-10.1(3)		
C(46) - O(17) - C(48) - O(18)	4.4(5)		
C(40) - O(17) - C(48) - C(49)	-1/0.2(3)		
C(54)-C(49)-C(48)-O(18)	1/4.1(3)		
C(50)-C(49)-C(48)-O(18)	-7.8(5)		

主論文目録

本学位論文は下記の発表論文による。

Konno, F.; Ishikawa, T.; Kawahata, M.; Yamaguchi, K.: Concise Synthesis of Arnottin I and (-)-ArnottinII *J. Org. Chem.* **71**, 9818-9823 (2006).

主査	千葉大学教授	(薬学研究院)	薬学博士	西田 篤司
副査	千葉大学教授	(薬学研究院)	薬学博士	濱田 康正
副査	千葉大学教授	(薬学研究院)	薬学博士	高山 廣光
副査	千葉大学教授	(薬学研究院)	理学博士	石橋 正己